

平成30年度事業報告書

(平成30年7月1日から平成31年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

1 事業年度内の理事会・総会開催概要

①理事会

- ・平成30年9月22日

開催場所：三日市ラボ（雲南市木次町木次29；以下同）

出席者数：理事3名、監事1名（理事人数 4名）

議決事項の概要：第5期事業報告及び収支決算について
理事候補の選任について
監事候補の選任について
定時社員総会の招集について

- ・平成30年9月28日

開催場所：三日市ラボ

出席者数：理事3名（うち表決委任者1名）、監事1名（理事人数 3名）

議決事項の概要：代表理事・副代表理事の選定
役員の職務と報酬について
事務局の組織及び運営
その他、第7期事業方針について意見交換

- ・令和元年5月23日

開催場所：三日市ラボ

出席者数：理事3名、監事1名（理事人数 3名）

議決事項の概要：第6期事業報告及び決算について
第7期事業計画及び予算案について
定時社員総会の招集について

②総会

- ・平成30年9月28日

開催場所：三日市ラボ

出席者数：9名（うち表決委任者2名）／正会員数 11名

議決事項の概要：事業報告及び決算について
定款の変更について
理事の選任について
監事の選任について

- ・令和元年5月29日

開催場所：三日市ラボ

出席者数：8名（うち表決委任者2名）／正会員数 11名

議決事項の概要：第6期収支決算について

2 事業の概要および成果

別紙参照

3 事業の実施に関する事項

①特定非営利活動に係る事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	受益 対象者数	事業費 (単位：円)
課題解決型 人材育成・ 確保事業	雲南 市内	H30. 4. 6～H31. 3. 31	4名	60名	経常収益 16,123,603 経常費用 ▲17,673,967 収支合計 <u>△1,550,364</u>
Career for 事業	雲南 市内	H30. 4. 1～H31. 3. 31	2名	20名	経常収益 1,461,385 経常費用 ▲3,333,344 収支合計 <u>△1,871,959</u>
コミュニテイ ナース事業	雲南 市内	H29. 12. 6～H31. 3. 31	3名	1000名	経常収益 11,201,680 経常費用 ▲9,120,679 収支合計 <u>2,081,001</u>

以上のほか、次の事業を実施した。

	視察事業	研修事業
経常収益	525,200	1,742,245
経常費用 (人件費除く)	▲0	▲1,134,625
収支合計	525,200	607,620

②その他事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	受益 対象者数	事業費 (単位：円)
三日市ラボ 管理事業	雲南 市内	H30. 4. 1～H31. 3. 31	1名	300名	経常収益 456,500 経常費用 ▲29,644 収支合計 <u>△426,856</u>

以上のほか、次の事業を実施した。

	商品販売事業
経常収益	85,800
経常費用 (人件費除く)	▲116,495
収支合計	△30,695

別紙

特定非営利活動法人おっちラボ 第6期活動報告書 (平成30年7月～平成31年3月)

【目次】

- A. 総括
- B. 課題解決型人材育成事業
- C. 三日市ラボ管理事業
- D. Career for事業
- E. コミュニティナース事業

A. 総括

第6期にあたる今期は、幸雲南塾等を運営する課題解決型人材育成事業や三日市ラボの管理事業に加え、前期に引き続き、都市部と地域との間での人材の還流を目指すCareer For事業に参画した。また、幸雲南塾第7期生でもあるコミュニティナースの取り組みを雲南市内でさらに展開するため、コミュニティナース2名を雇用した。

- 課題解決型人材育成事(下記B参照)昨年度の振り返りを踏まえ、今年度、①コーディネーターは「つながりをつくる」ことを強みとし、塾生にとって多くの良い出会いを作り出すことを役割と定義し、②行政や企業の垣根を超越して、雲南に暮らす人たちと協働すること、チャレンジが「連鎖」していくようにより多くの市民と混ざる場を設計し、市民の想いが形になるように関係機関との連携を目指した。

①については、8期目を迎えた「幸雲南塾2018」では「幸雲南塾START」を設置し、塾生がつながりの中から学びを得られるよう設計し、「幸雲南塾アカデミー」における51名の新規参加者とあいまって、塾生と市民とのつながりを創出できた。②については、スペシャルチャレンジ・ホープ事業において金融機関、商工会などが協働してローカルチャレンジャーを支援する枠組みが走り出すとともに、防災と多文化共生での関係機関が参加する円卓会議の開催、企業チャレンジを契機とする市内研究機関とのコミュニケーション増加など、「連携」の機会が確実に増加してきている。

次のステップとして、次年度のスペシャルチャレンジ・ホープ事業において、採択者の取り組む領域での関係機関を集めた会議体を組成し、課題の深掘りとシステムとしての課題解決支援に挑戦したいと考えている。

- 三日市ラボ管理事業(下記C参照)では、前期から引き続き、新規客2組を含めた利用者の仕事の場としての活用がなされた。また、コワーキングスペースの利用は年間1700名を超え、市内外のチャレンジャーが繋がり、取り組みを実践していくきっかけの場となった。
- Career For事業(下記D参照)では、都市部人材を地域活性に活かしている地域と連携し、市役所や関係者間で「人材機能」の重要性の認識を高めることができ、また雲南における都市部企業人材活用戦略の検討が進んだ。

- コミュニティナース事業(下記E参照)は、コミュニティナースが配置された波多・新市各地区において、ナースと住民との関係構築が進み、住民の健康につながる変化の兆しが見えてきた。また事業費を確保するため、ふるさと納税による大型の資金調達に挑戦し、最終的に1200万円を超える寄附を獲得した。
- 全体として、個々のチャレンジの支援メニューは揃い、チャレンジャーの層も厚くなった。さらにチャレンジと成果を促進するため、生態系の強化と資金循環創出に踏み出した。
- これを踏まえ、2019年度は「市民との共創・協働」を柱として、チャレンジャーの取組みに多くの市民が関わっていく仕掛けにトライする。

B. 課題解決型人材育成事業

1. 事業のねらい

雲南市は、平成27年度から平成36年度までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」及びこれを基に策定した「まち・ひと・しごと創生 雲南市総合戦略」において、若者や地域自主組織等による地域課題解決に向けた取り組みを促進し、多様な人材や団体等が課題解決にチャレンジする総働のまちづくりを推進することとしている。子どもから若者、シニア世代まであらゆる世代を通してチャレンジに優しいまちを目指している。

雲南市をはじめ多くの地方で、課題解決や仕事の創生等による持続可能な地域づくりの推進や定住対策などの重要性が高まっている。その中でも、20～30代の若者世代は地方創生の即戦力として活躍が期待されている一方、就学や就職で市外へ流出する割合も高くなっている。若者世代にとって魅力的なまちづくりに取り組み、雲南市で課題解決にチャレンジしたいと思う若者を増やしていくことが重要である。

地域づくりや地域の課題解決を、実践を通して学ぶ幸雲南塾は、県内でも先進的な取り組みとして、2011年に第1期がスタートして以降、昨年度までに延べ125名の卒業生(ラボアカデミー修了者を含む)を輩出してきた。今年度も、幸雲南塾を開講して引き続き地域課題にチャレンジする若者を発掘・育成した。

また雲南市が今年度から開始したスペシャルチャレンジ制度(ホープ)の事務局として、事業化や新規事業開発を目指す同制度採択者を対象として、金融機関やアドバイザーとともに伴走(補助)を行った。

さらに、ローカルベンチャー推進協議会の雲南市におけるローカル事務局機能を担い、雲南市におけるベンチャー育成の土壌づくりや、都市部の起業家人材と雲南市の地域課題とのマッチングを図った。

2. 前年度までの実績

平成23(2011)年度 雲南市が主催する次世代育成事業『幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～』として開講。
社会起業や地域貢献を志す若者の企画立案と実践をサポート。

第1期(13名卒業)

平成24(2012)年度 第2期(11名卒業)

平成25(2013)年度 第3期(11名卒業)、塾の卒業生による任意団体「おっちラボ」設立

平成26(2014)年度 第4期(25名卒業)、NPO法人おっちラボ設立

平成27(2015)年度 第5期 幸雲南塾(4組6名卒業)、ラボアカデミー(9名修了)

平成28(2016)年度 第6期(2016年5月～2017年2月)

幸雲南塾(3組6名卒業)ラボアカデミー(14名修了)

平成29(2017)年度 第7期(2017年6月～2018年1月)

幸雲南塾(4法人11名卒業)

平成30(2018)年度 第8期(2018年6月～2019年1月)

幸雲南塾(1名)幸雲南塾START(6組7名)

平成23年度に市が次世代育成事業として始めた『幸雲南塾～地域プロデューサー育成講座～』は、今年度で8期目を迎える。平成25年に塾の卒業生たちが塾生を相互支援する仲間のネットワーク強化のため立ち上げた任意団体「おっちラボ」は、平成26年にNPO法人化し、同年より幸雲南塾の事務局を担っている。

<卒業生の活躍>

2017年度末時点で4法人81名(ラボアカデミー修了者を加えると延べ125名)の卒業生を輩出した。卒業生たちは、幸雲南塾のプレセミナーで事例発表を行ったり、県外からの視察があった際に活動報告を行ったり、現役塾生の相談に乗ったりと、幸雲南塾のサポーターとして幅広く活躍している。

また、卒業生同士のネットワークによって自分たちの活動の課題解決を行うなど、相互に支援し合う関係性も継続している。さらに、今年度は、卒業生が再度幸雲南塾に入塾し、進めている事業のさらなる進化を目的に切磋琢磨する動きもあり、幸雲南塾がチャレンジのプラットフォームとなっているように感じている。

<プログラムのリニューアル>

第4期までの幸雲南塾は、一本のプログラムで実施してきたが、参加者のニーズが幅広いことから、2015年からは、伴走型人材育成プログラム『幸雲南塾』と地域づくりのはじめの一步を踏み出す定例勉強会『アカデミー』といった複数のプログラムを実施するスタイルとなった。

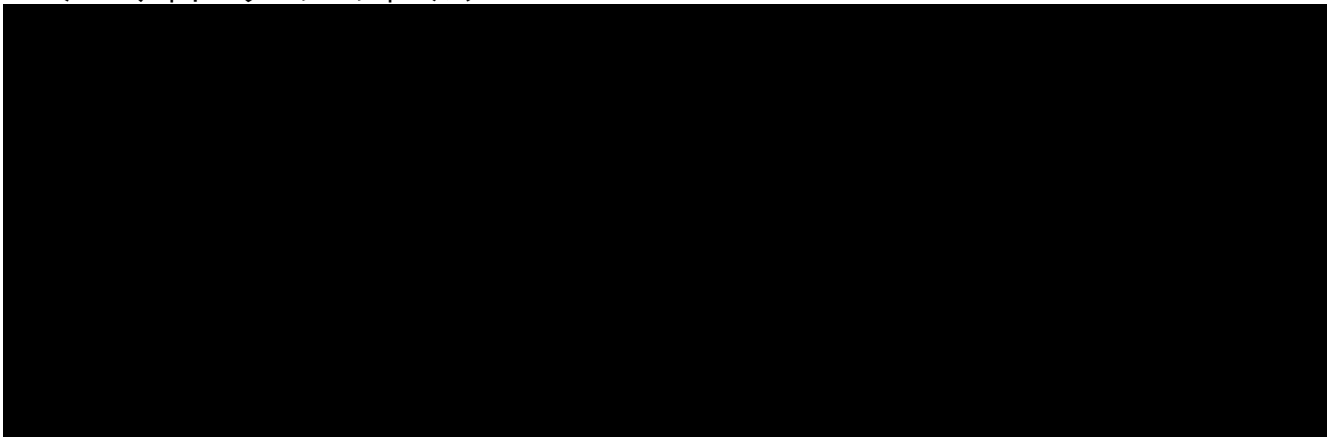
今年度はよりチャレンジの進んでいる参加者に注力するためにも、プログラムを再構築し、チャレンジを始めたての層に対する事務局の関わり方を明確化させた。今期の幸雲南塾2018では、個別伴走支援を通じ実践家を目指す『幸雲南塾』と、オンラインコミュニティを含む塾生相互の相談や支援を中心とした『幸雲南塾START』、塾生以外も参加できて広く学習や交流機会を創出する『幸雲南塾アカデミー』の3本立てで開講した。また、NPO法人ETIC.が主催をするローカルベンチャー推進協議会も活用し、都市部人材とともにプランを磨きあげる機会を創出し、チャレンジャーがより広い視野で、幅広い人材と出会い関わる機会を作ることを実施した。

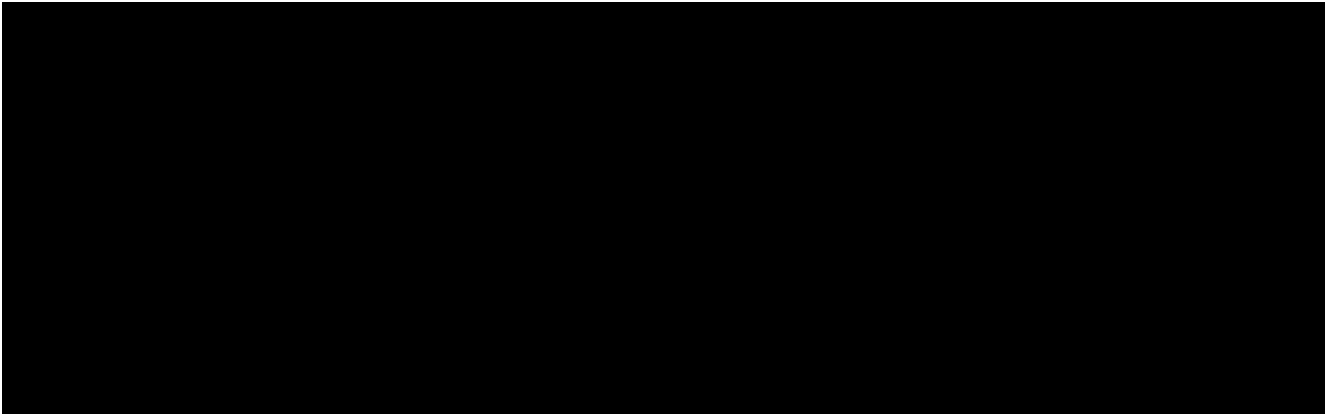
3. 事業実施体制

(1)コーディネーター

一昨年度より、市民への若者のチャレンジに対する理解を促し、それまでの経験で培われた多様なスキルを活かし、活動するコーディネーターを配置した。本年度もこの体制を継続し、ファンドレイジング・マネタイズ・組織基盤構築・組織運営などを手がける人材を誘致し配置することで若者チャレンジを支援する中間支援組織としてのサポート力を強化した。また、若者チャレンジ支援コーディネーターに加え、ファンドレイジング・マネタイズなどのノウハウは外部アドバイザーとの連携により、充実した体制を整備した。

<コーディネータープロフィール>





(2)外部アドバイザー

<外部アドバイザープロフィール>

a. ファンドレイジング(資金調達)、組織マネジメント等のアドバイザー



b. マネタイズ(収益事業化)のアドバイザー



4. 事業実施内容とその成果

平成30年度は、以下の事業を実施した。※各項目について報告書末に書類を添付

- 4.1. 人材育成プログラム(幸雲南塾2018・幸雲南塾START)の企画運営
- 4.2. 幸雲南塾アカデミー(有志勉強会)の企画・運営
- 4.3. スペシャルチャレンジ・ホープの伴走支援
- 4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務
- 4.5. 実践型インターンシップの活用
- 4.6. コーディネーターの支援力向上

4.1. 人材育成プログラム(幸雲南塾2018・幸雲南塾START)の企画・運営

本年は参加者のニーズや活動・事業の状態に合わせて2つのプログラムを実施した。

「幸雲南塾」は、昨年に引き続き伴走型人材育成プログラムとして、塾生1組につき、当NPO法人のスタッフが担当コーディネーターとして、4ヶ月から8ヶ月間伴走支援を行う予定であった(理由については後述)。

「幸雲南塾START」は主に地域課題解決プレイヤーの掘り起こしとつながりを目的に、模索期、試行期の段階の塾生を対象とした。内容は、2ヶ月に1回程度の塾生同士の報告・意見交換の場の提供や、日々の活動を報告し合ったり情報交換の場としてFacebookのグループページを活用したコミュニティ支援、また、幸雲南塾アカデミーでの勉強会やSTART生に関連する分野の他団体主催イベントなど、機会参加を促す等の支援を行った。

いずれも各塾生の事業・活動が自ら思い描く状態に到達するまで「成果を出し続けられる状態」になることを目指す、実践家育成の塾として開講した。

塾生の募集に関して、今期は「幸雲南塾2018開講特別講座」として事前説明会を実施した。説明会参加者は自分のプランの「地域に生み出したいインパクト(課題の重要性・緊急性、受益者数、他地域への波及性などの要素から総合的に判断)」と「達成に向けた本気度」を内省して、入塾するかどうか、入塾の場合どのプログラムにするかを選択し、事務局はそれに基づき参加者との関わり方を検討するという、相互選考を行った。

その結果、事前説明会に参加した受講候補者13組と個別相談者2組から、7組を塾生として選出した(幸雲南塾:1組、幸雲南塾START:6組)。

今期は、東京と雲南の2拠点で活動することで双方の地域に好影響を与えようとする塾生や、地域で経営してきた事業をより社会貢献性の高いものにしたいとチャレンジする塾生が誕生するなど、地域にチャレンジがより根ざし、広がってきていることが感じられた。

<事業のねらい>

- (1)社会起業家や地域貢献を志す若い人材の発掘及び育成
- (2)若い人材の育成による地域課題の継続的な解決

<塾生> 幸雲南塾:1組、幸雲南塾START:6組

【実施内容】

月	日	取り組み実施内容
5月	25日 (金)	幸雲南塾説明会(1) 目的:①今年度のプログラムや協働内容を伝える ②チャレンジャーと出会う
5月	27日 (日)	幸雲南塾説明会(2) 同上
6月	9日 (土)	幸雲南塾2018開講特別講座 目的:①入塾選考会(健やかな自己決定) ②想いを整理する、言語化する ③参加者のコミュニティ拡大 パネルディスカッション:「雲南でチャレンジを応援し合う関係性から起きること、これから起きるといいこと」

		講義 :「自分らしいチャレンジとは何か」 ワーク:チャレンジのシェア
6月	22日	幸雲南塾STARTオリエンテーション 目的:①塾生同士が混ざり合う場の提供 ②STARTで実施する内容の再確認 ③塾生の次の行動に繋げる(ネクストアクション宣言)
8月	31日	幸雲南塾START進捗報告会①
10月	27日	幸雲南塾START進捗報告会② 目的:①開講講座時の「一年後の理想」に対する自分の現在の立ち位置・方向性を確認 ②プランの周知と理解者・協力者の獲得 ③ネクストステップの具体化・やる気を起こす ゲストより活動紹介:西粟倉村での取り組み グループセッション:参加者も交えて塾生のプランブラッシュアップ
12月 ~1月		幸雲南塾2018最終報告会に向けた発表練習
2019年 1月	26日	幸雲南塾2018最終報告会 目的:(塾生にとって) ①発表完遂による達成感 ②次への意欲が湧く ③次のアクションイメージが得られる ④応援者・協力者と繋がる (参加者にとって) ①課題に気づく ②興味関心を持つ ③課題について自身も行動する→塾生の応援・手伝いなど 塾生発表:START生6組 囲み取材コーナー:塾生を囲み、参加者が質疑応答 対談コーナー:先輩チャレンジャーの取り組みについてきっかけ・内容・うまくいかなかったことなどをモデレーター(友廣氏)が掘り下げ

<プランと成果>

今期の塾では、2プログラム7組の塾生に対し、当NPO法人のスタッフがコーディネーターとして支援した。

(1) (幸雲南塾)

【プラン:地域の起業家創出、事業の開発(観光)と人材の育成(地域医療)】

一人でも多くの方が自分の内発的動機から生まれるやりたいことを見つけ、イキイキと生き続けられる世界を創りたい。起業家を生み出すことを軸に、経済的価値・社会的価値・情緒的価値が並立する事業を作ることを目指して入塾。当地へも二度足を運ぶなど活動していたが、その後諸事情により休止。

(2) (幸雲南塾START)

【プラン:地域資源を使った体験や交流で楽しみながら殿居敷自治会のファンを増やす】

これまで田舎体験の受け入れをする中で、交流を通して体験者・地域住民の双方が元気になっていくのを目にしてきた。交流で一緒に楽しみ行動することで、体験者にとっては移住を考えるきっかけに、地域住民にとっては改めて自分の地域を考える機会となり、その結果地域活性化につながることを目指した。事情により空き家の整備は叶わなかったが、コンスタントに県外・市内の方々の滞在拠点としたり高校生との協働米作りをするなどして、地域住民と地域外の人との交流に結びつき、空き家整備に向けて弾みとなる一年となった。

(3) ■■■■■ (幸雲南塾START)

【プラン: 移住ハウスでいじめや差別のない多様性のある日本に】

プランで達成したいことは、多様な人が無料で泊まることができる「移住ハウス」を雲南に作ることである。13ヶ国の子どもたちと関わるボランティア活動等の経験から、いじめや差別は他者との違いを受け入れられない時に起こりやすいと考え、プラン設計に至った。今年度は、都市部や外国の方たちを対象に、トライアルで雲南ツアーを4回行った。また、空き家探しやツアー参加及び雲南をアピールするため東京でのイベント活動も合計20回開催し、次年度のツアーやお試し移住に対象者を繋げるための関係性構築に重点を置き活動した。

(4) ■■■■■ (幸雲南塾START)

【プラン: 認知症を患っても安心でき自分らしくいきいき暮らせる地域をつくる】

25年間の福祉の仕事のなかで、認知症を患う人が受け入れられない場面を多く目にしてきた。当初、認知症に特化した施設の立ち上げを目標にしていたが、地域サロン等で認知症当事者の方やご家族への認知症に関するヒアリングや、地域で勉強会・映画上映会の開催を行うなかで、従来のように専門職だけでケアをしてはいけないのではないかという考えに至った。ネクストアクションとしては(1)地域の方々へ認知症を自分ごとにするための働きかけ(2)認知症当事者の方との関係性をつくる等の働きかけを行う。次年度から(1)(2)の働きかけをすることで、認知症当事者の方の意見を取り入れたケアの方法を探っていく。

(5) ■■■■■ (幸雲南塾START)

【プラン: 新市地区で軽スポーツ”マツス”を通じて健康なつながりをつくる】

コミュニティナースとして地域に配属され、地域活動に参画しながら自身ならではの活動を模索していた。その中で地域住民が活動、ひいては暮らしを楽しみつつ、気が付いたらお互い助け合っていた、という地域を目指したいという理想を見出した。そのために、誰でも楽しめる介護予防の軽スポーツを高齢者向けサロンに取り入れ、自身が主導して月数回のペースで開催した。その結果、途絶えがちだった住民同士の繋がりが再構築され、自然と助け合う光景が地域にみられるようになった。

(6) ■■■■■ (幸雲南塾START)

【プラン: サロンや美容技術を通じて若者が一人でも多く輝く機会をつくる】

希望や誇りを持って働く若者たちが、低所得を余儀なくされている現状を改善したいと考えていた。経営するサロンのリニューアルに合わせ、県商工会連合会のアドバイザーや他の経営者、塾同期生と精力的に意見交換を行い、サロンに従事するスタッフの負担軽減や生産性の向上を図った。また美容業を志すも諸事情で美容学校に通えない若者に空き時間を利用して技術指導を行ったり、改修にあたり若い事業者や作家のアイデアを空間作りに柔軟に取り入れるなど、サロンを若者が活躍する舞台としても整え、平成31年2月9日にリニューアルオープンした。

5月にはサロンに併設して喫茶店も開業予定。

(7) ■■■■■ (幸雲南塾START)

【プラン: 小学校英語サポートでUNNANを英語力が自慢のフレンドリーなまちへ】

「授業としての英語」になった途端に英語が嫌いになってしまう生徒が多い。直接先生のサポートをすることで、間接的に学校の生徒たちの英語力向上やコミュニケーション力が向上することを目指して活動した。木次地区を中心に小学校の校長や教師にヒアリングし現場のニーズを直接拾い上げるとともに、彼らの課題感の多くは英語の発音と授業指導案づくりであると感じ、ALTボランティアや教師向け英語指導教室のプログラム開発を行いトライアルで実施した。今後もより現場に入り込んだサポートをするために校長先生を中心とした調整を継続する。

4.2. 幸雲南塾アカデミーの企画・運営

起業や事業を興すまでではないが、地域を良くする取り組みを学びたい・参画したい、というニーズに対応するため、地域を知る・学ぶ「はじめての一步」の場として、講義形式で学ぶ幸雲南塾アカデミーというケーススタディセミナーを実施した。

<事業のねらい>

- (1) ローカルチャレンジャーの活動の促進・拡大
- (2) ローカルチャレンジャーの裾野の拡大

大学のない雲南で、大人が学べる場が少ないという声があり、昨年度に引き続き、ローカルチャレンジャーの次の活動に繋げるための学びの場を設計した。今年度は、実際の仕事に即した実践の学びに重点を置いた場と、講義中や学んだ後に参加者との意見交換やディスカッションするなど発話機会を多くし参加者同士のコミュニケーションに重点を置いた場を設計した。

また、「チャレンジ」に対して敬遠する声があり、アカデミーを通して学び対話をし人と繋がることで、チャレンジに対する意識の変化をもたらすのではないかと考え実施した。

【実施内容】

月	日	取り組み実施内容	参加者 (うち新規)
4	26日(木)	共感コミュニケーションに触れる 講師: ██████████ (NPO法人おっちラボ) コミュニケーションにおいて相手とのつながりを持ち続けながら、お互いのニーズが満たされるまで話し合いを続けていくという共感を持って臨むコミュニケーションの方法を学ぶ。	9(4)
6	27日(水)	SIM雲南2030テストプレイ会 講師: ██████████ (認定NPO法人カタリバ) ゲーム感覚で自治体経営を体験できるパーティゲーム型のワークショップを通じ、迫り来る様々な社会問題や財政問題等の難題を自分ごととして考える。	5(3)
8	9日 (木)	目標達成に向けて 講師: ██████████ (NPO法人おっちラボ副代表理事) 具体的な事例を交えながら目標達成のためにどんな実践をし、途中の振り返りをどのように実践に還元していくのかを学ぶ。	12(3)
8	21日 (火)	問題解決のクリティカルシンキング 講師: ██████████ (NPO法人おっちラボ代表理事) 目標達成のそれぞれのステップにおいて、クリティカルシンキングを使うことで問題解決を図ることを考える	6(2)
9	2日 (日)	幸雲南塾番外編／みんなの防災を話し合おう 講師: ██████████ (一般社団法人防災ガール代表理事) いざ災害が起きたら全員が当事者。そのとき誰も取り残されない適切な対応をとれるよう私たちにできる防災について話し合う。	35
9	6日 (木)	かけ合わせ講座 講師: ██████████ (農事組合法人健一自然農園代表) 新しいアイデアや商品は、すべて既にあるもののかけ合わせ・組み合わせでできている。「既にあるもの」からアイデアを生み出すことについて学ぶ。	11(7)
10	11日 (木)	放置果樹ナイト 講師: ██████████ (NaoFarm) 果樹園は後継者不足や従事者の高齢化などで、果樹をそのままにせざるを得ないという状況が少なくない。放置果樹について、私たちはどう関わっていけるのかなどを学ぶ。	12(9)

10	29日 (月)	ローカルジャーナリストに学ぶ情報発信術 講師: [REDACTED] (ローカルジャーナリスト) 情報発信で自分が伝えたいことが本当に相手に伝わっているかなど文章による情報発信の心得や秘訣を学ぶ。	12(3)
11	12日 (月)	ファシリテーション講座【入門編】 講師: [REDACTED] (NPO法人bond place代表理事) 会議や話し合いなどにおいて、場のみなさんからの意見やアイデアをうまく引き出し、まとめて、中立な立場でゴールまでのお手伝いをする役割であるファシリテーションを学ぶ。	12(4)
11	16日 (金)	マーケティング勉強会 講師: [REDACTED] (宮崎大学) 生産者がお客さんのニーズに合ったものを提供する市場を作り出すための活動であるマーケティングについて学ぶ。また、社会課題に取り組む団体には、情報を必要としている人にどのように届けるのかについてなどを学ぶ。	12(2)
11	24日 (日)	楽しさから築かれる仲間づくりを学ぶ 講師: [REDACTED] (teamTENT.) ものづくりの楽しいプロセスを共有し、関わる人たちの夢を実現「夢のなる木プロジェクト」。久野の多世代が交ざりあう仲間づくりについて学ぶ	12(3)
11	27日(火)	ゲストハウスナイト コメンテーター: [REDACTED] (奥出雲かがり屋) ゲストハウスや民泊を開業したい・協力したい方向けに、お互いのこだわりや事業を活かし合うために情報共有をする。	6(2)
12	11 (火)	ファシリテーション実践編 入門編共有: [REDACTED] (NPO法人おっちラボ) 入門編で学んだファシリテーションを実践する機会。実践と振り返りを繰り返すことで学びを深める。	5(1)
12	20 (木)	あたたかいコミュニティづくり勉強会 講師: [REDACTED] (CRファクトリー代表理事) 「目的を共有し、互いに共感し支え合う、あたたかい共同体」というコミュニティづくりを学ぶ。	16(2)
12	27 (木)	イキイキ・ワクワクする"自分自身の軸を探る 講師: [REDACTED] (パラダイムシフトコミュニケーション® トレーナー) 普段なかなか探ることのない、あなた自身の「軸・方向性」を探ることを通じて実際に自身の「軸・方向性」を探究していく。	8(4)
2	8 (金)	ファシリテーション実践編2 入門編共有: [REDACTED] (NPO法人おっちラボ) 入門編で学んだファシリテーションを実践する機会。実践と振り返りを繰り返すことで学びを深める。	5(0)
2	10 (日)	幸雲南塾番外編／だれもが気持ちよく暮らせるまちに向かってGo！多文化共生円卓会議 事例提供: [REDACTED] (京丹後市長公室 地域支援・定住対策監) [REDACTED] (京丹後市国際交流協会 事務局長) 雲南市には、現在18か国から来られた222名の外国籍市民の方々が暮らしており、今後も増えていくと予想されてい	50

		る。そこで文化や慣習、宗教の同異などお互いがお互いを良く知り、隣人同士として気持ちよく暮らせるまちを目指し、多文化共生円卓会議を開催。	
3	17 (日)	インターネットを使った小売業勉強会 講師：■■■■■ インターネットで商品を販売するのも直接自分のホームページ(サイト)で売る方法、フリマアプリを使って売る方法、ECサイトを使って売る方法、などたくさんの選択肢がある。それぞれの特徴や注意すべき点、上手な使い分けについて学ぶ。	2(2)

合計18回開催

<成果>

(1) ローカルチャレンジャーの活動の促進・拡大

4.1.の幸雲南塾生をはじめ、事業者や市民活動運営者のアカデミー参加は延べ145名だった。ローカルチャレンジャー向けの実践の学びに重きを置いた勉強会では、実践の場で活用した、という人が延べ30名あった。

(2) ローカルチャレンジャーの裾野の拡大

今年度、新規のアカデミー参加者は52名だった。その中で、チャレンジを実践したいという方が6名あり、そのうち1件について次年度の幸雲南塾での支援を検討している。

4.3. スペシャルチャレンジ・ホープの伴走支援

今年度より開始した雲南スペシャルチャレンジ・ホープ事業は、雲南市の課題解決または価値創造に寄与する事業を起こす者を対象に、金融機関の融資と雲南市からの補助金の同額マッチング(上限100万円)および保証料・利子補給を行うものである。

(1) 採択者

以下の3者(いずれも幸雲南塾7期生)が採択された。

- ■■■■■:アレルギー対応食調理師。都市部でのビジネス展開を視野に、当初拠点整備などを計画。
- ■■■■■:雲南市在住の外国人が気軽に相談できるコミュニティスペース(多文化共生カフェsoban)の開設を計画。
- ■■■■■:市の介護予防予算に紐付かない、利用者自己負担の介護予防サービスの開発を計画。

(2) おっちラボの伴走内容

6月の採択から3月までに4回の仮想経営会議(市職員、地方創生アドバイザー、金融機関、商工会等との相談会)が開催された。おっちラボは主に仮想経営会議前に、採択者と面談をして課題整理を行った。

■■■■■とは、事業パートナーと事業の方向性をすり合わせるための調整に努めた。■■■■■のプランに対しては、地域住民が参加する円卓会議を開催し、課題解決促進のための関係者間の認識共有を図った。■■■■■には、事業の横展開を見据えた外部有識者との協議をコーディネートした。

4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務

(1)ローカルベンチャー推進協議会の概要および目的

ローカルベンチャー推進協議会(以下「協議会」)は、2016年9月、地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指し、西粟倉村とNPO法人ETIC.の呼びかけに賛同した8つの自治体により、内閣府の地方創生推進交付金に「広域連携によるローカルベンチャー推進事業」として申請し、採択されたのをきっかけに発足した。自治体が拠出金を負担し、事務局をNPO法人

ETIC.に委託して運営している。自治体同士や民間団体が連携し、全国からローカルベンチャーの担い手を呼び込み、事業成長を支援し、5年間で総額50.4億円のローカルベンチャーによる売上規模増、114件の起業家創出、269人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動を開始した。

2017年、新たに雲南市を含む2自治体が、2018年には新たに1自治体が参画し、2020年度末までに60.1億円のローカルベンチャーによる売上規模増、176件の起業家創出、366人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動している。

代表幹事:岡山県西粟倉村

副代表幹事:岩手県釜石市

参画自治体:北海道下川町、同厚真町、宮城県気仙沼市、同石巻市、石川県七尾市、島根県雲南市、徳島県上勝町、宮崎県日南市、熊本県南小国町(平成30年度より参画)

事務局:NPO法人ETIC.

(2)雲南市の加入経緯および目的

雲南市と当法人は、本事業(課題解決型人材育成事業)に関して、主に①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み(属人的でない繋がり)、②雲南市で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成の3点を課題として認識していた。雲南市と当法人は、NPO法人ETIC.の宮城治男代表理事より協議会への加入の打診を受けて検討し、加入することで上記課題の改善につながると判断し、当法人をローカル事務局とすることとして参加を決めた。

これを受けて、平成29年5月15日のローカルベンチャー推進協議会の総会において、雲南市の加入が承認された。

(3)平成30年度の協議会における協働内容

本年度は、上記①から③に加え、④地域内のローカルベンチャー機運の醸成も図った。

①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み

日付	実施内容	成果
6/2 ~ 12/16	【ローカルベンチャーラボ】 地域で起業を志す人を育成するラボ。「安心・豊かな暮らし」「地域商社」「自然資本産業」など6つのテーマのゼミで計画をブラッシュアップする。 雲南からは、おっちラボ小俣及び雲南市政策企画部政策推進課鳥谷氏が「お金の流れデザイン」に参加。	◎ [] が、各地の資金循環について学ぶ機会となり、雲南におけるコミュニティ財団の設立というプランに結実した。最終回となるデモDayにおいて各コースのファシリテーターの投票で決まる「ファシリテーター賞」を受賞。また起業奨励金25万円を獲得。 ◎ローカルベンチャーラボの特別講義「ローカルファイナンス」の講師であった深尾昌峰氏に相談できる関係が築けたことにより、上記財団の設立の先にある社会的投資との接続可能性が高まった。 ◎「安心・豊かな暮らし創造」チームの雲南フィールドワークをコーディネートし、市内事業者とLVラボ生の連携が生まれた。
2~3月	【その他】	ETIC.の担当コーディネーターより社会的インパクト評価のリサーチに長けた細田幸恵氏の紹介を受け、上記財団設立プロセスの研究及び雲南市の基礎データの分析等を実施してもらうことが決まった。

②雲南市で起業する都市部人材の獲得

日付	実施内容	成果
11/1 ~2	【ローカルベンチャーサミット】 ①11自治体の首長による記者会見 ②11自治体と都市部の関心ある企業との意見交換の場としてのイベント。 竹中工務店やヤマハ発動機も参画して進める「企業チャレンジ」(雲南ソーシャルチャレンジバレー構想の一環)やコミュニティナースなど、雲南市の取り組みを都市部の企業などに発信。	◎雲南の取り組みを発信することで、関心を持つ都市部企業が現れ、複数社から問い合わせあり。また、メディアにも多数掲載。
12月 ~ 3月	【竹中工務店・ヤマハ発動機等との連携に向けた協議】 ①雲南市で平成31年度より開始する「企業チャレンジ」プラットフォームの設計のため、ETIC.、竹中工務店、ヤマハ発動機、PwCコンサルティング、NTTドコモと協議を実施。 ②上記のなかでの具体的課題解決プロジェクトの設計のため、竹中工務店、経済産業省、日本総研等と協議や実証実験を実施。	◎平成31年度の企業チャレンジ開始に向けた事務局体制や役割が具体的に定まった(H31.4.11に記者発表予定) ◎竹中工務店のプロジェクトにおいて、コミュニティナースや都市部のITベンチャー等の関与による「コミュニティの健康度」測定の実験を実施し、来年度のチャレンジの方向性が定まった。
2/23	【地域オモシロ大作戦】 ETIC.のプログラムに参加した約40名の起業家等と協議会の各自治体とのマッチングイベント。自治体が地域資源を持ち寄り、起業家がそれと各自の事業との掛け合わせを提案する機会。	◎約10名の起業家または企業人が雲南市の地域資源(神話や街並みなど)に関心を持ち、現在現地訪問の調整が行われている状態。

③コーディネーター力の養成

日付	実施内容	成果
7月 ~1月	【オンラインケースカンファレンス】 11自治体のローカル事務局とETIC.コーディネーターをチーム分けし、ローカル事務局メンバーがケースを持ち寄り、オンラインでアドバイスをもらう。おちらボのコーディネーター3名が参加。	◎各人がケースの課題を整理する機会となり、また各事務局のメンバーやETIC.コーディネーターと意見交換しあえる関係性づくりに寄与した。

④地域内のローカルベンチャー機運の醸成

日付	実施内容	成果
7/10 ~12	【自治体合同合宿のホスト】 11自治体のローカル事務局を雲南に招き、5コースに分かれてフィールドワークを実施し、雲南の起業家が他地域のローカル事務局と課題を検討する時間を設けた。(開催概要は別添のとおり)	◎市内の起業家が全国のコーディネーターやアドバイザーからアドバイスをもらうことができた。他の協議会自治体での講演など、活躍の場を広げた例もある。 ◎雲南がキャリア教育や地域自主組織を通じて「広義のローカルベンチャー」育成をしているという世界観の発信をした。協議会内での共通概念になりつつある。

9/12	<p>【縦断フォーラム:幸雲南塾特別編／七尾カルテットに学ぶ創業支援の生態系】 講師: ██████████ (株式会社御祓川 代表取締役) / ██████████ (のと共栄信用金庫ふるさと支援室室長) / ██████████ (七尾街づくりセンター) / ██████████ (七尾市役所産業部産業振興課課長補佐) 雲南地域の支援機関が参加し、産業支援から地域活性化に結びつく七尾市の事例から、雲南市の事業のあり方や、事業者支援について考え</p>	<p>◎支援機関の横断的連携による「ななお創業応援カルテット」が、雲南の支援機関の間で共通認識となり、その実現に向けての協議が開始された。</p>
------	---	---

(3) 総括

前述のとおり、①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み(属人的でない繋がり)、②雲南市で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成のおよび④地域内のローカルベンチャー機運の醸成の4点の課題に対して、本協議会との連携が進んだことにより改善が見られている。

①については、昨年度に引き続き11自治体およびNPO法人ETIC.と連携が深まったことにより、雲南市内のリソースだけでは解決できない塾生や市内事業者の課題に対して、都市部や他地域の人材を繋げることで塾生や市内事業者のアクションが促進されてきている。

②については、都市圏でローカルベンチャーに興味のある起業家群とさらに接点を広げることができた。さらに起業家だけでなく、大企業が雲南での課題解決にチャレンジする道筋をつけることができた(ETIC.との協働によるところが大きい)。

③については、道半ばではあるが、第三者目線で自分たちのコーディネートを評価してもらえ、切磋琢磨できる環境ができつつある。

④については、雲南地域の支援機関が他地域の先進的取り組みに触れ、現状を改善できるという意識が共有された。

4.5. 実践型インターンシップの活用

<事業のねらい>

- (1)(おっちラボに対して)地域内や県外の若者に関わってもらうことにより、おっちラボのプランや活動の進展を助ける。
- (2)(インターン生に対して)幸雲南塾生のプランニングや活動への関わりや地元の方々との交流を通して、地域課題解決や未来創造に向けた活動に取り組む主体性を引き出す。

<実施内容>

- (1) おっちラボの事業サポート
- (2) 地域住民や団体との交流・ヒアリング・イベントの開催など
- (3) 各関係機関にヒアリング・会議への同席など

<参加人数>

- (1) 長期
2名参加(内訳:女性2名／松江出身者1名・県外出身者1名)
- (2) 夏季
合計2名参加(内訳:男性1名・女性1名／隠岐出身者1名・県外出身者1名／UCCプログラム参加者2名)
- (3) 冬季

2名参加(内訳:女性2名/県外出身者2名/UCCプログラム参加者2名)

<主な成果>

インターンを通して、以下のような効果があった。

(1)インターンを通して、おっちラボと関係機関や地域自主組織等との関係性をより良好にする
長期・夏季インターンシップでは、それぞれ今年度おっちラボ職員として配置したコミュニティナー
スとともに活動を行った。学生の活動を通してコミュニティナーズと各事業者や地域住民が以前より
もより密に関わるきっかけになり、そのきっかけを通して現在も良好な関係を築くことができている。
また、冬季インターンシップでは、木次地区の地域自主組織のヒアリング調査を行い、地域自主組
織と地域住民の地域づくりに関する課題感や思い、その違いなどを浮き彫りにし、各世代で共有し
た。普段は、話す機会が少ない・知っている人には話しにくいということがあるが「市外からのイン
ターン大学生」ということを十分に活かし、各世代から意見や今後どうしていきたいのかということ
を聞くことができた。この調査を元に、地域自主組織との関わりや普段本音を聞くことが難しい若者や
子育て世代との関わり方を模索していきたい。

(2)インターン生に対して、活動に取り組む主体性を引き出す
インターン中に様々な塾生や地域住民を通して、地域で必要なことは何か、インターン期間中に自
分でできることや挑戦したいことは何かを考えて実行していた(添付書類参照)。

4.6. コーディネーターの支援力向上

コーディネーターがそれぞれの得意分野を生かしたスキルアップのための研修会への参加を
行った。

従前より、アドバイザーから、中間支援組織に必要な8つの機能の提示を受けていたことを受け、
本年度も前年度に引き続き、とくに相談対応力とコーディネート・ネットワーキング力の向上を重点
課題とした。

(参考)『中間支援組織が持つべき8つのチカラ』

1. 相談対応力
2. 調査・情報収集力
3. 編集・発信力
4. コーディネート・ネットワーキング力
5. 資源提供力
6. 内部の人材育成力
7. 政策提言力
8. 施設運営力

具体的には、ローカルベンチャー推進協議会で提供される研修のほか、下記の研修に取り組ん
だ。

(1)チャレンジコミュニティギャザリング

日程 平成30年5月11日・12日

(2)成果の導き出し方セミナー

日程 平成30年6月1日

(3)ローカルベンチャーラボ「お金の流れデザイン」

日程 平成30年6月2-3日:開講式

平成30年6月15日 特別講義 []

平成30年7月27-28日 釜石フィールドワーク

平成30年8月1日 特別講義 []

平成30年8月25日 中間合同ラボ

平成30年8月26日 特別講義 []

平成30年9月25日 ブラッシュアップ

平成30年11月1日 ブラッシュアップ
平成30年11月9日 特別講義
平成30年11月29-30日 南小国町フィールドワーク
平成30年12月14-15日 デモDay(最終発表)

(4)ETIC.Cafe20th

日程 平成30年8月4日

(5)メディフェスよなご

日程 平成30年9月29日

(6)Social Impact for 2020

日程 平成30年10月16日

(7)コレクティブインパクト実践者研修

日程 平成30年9月20-21日

平成30年10月17-19日

平成31年2月27-28日

(8)コミュニティ財団のつくり方

日程 平成30年11月11日、11月25日、2月10日(全3回)

(9)みんなの集落研究所視察

日程 平成30年11月20日

(10)西粟倉村森の学校視察

日程 平成30年12月5日

(11)災害における資金支援のこれまでとこれから

日程 平成30年12月12日

(12)日南市ローカルベンチャー視察

日程 平成30年12月17日～19日

(13)都岐沙羅パートナーズセンター視察

日程 平成30年12月27日

(14)みんなでつくる財団おかやま視察

日程 平成31年1月9日～10日

(15)社会的インパクト・マネジメント研修 基礎コース

日程 平成31年3月13日～14日

C. 三日市ラボ管理業務

<事業のねらい>

(1)働く場所の提供

(2)地域との繋がり

(3)地域住民のアクションの増加

<実施内容>

(1)コワーキングスペースの管理運営

利用者数(延)(H30年4月から31年2月まで)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
スポット利用	3	7	6	5	4	5	6	7	15	6	3	67
入居者・塾生・おっちらボ関係者	134	116	143	166	121	134	171	136	52	76	128	1377
勉強会・報告会等	9	22	5	12	45	37	18	12	24	0	24	208
団体イベント利用	0	0	26	0	5	0	19	10	22	0	6	88
月合計	146	145	180	183	175	176	214	165	113	82	161	1740

(2)シェアオフィスの管理運営

利用者について(H30年4月から31年3月まで)

入居者	内容	本社	席数	期間
NPO法人カタリバ	キャリア教育、不登校支援	東京都	3席	12ヶ月
プランニングオフィスコダマ	調査研究	雲南市	1席	12ヶ月
World Utility株式会社	Webコンサルタント	松江市	1席	3ヶ月
うなんグローバルセンター	雲南在住外国人サポート	雲南市	1席	4ヶ月
そんさんひょん	起業型地域おこし協力隊	雲南市	1席	10ヶ月

(3)三日市ラボチャレンジショップ

出店者	内容
雲南	アクセサリ―展示販売
雲南	革製品展示
出雲	ポストカード、ステッカー展示販売
奥出雲	出雲民藝和紙アクセサリ―展示販売
宮城	アクセサリ―、ペンケース展示販売

<成果>

(1)働く場所の提供

三日市ラボの主な利用者は、雲南市内利用者では2階の入居者や入居関係者、雲南市外利用者ではローカルベンチャー推進協議会関係者であった。個人の利用者は、松江市23.5%、雲南市14.7%、東京都11.7%、宮城県11.7%と松江市の利用者割合が高かった。これは、以前からの利用動機であった雲南市域での仕事の都合で立ち寄り仕事をする人が5名、また、雲南に移住を考えている人の新たな利用が3名あったためである。

今年度の成果としては、2階に入居する利用者が新規で2件あったことが挙げられる。理由は、三日市ラボ以外に雲南でWi-Fi環境が整っている場所が住居や施設を含めても極めて少ないからである。インターネットが必要不可欠の仕事にはやはり三日市ラボの役割は大きいと考えられる。

(2)地域との繋がりアクションの増加

1階は、仕事をしに来た人や2階入居者関係者、視察訪問、様子を見に立ち寄った地域の人など、様々な人が訪れている。今年度は「幸雲南塾アカデミー(B-4.2.参照)」を実施したことで、前年度よりイベント利用や勉強会参加者が106人増加した。日々多様な人が行き交う中で、三日市ラボで出会った人たちが自己紹介や意見交換をする光景はよく見られ、繋がりが生まれやすい場所である。また、入居者同士でプログラムを考えやすく、繋がりを活かし協働している様子がカタリバと雲南グローバルセンターなどで見られる。さらに、アクションの増加としては、幸雲南塾開講特別講座でのブラッシュアップを経て、雲南市在住の20代女性が三日市ラボで初めてイベントの開催をしたり、福祉分野の勉強会や防災イベントの打ち合わせ時の利用があり、アクションの拠点になっていると感じている。

D. Career for事業

詳細は別紙参照

<成果>

◆様々なアプローチから、チャレンジPT内で『人材機能』の重要性について認識を共有することができた。

◆竹中工務店などとの企業チャレンジの試行を行うことができ、都市部のリソース活用の可能性を広げることができた。

◆当法人の重点役割を踏まえ、「まちの人事部」機能は当法人単体では担わないと判断。2019年度は、雲南市全体での「人事部機能」構築に向けた動きに、法人として何らかの形で関与はしていく方針。

E. コミュニティナース事業

<事業のねらい>

(1) コミュニティナースの普及による「雲南モデル」の確立

鍋山地区でのコミュニティナース導入や、訪問看護ステーションコミケアによって、地域包括ケアの実践は進んできたものの、いまだ十分にカバーされていない地域は多い。そのため、新規コミュニティナースを市内に導入することで事例を増やし、効果検証を行うことで、課題先進地域「雲南モデル」が確立されると言える。ふるさと納税は、資金調達だけでなく、この取り組みの重要性を市内外にひろく知らしめる広報としての役割も期待される。

(株)コミュニティナースカンパニーだけでなく、NPO法人おっちラボが支援することで、ナースにより多様で柔軟なサポート体制が構築できる。また、NPO法人おっちラボは、地域の暮らしをよりよくする人が集い、その取り組みの実験場をつくることを目標として掲げており、その理念に合致するものである。

(2) NPO法人おっちラボならびにコミュニティナースの自主財源確保

新規コミュニティナースは、NPO法人おっちラボに所属し活動し、人件費等もNPO法人おっちラボから拠出。公益性の高い事業ということで、公的財源を中心にこれまで活動してきたが、今後自主的に財源を確保する手段が必要である。その足掛かりとしてふるさと納税は最適な選択肢である。

<活動内容>

UIターンの看護師2名をおっちラボで直接雇用し、2地域へ配置した。看護師たちはコミュニティナースとして地域に入り込み、その専門性を活かし、地区住民の健康促進に向けた様々な取組みを行った(詳細は別紙参照)。

また、資金調達に関し、雲南市ふるさと納税を活用し、公益的または社会貢献度が高いと認められる活動に取り組んでいる市内団体の地域課題解決に向けた取組みを加速させる、NPO等支援事業を平成29年度から開始した。

これは、NPO等の団体が、自ら申請する事業に「ふるさと納税寄附金」を活用するため、「雲南市への事業申請」および「ふるさと納税寄附受付インターネットポータルサイト(ふるさとチョイス)での寄附受付」等の必要な手続き等を行い、寄附を募集した上で、「ふるさと納税寄附者」が寄附金使途としてNPO等の事業を指定して寄附を行った場合、その寄付額の83.2%を当該NPOに交付するという制度である。具体的には、平成30年6月から上記ポータルサイトで資金集めを開始した。

3. 成果 別紙参照

2018年度CARRER FOR事業完了報告書

一般社団法人 地域・人材共創機構

代表理事  殿
殿

報告日付：2019年 4月 4日
団体名： NPO法人おっちラボ
代表者名： 小俣 健三郎 印
TEL： 0854-47-7339
事業完了日：2019年 3月 31日

事業費総額	4,326,731円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	865,346円	収支計算書の緑のセルの値
活動補助金額	3,461,385円	収支計算書の赤のセルの値
活動補助金返還額	538,615円	収支計算書の青のセルの値

1. 事業内容（実績、詳細）：

①雲南市の生態系の中に『人材機能』をどう位置付けるかの模索

◆U.C.C.事業の一環として、以下のインターン生の受入を行った。

<2018年夏：合計6名>

実践型インターン：株式会社吉田ふるさと村1名、NPO 法人おっちラボ1名

インターン：株式会社吉田ふるさと村1名、U.C.C.事務局1名、NPO 法人カタリバ1名、NPO 法人おっちラボ1名



<2019年春：合計6名>

実践型インターン：株式会社山光1名、FELICE1名

インターン：NPO 法人おっちラボ3名、U.C.C.事務局1名



→従来の仕事体験型インターンから、ミッションや目的を持ったインターンへのトライをすることができた。

◆NPO 法人 G-net への視察を2回実施。

◆NPO 法人 G-net と、株式会社御祓川より講師を招聘し、実践型インターンシップについて勉強会を開催。

- ◆雲南ソーシャルチャレンジバレー構想の実現に向け、準備委員会にて議論を実施。
- ◆経済産業省社会課題解決ワークショップに参加し、株式会社竹中工務店とビジネスモデルのプロトタイプを形作った。



②中間支援の基盤作り

- ◆各スタッフが現在の組織に必要な研修へ参加することができ、知見の共有ができた。

- ・システム思考×評価ワークショップ
- ・社会的インパクト・マネジメント研修
- ・Community Organizing Japan 研修
- ・ETIC.実践型インターンコーディネーター研修

- ◆コミュニティ財団設立への意思決定を行い、準備委員会の立ち上げに着手できた。

③都市部人材とのマッチング・仲間づくりの進化

- ◆コミュニティナースプロジェクト in 雲南において、GCF を活用した資金調達を実施。
→800 万円の目標のところ、1204 万円を調達。市外だけでなく、市内からも資金を集めることができ、フレンドレイジングの大きな1 歩となった。

2. 契約時事業目標の達成状況：

【事業計画書記載の目標】

【目標の達成状況】

①雲南省の生態系の中に『人材機能』をどう位置付けるかの模索

- ・実践型インターンの受入→4名受入
- ・『人材機能』をどう位置付けるかの模索
→人材機能を検討するプロジェクトチームの組成

②中間支援の基盤作り

- ・パターンランゲージの活用によるコーディネーター業務の共通言語化
→活用は実現していないものの、パターン・ランゲージ作成を試み、100以上の項目についてコーディネーター業務で価値となるものを言語化。
- ・人材育成システムの開発（5地域連携を活かしたスライドインターンの模索）
→G-netへの視察を複数回、セクターを超えた協働チームで実施
→スタッフ1名が釜石市にインターンを実施

③都市部人材とのマッチング・仲間づくりの進化

- ・塾生と、都市部人材のマッチング、コミュニティ形成
→支援対象となりうるような、明確なプランを持つ塾生が現れなかった
(今年度の塾生は何かしたいと動き出し、もがくステータスが多かった)
- ・都市部人材ネットワークを活用した新たな事業モデルの開発（GCFの活用等）
→コミュニティナースを2名雇用し、GCFを実施、見事達成

人とまちとのつながりで、楽しく、元気に、健康に！～暮らしに寄り添うコミュニティナース～

島根県雲南市 島根県雲南市



寄附募集期間:2018年6月13日～2018年9月10日(90日間)



お礼の品を選んでこのプロジェクトへ寄附をする

3. 事業実施によって得られた成果：

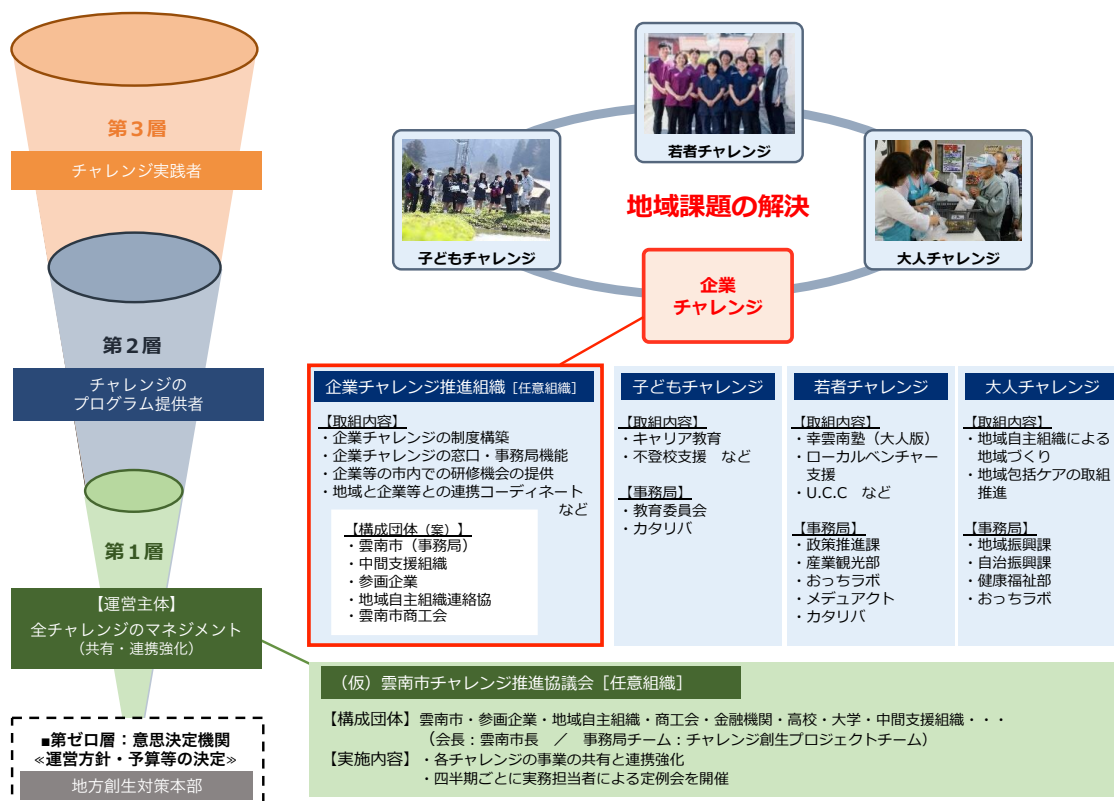
①雲南市の生態系の中に『人材機能』をどう位置付けるかの模索

◆市役所、関係セクターを含む、横断プロジェクトチームにて『人材機能』の重要性について認識を共有することができ、今後のたたき台となる組織図案を描くことができた。
→チャレンジプロジェクトチームの中で、実践型インターン、兼業・複業、まちの人事部構想に関心のあるメンバーが、政策企画セクター、産業セクター、移住・定住セクター、それぞれから現れ、意思を表明し、来年度には人材検討チームが発足する予定。

◆雲南ソーシャルチャレンジバレー構想の実現に向け、準備委員会にて議論を重ねることができた。

→議論の中から、新たなチャレンジの構想として、『企業チャレンジ』が生まれ、株式会社竹中工務店、ヤマハ発動機株式会社、NPO法人ETIC、雲南市の4社による包括連携協定を来年度締結予定。

また、企業チャレンジの事務局も立ち上げ、業務委託として移住者1名、竹中工務店から地域おこし企業人として1名が参画予定。

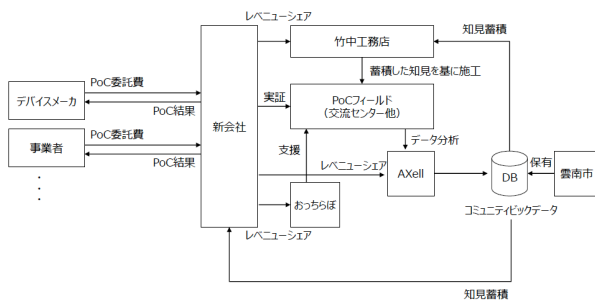


◆経済産業省社会課題解決ワークショップに参加し、株式会社竹中工務店とともに実証実験を行い、ビジネスモデルのプロトタイプを作ることができた。

→同じくワークショップに参加していた、塩尻市、仙台市、丸森町の行政職員とは定期的に連絡を取り合い、今後も協働していく関係性を作ることができた。

Task14 事業化計画「初期モデルの展開」

当画はPoCスキームで知見を蓄積していくとして、初期のビジネスモデルとしては以下を展開していく想定。
コミュニティの幸福度と健康度を向上に資するデータサイエンス業務を受託する新会社（SPCでも可）を設立し、複数のPoCを同時多発的に実施していくビジネスモデル。



出所：新設事業w/c検討結果
Copyright (c) 2019 The Japan Research Institute, Limited. All Rights Reserved. 53

②中間支援の基盤作り

◆各スタッフが現在の組織に必要な研修へ参加することができ、知見の共有ができた。

来年度、おっちらラボとしては、コミュニティ財団の設立という、大きなチャレンジをする前に、スタッフそれぞれが目的意識を持ち、必要な研修に参加することができた。すぐに現場では活きないかもしれないが、そこで出会えた仲間や、触れた知見は今後の取り組みに大きく貢献してくれるはずだ。

また、実践型インターンの研修にスタッフが参加したことにより、今までの体験型インターンとしての受入から、一歩深化した関わりがインターン生とできたように思う。

③都市部人材とのマッチング・仲間づくりの進化

◆GCFにて資金調達に挑戦

挑戦の過程で、資金・寄付を集めることがどれだけ難しいことなのかを実感することができた。その一方で、この動きの中で今まで以上に多くの方に我々の活動について説明し、共感を得ることもできた。また、寄付を頂戴した方とは、より深い関係性を築くことができ、今後のコミュニティ財団設立へも大きく背中を押してくれる結果となった。

4. 成功したこととその要因：

◆雲南ソーシャルチャレンジバレー構想が走り出したこと

おっちラボなど一部の関係者だけで議論をしていた、「雲南にも人材機能」が必要なのではないかという議論を、チャレンジプロジェクトチーム会議で少しずつ、行ってきたことによって、それぞれのチャレンジプロジェクトの中でも、特に今まで議論してこなかったプロジェクトにおいて「人材」がキーワードになってきている。

子ども × 若者 × 大人 チャレンジの連鎖による 持続可能なまちづくり



(参考) 人材の育成・確保に向けた「子ども×若者×大人」の6つのチャレンジプロジェクトの全体像(生態系図)

例)

プロジェクト②大学機関やNPOと連携した課題解決型人材の育成

→大学生が雲南市でただチャレンジをして、課題解決スキルを身につけるだけでなく、そのチャレンジを通して、雲南市の産業の活性化にも寄与するような実践型インターンシップについて関係者の士気が高まってきている。

プロジェクト④産業振興センターの機能強化による新たな産業創出

→プロジェクト②を担当していた職員が春の人事異動で、産業振興課に異動になり、事業承継を担当しながら、兼業・複業のフィジビリティにも着手したいと意欲的。

- ◆私たちの組織は何をすべきかについて、じっくりと検討し話し合うことができた
上記のような動きや、雲南スペシャルチャレンジなど、私たちが関わる幸雲南塾以外でも雲南市の各所で多種多様な動きが生まれてきているからこそ、私たちは何をすべきか、何をしたいのかについてじっくりと考えることができ、そこから「意志あるお金の流れを作り出すコミュニティ財団の設立」へと意思決定をすることができた。

5. 失敗したこととその要因：

- ◆幸雲南塾の塾生の想定が昨年度と異なった
これは失敗ではないが、予算消化しきれなかった理由としては大きい。
市内のチャレンジャーは多様なステータスにあり、次のフェーズに踏み出すタイミングも人それぞれであることから、読み切れない部分が大きかった。
- ◆パターンランゲージの活用によるコーディネーター業務の共通言語化
御祓川とともに進めていたものではあるが、進めていく中で、おっちラボの手を離れていくことになり、共通言語化までは至らなかった。その一方で、それぞれが自分に必要なスキルの研修などに今まで以上に参加することができるようになったことは、各々のスキルのセルフアセスメントができるようになってきたというところで、今後につながる兆しが見えた。

6. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案：

- ◆おっちラボの中間支援のあり方と、CAREER FOR事業が目指す人材機能のあり方の模索と、方向性が異なってきた
企業チャレンジが走り出したこと、「人材機能」について検討するチームが立ち上がりつつあるところからも、おっちラボ主導から、別組織主導に変更するのが効果的かということ、どこの団体が主導するのか、新しく立ち上げるのかの検討を続けている。
- ◆雲南らしい人材機能のあり方とは何か
これは、来年度も継続して検討していく課題ではあるが、CAREER FORの他地域の動きを見ても1年での人材機能の将来像は大きく変わってきているように思う。その中で、雲南市はどう、雲南市らしく作れるのかを、スピードを落とさず検討していきたい。

新市地区	
身体的理由で地域サロンに参加しにくい人がいた。	▶ CN の声かけから住民同士の協働が生まれ、認知症や歩行障害の方など 4名 が定期的にサロンに参加。
物理的・心理的に交流センターの地域サロンに行きにくい人がいた。	▶ 5自治会の集会所で全 23回 のおしゃべり会を新規開催。新たなサロン参加者 10名 。
周囲の人とのつながりが希薄になっている人がいた。	▶ チームで楽しく行える軽スポーツを導入。周囲の人を気遣う声かけや行動が増え、 5名 のつながりが強化。高齢者の一人歩きによる事故 2件 早期防止。
配食サービス利用者の体調変化などに気づくための必要な情報が整理されていなかった。	▶ 見守りチェックシートの導入により配食サービス以外でも「あの人いつもと違うかも」という気付きが増え、関係者間で 5件 適切に状態把握。チェックシートの導入を検討中の他の地域が 3件 。

波多地区	
地域の住民が公的なデイサービスなどを利用すると、かえって地域とのつながりが薄れてしまっていた。	▶ 公的サービスと地域サロン間の調整を行い、公的なデイサービスを利用しながら継続して地域サロン等に参加、つながりを維持できた住民 3名 。
病院が遠く交通の便も悪いため、早期受診がしにくい。	▶ 保健師や病院との連携や協働を新たに進め、地区内で異常の早期発見 / 受診 2件 。大腸がん検診の申し込み件数も増加(昨年比 +11名)。
中山間地域では流行や娯楽に触れる機会が少ない。	▶ ハーバリウム作り、地域の料理家を招いてカフェランチなど、体験イベントを新規開設、 3回開催 することで、住民同士のつながりが深まり、地域自主組織の福祉推進員との協働もすすんだ。子供から高齢者まで、平均 40名 のイベント参加があった。

次年度からは、住民を含めた関係機関の連携を図る体制の構築を進めていきます。そのために、厚生労働省の推める「生活支援コーディネーター」のうち、市全域で活動する「第一層生活支援コーディネーター」として引き続き雲南で活動を継続し、機関や分野をまたいだ連携を強化しながら個人の健康とともにコミュニティの健康をつくっていきます。生活支援コーディネーターは主に①高齢者の集い(活動)の場の創出及び参加促進②健康づくり・介護予防活動の推進③見守り体制の確立④生活支援体制の整備の4つの役割があります。この役割にコミュニティナースとしてケアの視点を取り入れ、より良い地域を目指しながら取り組みを行っていきます。これまでの活動の中でも、医療福祉分野に限らず、教育・地域づくり・防災に関わる機関や一般企業など、他分野機関とも一緒に取り組むことで地域に最適な状態が生まれてくる事例が出てきました。こういった事例が市域で増えていくよう、地域住民や関係諸機関との協働を進めて行きたいと思っております。

また、このプロジェクトをきっかけに、来年度から新たに市内外からコミュニティナースに関わってくださる医療者や企業も増えて来ています。

引き続き、情報はおっちらボのメールマガジンで発信していきますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。



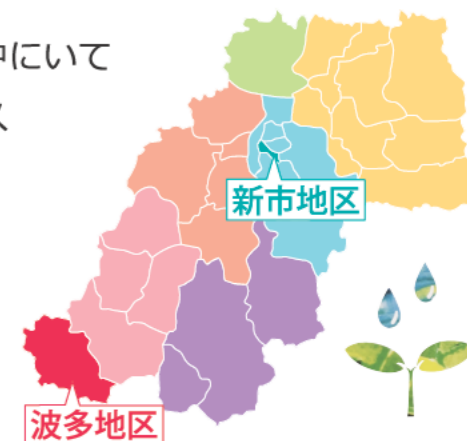
コミュニティナースプロジェクト活動報告書

この度は、「雲南コミュニティナースプロジェクト」にご支援いただきありがとうございました。2018年6月13日から2019年3月31日までご支援をお願いしております、ふるさと納税につきまして、改めましてご報告とお礼を申し上げます。

2019年3月20日現在、162人の皆さまから、合計12,041,000円のご支援をいただきました。また、期間中は多くの励ましのお言葉をお寄せいただきました。本当にありがとうございました。

今回、体のことに関する専門家であるナースがいつでも暮らしの中において住民さんと顔の見える信頼関係をつくっていく「コミュニティナース(以下CN)」という仕組みを提案させていただきました。

皆さまからご支援をいただき、雲南市の波多地区と新市地区CNを1名ずつ、計2名を配置し、地域に与える効果測定を行ってまいりました。このプロジェクトを通じてみえてきた、各地区での健康や幸福、地域住民同士の繋がりに関する変化をご報告させていただきます。



各地区的活動について



波多地区
 人口：約 300 人
 高齢化率：約 53%
 面積：29.28 km²
 中山間地域。スーパーやタクシーなどが撤退しているため、それらを地元の地域自主組織(*)が運営している。

担当：柿木守
 横浜での病院勤務を経て雲南へUターン。
 波多地区の地域資源を活かした公的な医療福祉の専門家とのつなぎ役を行う。



郷原さんと宮本さん
 郷原さん：新市地区の自治会で福祉員を務める住民さん。

新市地区の郷原さん、宮本さんに聞きました！
 宮本さんが新市に来られて、郷原さん自身はどう感じておられますか？

(郷) 今までのボランティア活動では、おせっかいは「迷惑かな？」と思って遠慮していたんです。でも宮本さんが地域の集まりに出たくても出られない人を率先してお誘いする姿を見て、「私もやろう！」と勇気が出てきて。私も、本当はもっとおせっかいがしたかったのよ。それがきっかけで、後日足の弱った方を車椅子で集会所までお連れしたの。その方が数年ぶりに皆さんと会うことができるときはとても嬉しかったですよ。おせっかいをやくことで、私自身も楽しく、元気になってます！

宮本さんがいることで地域の方々になんか変化があったのでしょうか？

(郷) 私は、困った人を地域の人々で支えられたら良いな、と思う気持ちが強くなりましたね。地区の皆さんは、近所が集まりに来られない方を誘いに行かれるようになりました。住みやすい町になってきていると思いますよ。

(宮) ケアの視点を取り入れた「見守りチェックシート」を配食サービスの際に使うことで、おせっかいに加えて見守りの視点も持てるようになりました。また、サロンで始めた軽スポーツを通して繋がりと良いおせっかいが地域全体に広がり始めています。

今後の活動について教えてください

(宮) 今後は「良いおせっかい」が次世代にも続くように、子どもとの関わりが持てるように活動していきます。

(郷) 隣近所がおせっかいする家族のような新市になればいいよね。「あの人がするけんせんでいいわね(あの人がするからしないでいい)」じゃなくて、自然に、みんなのできるようになるのが理想です。



郷原さんと柿木さん
 郷原さん：地域自主組織で福祉推進員を務める。元介護士。

波多地区地域自主組織の福祉推進員の郷原さんと柿木さんに聞きました！

柿木さんが波多に来られて、郷原さん自身はどう感じておられますか？

(藤) 専門的な医療の知識でも何でも気軽に相談できる存在でありがたいです。あとは地域包括支援センターや保健師さんたちに繋いでくれました。今までも繋がりはあったけれど少しずつ連携の体制ができてきたように感じます。関係機関が足並みを揃えて、協働していくのが大切ですね。

(柿) 関係者の調整や繋ぐことは意識して活動しました。公的な関係機関に波多マーケット(地域自主組織が経営するスーパーマーケット)や地域サロンなどの地域資源を知ってもらったことでより良い連携に繋がりました。



新市地区
 人口：約 530 人
 高齢化率：約 35%
 面積：7.40 km²
 雲南市の中でもコンパクトな街部。8年前から「お願い会員」「任せて会員」という互助の仕組みを地域自主組織で作って実施している。



担当：宮本裕司
 愛知県出身。個人の健康のために、地域全体の健康度を上げることに注力する。子どもから高齢者まで多世代の「良いおせっかい」が楽しくできる新市地区を目指す。

柿木さんがいることで地域の方々になんか変化があったのでしょうか？

(藤) 地域の人たちは、保健師さんとの共同呼びかけで検診に行く人が増えたり、血圧や熱中症を気にかけるようになりました。あとは、普段出て来られない高齢の男性が外に出るようになったよね。

今後の活動について教えてください

(柿) 最初は〇〇として、波多で何ができるのだろうと無力感や焦りが毎日ありました。そんなとき、波多の方々がいとも支えてくれました。一方的ではなく、互いに協力しながら一緒に取り組むことができました。一緒にしてきたからこそ、〇〇にずっと頼ってはいけない、と自分たちの課題は自分たちで取り組んでいこうという「課題の自分ごと化」が今まで以上に深まったのではないかと思います。

(藤) これからも認知症や独居の増加など、課題がなくなることはないよね。私は、今年やっと関係性ができた・一年の流れが分かった今からがスタートだと思ってるよ！来年も頑張ろう！
 (柿) はい！来年度は波多だけでなく他の地域にも行くことになりませんが、これからも波多の皆さんと一緒に取り組んでいきます。

*地域自主組織とは…雲南市では、全国に先駆けて地域自主組織による「地域でできることは地域で行う」小規模多機能の住民自治を展開しています。市内全域に 30 組織あり、1 地域あたりの面積規模は 0.85~73 km²、人口規模は 200 人弱~6000 人程度です。住民の高齢化率や町の特徴も町部・中山間部など各地区で異なるため、地域課題も様々です。
 ※文中で出てくる「地域サロン」とは、おもに地域自主組織が開催する、地域の高齢者が気兼ねなく参加できる集いの場のことです。

令和元年度事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

1 事業年度内の理事会・総会開催概要

①理事会

- ・平成31年4月1日
開催場所：みなし決議
出席者数：理事2名（理事人数 3名）
議決事項の概要：理事 ████████ 氏との業務委託契約の締結について
- ・令和元年5月23日
開催場所：三日市ラボ
出席者数：理事3名、監事1名（理事人数 3名）
議決事項の概要：第6期事業報告および収支決算について
第7期事業計画および予算案について
定時社員総会の収集について
- ・令和元年11月5日
開催場所：オンライン会議システム
出席者数：理事3名（理事人数 3名）
議決事項の概要：個人情報保護適正管理規定の制定について
就業規則改訂について
- ・令和2年3月27日
開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム
出席者数：理事3名（理事人数 3名）
議決事項の概要：第8期事業計画及び予算案について
退職金支給に関する諸規程の制定及び改定について
退職慰労金について

②総会

- ・令和元年5月29日
開催場所：三日市ラボ
出席者数：8名（うち表決委任者2名）／正会員数 11名
議決事項の概要：第6期収支決算について

2 事業の概要および成果 別紙参照

3 事業の実施に関する事項

①特定非営利活動に係る事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	事業費 (単位：円)
課題解決型 人材育成・ 確保事業	雲南市内	H31.4.1～R2.3.31	4名	経常収益 23,192,711 経常費用 ▲22,602,014 収支合計 590,697

以上のほか、次の事業を実施した。

	視察事業	研修事業
経常収益	1,001,000	689,400
経常費用 (人件費除く)	▲0	▲338,625
収支合計	1,001,000	350,775

②その他事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	事業費 (単位：円)
三日市ラボ 管理事業	雲南市内	H31.4.1～R2.3.31	1名	経常収益 1,414,362 経常費用 ▲1,677,903 収支合計 △ 263,541

以上のほか、次の事業を実施した。

	商品販売事業
経常収益	109,050
経常費用 (人件費除く)	▲94,579
収支合計	14,471

令和元年度 特定非営利活動法人おっちラボ 事業報告書

【目次】

1. 事業のねらい
2. 前年度までの実績
3. 事業実施体制
4. 事業実施内容とその成果
5. 今後の取り組み及び課題

主な事業の成果

事業名	成果
幸雲南塾2019	参加者は途中入塾者も合わせると4組34名。うち2組が一般法人を設立、1組が事業実施のための資金調達を行った。残る1組も継続して啓発イベントを実施するなどし、各チームが未来の雲南に必要な仕組みづくりを主体的に継続している。
幸雲南塾アカデミー	参加者は昨年度から49人増え、延べ194名だった。アカデミー開催によって、話題提供をしたローカルチャレンジャーと参加者が連携し、毎月活動を継続するなどアクションに繋がっている。
スペシャルチャレンジ・ホープ事業	前期採択者1名は6地域自主組織および1市内事業所とのプロジェクト協働を開始し、後期採択者3組は採択期間が短かった中でできる限りの実践を試みた。何れも事業による地域への波及効果が期待できるが、制度による効果をさらに大きくするため、次年度以降、事業のブラッシュアップ期間及び採択期間をより多く確保できる制度設計に改良する契機となった。
ローカルベンチャー協議会	協議会や同プログラムを通じた雲南エリアでのチャレンジ6件（※）、調整中案件6件（※）、研究プロジェクト3件。
三日市ラボ活用	1階の利用は2階入居者関係者又は行政関連の視察等で全体の85%を占めている。幸雲南塾塾生の勉強会やイベント利用が毎月あり、地元のチャレンジャーたちが次のアクションを考えるための拠点となっている。

※企業チャレンジを含む。

1. 事業のねらい

雲南市は、平成27年度から平成36年度（当時）までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」及びこれを基に策定した「まち・ひと・しごと創生 雲南市総合戦略」において、若者や地域自主組織等による地域課題解決に向けた取り組みを促進

し、多様な人材や団体等が課題解決にチャレンジする総働のまちづくりを推進することとしている。子どもから若者、シニア世代まであらゆる世代を通してチャレンジに優しいまちを目指している。

雲南市をはじめ多くの地方で、課題解決や仕事の創生等による持続可能な地域づくりの推進や定住対策などの重要性が高まっている。その中でも、20～30代の若者世代は地方創生の即戦力として活躍が期待されている一方、就学や就職で市外へ流出する割合も高くなっている。若者世代にとって魅力的なまちづくりに取り組み、雲南市で課題解決にチャレンジしたいと思う若者を増やしていくことが重要である。

地域づくりや地域の課題解決を、実践を通して学ぶ幸雲南塾は、県内でも先進的な取り組みとして、2011年に第1期がスタートして以降、昨年度までに延べ132名の卒業生（ラボアカデミー修了者を含む）を輩出してきた。今年度も、幸雲南塾を開講して引き続き地域課題にチャレンジする若者を発掘・育成した。また、さらに幅広く市民にまちづくりに興味を持ってもらう機会として、幸雲南塾アカデミーを昨年度に引き続き開催した。

また雲南市が昨年度から開始したスペシャルチャレンジ制度のうち、ホープ事業の事務局として、事業化や新規事業開発を目指す同制度採択者を対象として、金融機関やアドバイザーとともに伴走（補助）を行った。

さらに、ローカルベンチャー推進協議会の雲南市におけるローカル事務局機能を担い、雲南市におけるベンチャー育成の土壌づくりや、都市部の起業家人材と雲南市の地域課題とのマッチングを図った。

2. 前年度までの主な実績

平成23（2011）年度 雲南市が主催する次世代育成事業『幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～』として開講。社会起業や地域貢献を志す若者の企画立案と実践をサポート。第1期（13名卒業）

平成24（2012）年度 第2期（11名卒業）

平成25（2013）年度 第3期（11名卒業）、塾の卒業生による任意団体「おっちラボ」設立

平成26（2014）年度 第4期（25名卒業）、NPO法人おっちラボ設立

平成27（2015）年度 第5期 幸雲南塾（4組6名卒業）、ラボアカデミー（9名修了）

平成28（2016）年度 第6期（2016年5月～2017年2月）

幸雲南塾（3組6名卒業）ラボアカデミー（14名修了）

平成29（2017）年度 第7期（2017年6月～2018年1月）

幸雲南塾（4法人11名卒業）

平成30（2018）年度 第8期（2018年6月～2019年1月）

幸雲南塾（1名）幸雲南塾START（6組7名修了）

平成31・令和元（2019）年度 第9期（2019年7月～2020年1月）

幸雲南塾（4組34名）

平成23年度に市が次世代育成事業として始めた『幸雲南塾～地域プロデューサー育成講座～』は、今年度で9期目を迎える。平成25年に塾の卒業生たちが塾生を相互支援する仲間のネットワーク強化のため立ち上げた任意団体「おっちラボ」は、平成26年にNPO法人化し、同年より幸雲南塾の事務局を担っている。

<卒業生の活躍>

2018年度末時点で4法人88名（ラボアカデミー修了者を加えると延べ132名）の卒業生を輩出した。卒業生たちは、幸雲南塾のプレセミナーで事例発表を行ったり、県外からの視察があった際に活動報告を行ったり、現役塾生の相談に乗ったりと、幸雲南塾のサポーターとして幅広く活躍している。

また、卒業生同士のネットワークによって自分たちの活動の課題解決を行うなど、相互に支援し合う関係性も継続している。さらに、今年度は、卒業生が再度幸雲南塾に入塾し、進

めている事業のさらなる進化を目的に切磋琢磨する動きもあり、幸雲南塾がチャレンジのプラットフォームとなっているように感じている。

<プログラムのリニューアル>

第4期までの幸雲南塾は、一本のプログラムで実施してきたが、参加者のニーズが幅広いことから、2015年からは、伴走型人材育成プログラム『幸雲南塾』と地域づくりのはじめの一步を踏み出す定例勉強会『アカデミー』といった複数のプログラムを実施するスタイルとなった。

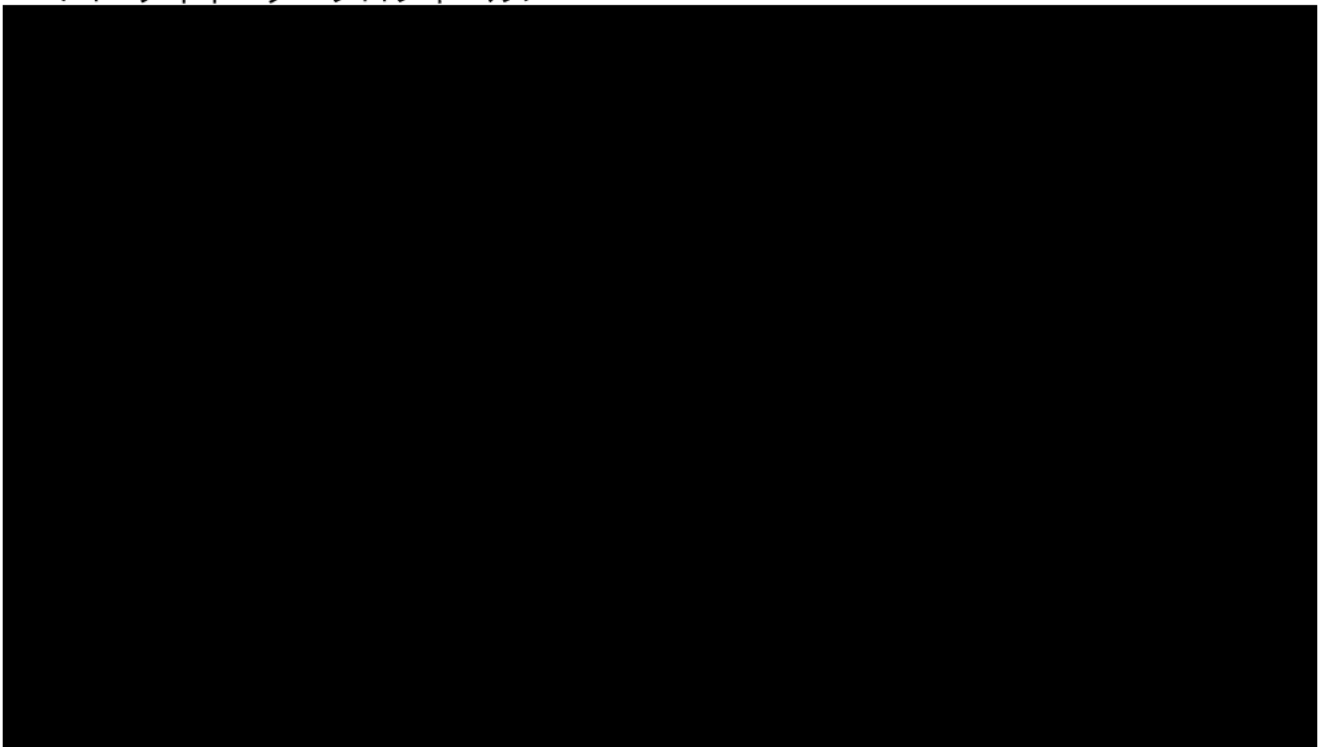
今年度は個々のチャレンジがより促進される「仕組み」をつくることに注力できるようプログラムを再構築し、事務局は仕組みづくりにチャレンジするチームが効果的に活動を進めるためのサポーターという立ち位置から支援をおこなった。今期の『幸雲南塾2019』は、会議体組成支援を通じて暮らしと地域をよりよくするための仕組みづくりを支援し、また個別のチャレンジの相互相談窓口として塾生以外も参加できる『チャレンジーズカフェ』、広く学習や交流機会を創出する『幸雲南塾アカデミーなどのプログラムも実施した。また、NPO法人ETIC.が主催をするローカルベンチャー推進協議会も活用し、都市部人材とともにプランを磨きあげる機会を創出し、チャレンジャーがより広い視野で、幅広い人材と出会い関わる機会を作ることを実施した。


3. 事業実施体制

(1) コーディネーター

一昨年度より、市民への若者のチャレンジに対する理解を促し、それまでの経験で培われた多様なスキルを活かし、活動するコーディネーターを配置した。本年度もこの体制を継続し、ファンドレイジング・マネタイズ・組織基盤構築・組織運営などを手がける人材を誘致し配置することで若者チャレンジを支援する中間支援組織としてのサポート力を強化した。また、若者チャレンジ支援コーディネーターに加え、ファンドレイジング・マネタイズなどのノウハウは外部アドバイザーとの連携により、充実した体制を整備した。

<コーディネータープロフィール>





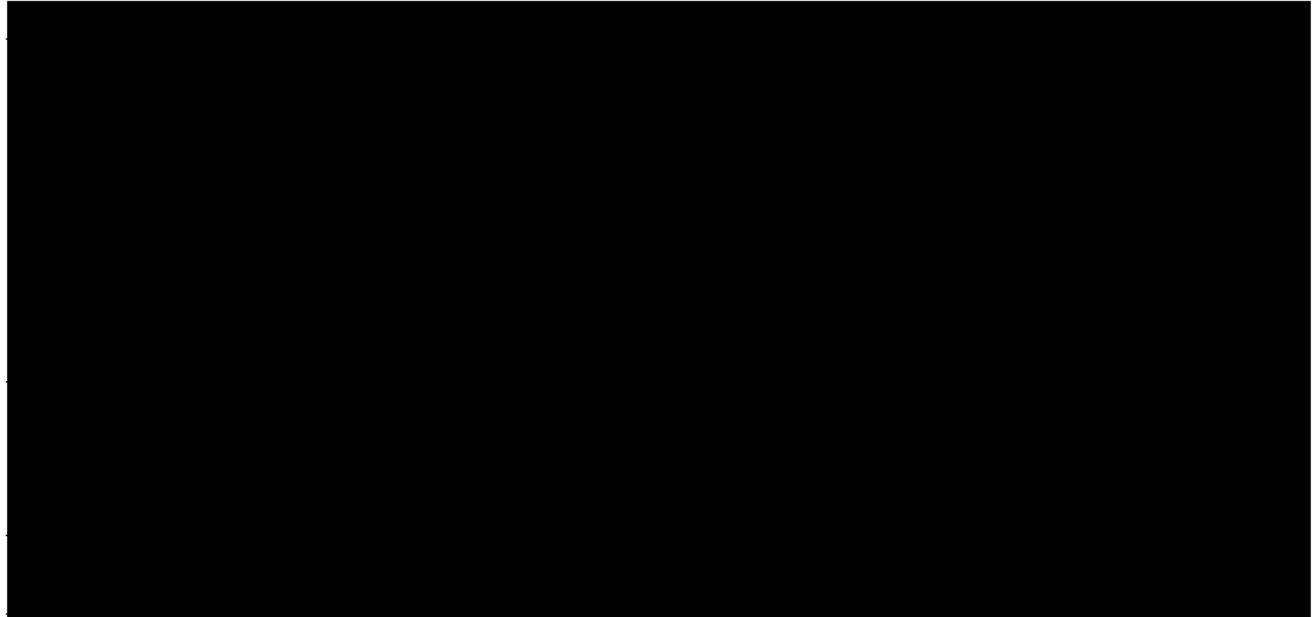
(2)外部アドバイザー

<外部アドバイザープロフィール>

a. ファンドレイジング（資金調達）、組織マネジメント等のアドバイザー



b. マネタイズ（収益事業化）のアドバイザー



4. 事業実施内容とその成果

令和元年度は、以下の事業を実施した。※各項目について報告書末に書類を添付

4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2019）の企画運営

- 4.2. 幸雲南塾アカデミー（有志勉強会）の企画・運営
- 4.3. スペシャルチャレンジ・ホープの伴走支援
- 4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務
- 4.5. 実践型インターンシップの活用
- 4.6. 三日市ラボの運営
- 4.7. コーディネーターの支援力向上

4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2019）の企画・運営

「幸雲南塾2019」は、昨年に引き続き伴走型人材育成プログラムとして、おっちラボスタッフがコーディネーターとして、3ヶ月から6ヶ月間会議体組成支援を行った。各チームが仕組みの実現に向けて「自律的に活動できる状態」になることを目指す、実践家育成の塾として開講した。

塾生の募集に関して、今期は「幸雲南塾2019開講特別講座」として事前説明会を実施した。開講講座の参加者は講演やワークを通じ地域の未来とそこに必要な仕組みについて考え、意見を交わした。

参加者はその後、「地域に生み出したいインパクト（課題の重要性・緊急性、受益者数、他地域への波及性などの要素から総合的に判断）」とそれに必要な仕組みを、主体的に継続協議/実行するチームの組成を行ったうえで、入塾するか否かを選択し、事務局はそれに基づき参加者との関わり方を検討するという、相互選考を行った。

その結果、事前説明会に参加した参加者から、住民誰もが地域づくりに関わることのできる仕組みづくりや、安心安全な地域づくりのためのエネルギー自給の仕掛けについて調査検討する2組を塾生として選出した。

その後11月からは、高校生の地域活動を促進するための地域通貨を活用した仕掛けづくりや、大学生インターンの受け入れ事業の継続実施のための民間事業化などに取り組むための2組を主催側と協議のうえ塾生として選出した。

また、幸雲南塾がチーム制であることなどから、本年度は「チャレンジャーズカフェ」を開始した。チームを組成するまでではない個人など、幸雲南塾に入塾する手前のチャレンジャーが気軽にチャレンジについて話し、相談し合う場として月に一度4ヶ月間実施した。

<事業のねらい>

- (1)社会起業家や地域貢献を志す若い人材の発掘及び育成
- (2)若い人材の育成による地域課題の継続的な解決

<塾生> 幸雲南塾（前期入塾）：2組27名、幸雲南塾（後期入塾）：2組7名

【実施内容・幸雲南塾】

月	日	取り組み実施内容	
6月	30日 (日)	幸雲南塾2019開講記念講座 ●目指すゴール：幸雲南塾入塾候補チームが複数組成される	
		対象（優先順）	目指す状態
		(1)今年の幸雲南塾の候補テーマへの関心/活動者 例)コミュニティ財団設立準備委員会 ■■■■さん おたがいさま雲南さん 林業関係者・関心者 芸術関係者	・幸雲南塾入塾に向けた、継続して主体的に協議を行うチームを結成する ・活動の次のステップが見える
		(2)上記チームメンバー候補	上記チームへ参画する
		(3)さらに広いフォロワー層 (市民)	継続して関心を持つ →幸雲南塾アカデミーなどに参加する

		<p>●方向性 雲南の未来と、そこから逆算して今必要なものは何かを具体的に想像し、実現に向けて話し合いたいというムードを高める。 →実際にチームを作る（チャレンジの生態系）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの可能性を開花させる ・子や孫に残す雲南を考える時間
7月	28日 (日)	<p>開講講座よりこの日まで、塾応募期間 →2組が応募、審査の上入塾（前期）</p>
8月	9日 (土) ～ 10日 (日)	<p>幸雲南塾キックオフ合宿</p> <p>●目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有ビジョンを描く（この仲間でも何をどれくらい目指すか） ・テーマゼミの仲間の望みを知る <p>●内容</p> <p>NPO法人CRファクトリーより五井洸利明氏を講師に迎え、入塾した2チームにそれぞれに対し、自己開示のワークショップおよび対話を通じたチームビルディング支援を行った。</p>
10月	24日	<p>年度途中より入塾相談を受けていた2組が入塾（後期）</p>
11月	17日 (日)	<p>雲南市役所主催「雲南ソーシャルチャレンジ大発表会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”チャレンジャーズピッチ”にて、ぐるぐるもりもりチームが発表 ・”チャレンジワークショップ”にて、うんなん市民財団（仮）設立準備プロジェクトがワークショップ開催、および別途ブース出展
12月～1月		<p>幸雲南塾2019最終報告会に向けた発表練習</p>
2020年 1月	25日 (土)	<p>幸雲南塾2019最終報告会</p> <p>●目的</p> <p>塾参加チームそれぞれの参画者を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増やしたい参画者 <ul style="list-style-type: none"> →市民財団：寄付者 →ぐるぐるもりもりチーム：上映会来場者 →地域通貨：高校生に手伝って欲しいアイデア提供してくれる人 →U.C.C：インターン応援者 <p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4チーム塾生発表 ・パネルディスカッション 「”チャレンジが生まれるまち”を支えるフォロワーとは」 ・ブースセッション ・修了式 ・交流会 <ul style="list-style-type: none"> →幸雲南塾2期生 ████████氏によるドリンク提供 →幸雲南塾5期生 ████████氏 企画の演劇公演 (劇団ハタチ族 ████████氏による演劇)

<プランおよび個別支援>

今期の塾では、4組の塾生に対し支援を実施した。

おっちラボスタッフによる支援に加え、別途NPO法人CRファクトリーが各チームに対し、直接コミュニティ（チーム）形成支援を数回（前期入塾2組に対して8月※上記参照・11月・3月、後期入塾1組に対して11月）実施するとともに、チーム支援に対しておっちラボスタッフとも面談を行い、種々の助言を受けた。

<p>チーム名 (チームメンバー) 【プラン】</p>	<p>支援内容</p>
<p>ぐるぐるもりもりチーム [雲南市におけるエネルギー自給の仕組みについて検討]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■9月より、チーム中心メンバーである [] 氏へ対して週一回の定期面談を実施。進捗の共有に加え、ビジョンの整理やプランの具現化に向けた様々な実践を促すエンパワメントの場とした。 ■心身の健康をもたらす関係支援について [] 氏（産前産後ケアはぐ） [] 氏（コミュニティナース）と接続、面談。 ■エネルギー事業に関する情報収集を目的として、「おだやかな革命サミット（都内開催）」への参加費および交通費補助。 ■チームメンバーのビジョン設定とその提供価値に関し、株式会社エンパブリック [] 氏と面談。 ■多様な働き方を学ぶため、ローズマリー合同会社とおおぞら福祉会へ接続。 ■エネルギー事業に関する現地アドバイスと関心層への啓発のため、えねみらとっとり [] 氏・コミュニティエナジー株式会社代表 [] 氏を招聘し勉強会を実施。
<p>うんなん市民財団（仮） 設立プロジェクトチーム [雲南市におけるコミュニティ財団の設立]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■アドバイザーとして、 [] 氏（みんなでつくる財団おかやま理事・全国コミュニティ財団協会常務理事・事務局長）と月に一度面談を実施。設立に向けて様々な助言を受けた。 ■「東近江三方よし基金」および「みんなでつくる財団おかやま」への先進事例視察費補助。 ■愛知県で開催された「全国コミュニティ財団協会6回年次大会」への参加に伴い、旅費の補助。 ■次年度以降設立するコミュニティ財団の運営等に関し、公益財団法人京都地域創造基金の [] 氏へ相談。助言を受けた。
<p>コミュニティ通貨導入検討チーム [雲南市におけるコミュニティ通貨導入]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■コミュニティ通貨の設計と導入の実践者である株式会社カヤックの [] 氏、 [] 氏と9月（鎌倉）、11月、12月（オンライン）、2月に面談を実施。 ■コミュニティ通貨のプロトタイプ制作に向けた資金調達に関して、一般財団法人社会変革推進財団の [] と12月、1月、2月、3月に打ち合わせ。一部は上記カヤックとの面談に同席。
<p>U.C.C.チーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■実践型インターンシップ活用等に関し、認定NPO法人ETICの [] と面談を実施。 ■実践型インターン事業の経営について株式会社御祓川の [] 氏と面談を実施。

【Unnan Community Campusの民営化検討】	■事業立ち上げについて、当法人副代表理事[]と面談を実施。
--------------------------------	--------------------------------

<主な成果>

(1) ぐるぐるもりもりチーム

チームで実現したい世界観を共有し、仲間を見つけるために12月2月に勉強会とワークショップ、3月にプランに関連する映画上映会を実施。今後も継続してイベント等を実施していく見込み。

(2) うなんん市民財団（仮）設立プロジェクトチーム

財団設立に向けて基本財産300万円の寄付キャンペーンを12月28日「はじまりのはじまりの会」から開始。キャンペーン最終日である2月29日目標金額に達成し、「一般財団法人うなんんコミュニティ財団」設立に向け手続きを進めている。

(3) コミュニティ通貨導入検討チーム

キャリア教育に関わるメンバー、高校生、地域課題にチャレンジする人材に伴走するメンバー、企業の地域課題解決に伴走するメンバーで構想を検討し、プロトタイプのコアとなるテーマを「高校生のチャレンジ促進」と定めた。アプリ開発担当者とも協議を重ねて、ActcoinというSDGs推進の仮想通貨を運営する会社との提携の方針を決めた。また、プロトタイプ開発のための助成金500万円を獲得。

(4) U.C.C.チーム

次年度運営資金のクラウドファンディングを2月より開始。「一般社団法人コミュニティキャリアーズ」設立に向け手続きを進めている。

【実施内容・チャレンジャーズカフェ】

月	日	取り組み実施内容 (参加者相談内容等)	参加者 (スタッフ含まず)
6月	19日 (水)	・松江などを中心に開催しているものづくりWSの開催場所や参加者層の開拓について ([] さん)	6名 (うち市外からの参加3名)
7月	20日 (土)	・保育士としての今後と地域貢献の仕方について ([] さん)	2名 (うち市外からの参加1名)
8月	21日 (水)	・開催する防災啓発イベントの告知方法などについて ([] さん)	7名 (うち市外からの参加1名)
9月	21日 (土)	・幸雲南塾での活動について意見交換 ([] さん)	3名 (うち市外からの参加2名)

<主な成果>

全4回実施した本企画にはのべ18名が参加（うち市外参加7名）し、それぞれの活動について共有・相談を行った。

- 6月参加者が三日市ラボにて工作WSを実施。出雲市から三日市ラボ初来訪者が参加。
- 8月は幸雲南塾OBの [] 氏に料理提供を依頼。それを契機となり市内でスパイスをつかった商品開発に取り組む [] 氏と商品開発ミーティングを3回実施。 [] 氏は今年度商品開発のための助成金を取得し、事業化に取り組む。
- 9月参加者のうち1名が、当企画での相談をきっかけにコミュニティ財団立ち上げに関し

てプロボノボランティアとして関わりを継続している。

4.2. 幸雲南塾アカデミーの企画・運営

起業や事業を興すまでではないが、地域を良くする取り組みを学びたい・参画したい、というニーズに対応するため、地域を知る・学ぶ「はじめの一步」の場として、講義形式で学び考える機会となる幸雲南塾アカデミーという勉強会を実施した。

<事業のねらい>

- (1) ローカルチャレンジャーの活動の促進・拡大
- (2) ローカルチャレンジャーの裾野の拡大

昨年度に引き続き、ローカルチャレンジャーの次の活動に繋げるための学びの場を設計した。

今年度は、幸雲南塾のテーマでもある「まちの可能性を開花させる」「子や孫に残す雲南を考える時間」と同義である、誰も取り残さない持続可能な開発目標であるSDGsをテーマとした。国連は持続可能で安定した社会をつくるため、地球に住む全ての人たちに具体的な行動を求めているが、すでに地域ではローカルチャレンジャーが安心安全な社会をつくっていかうと様々な取り組みがされている。一方で、その取り組みが地域で高い認知度でないこともある。社会の課題やそれに取り組むローカルチャレンジャーを知り、課題について考え、そして参加者自身も小さなことから実践するチャレンジャーになる、その一步を踏み出す機会として開催した。

幸雲南塾アカデミーは、より身近な市内チャレンジャーによる話題提供及びワークをする「楽しいまちづくりを考えてみる会」と、日本で先進的な活動をする市外チャレンジャーによる講演及びワークをする「幸雲南塾アカデミー」に分けて実施した。当日は、雲南や日本各地の現状や課題を共有する時間と、私たちが目指す雲南はどういうものか、そこに向かうためにはどう楽しく取り組むことができるか等を考え出し合うワークを実施し、具体的に個人及び話題提供者と繋がり次の一步をどう踏み出すかを考えた。

【実施内容・市内実践者】

月	日	取り組み実施内容	参加者 (うち新規)
4月	14日 (日)	雲南のチャレンジと木次乳業の歴史を味わう朝食会 話者：■■■■氏（雲南市役所政策企画課部長） 雲南が誇る先輩チャレンジャー、「戦後社会教育の開拓者」とたたえられた旧日登中学校校長の■■■■先生と、木次乳業創業者の■■■■さん。お二人のチャレンジの歴史を学ぶ。	16 (8)
7月	8日 (月)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.1 ～森林活用・食～ 話題提供者：■■■■氏（フリーランス木こり）、■■■■氏（Naofarm） 場所：アルメ	12 (4)
8月	8日 (木)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.2 ～繋がりづくり・就農～ 話題提供者：■■■■氏（NPO法人カタリバ）、■■■■氏（あごうや農園） 場所：おんせんキャンパス	12 (7)
9月	6日 (金)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.3 ～難病の方のサポート・男共同参画～ 話題提供者：■■■■氏、■■■■氏 場所：下熊谷交流センター	9 (4)

10月	9日 (水)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.4 ～産前産後ケア・中山間地域の移動～ 話題提供者：■■■■氏（産前産後ケアはぐ）、 ■■■■氏（株式会社かみしろ）、 ■■■■氏（おたがいさま雲南） 場所：八日市交流センター	8 (1)
12月	13日 (金)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.5 ～ひきこもりの方の支援・蓄電器～ 話題提供者：■■■■氏（雲南市社会福祉協議会）、 ■■■■氏（アエラ地域文化デザイン室） 場所：海潮交流センター	9 (1)
2月	27日 (木)	楽しいまちづくりを考えてみる会vol.6 ～学ぶことと働くこと、循環する商品と経済～ 話題提供者：■■■■ 場所：尺の内農園	29

【実施内容・県外講師】

月	日	取り組み実施内容	参加者 (うち新規)
5月	16日 (月)	多世代が参加したくなる地域活動を企画する！～イベント企画で活かす"コミュニティデザイン"の手法～ 講師：■■■■氏ほか4名（NPO法人Co.to.hana） “多様な人と人とのつながり”をつくるためのイベント企画のポイントを学び、参加者同士で語り合いながら、自分たちの企画のあり方を考える。 場所：三新塔交流センター	26 (10)
7月	25日 (木)	森のまち北海道下川町から学ぶ！環境と経済を両立させるまちづくり 講師：■■■■氏（NPO法人森の生活） 下川町の森林活用などの事例から、環境と経済を両立させるまちづくりやSDGsについて学ぶ。 場所：三新塔交流センター	19 (10)
9月	27日 (金)	ごみは無くせる！～ごみゼロのまち徳島県上勝町の取り組みから～ 講師：■■■■氏（NPO法人ゼロ・ウェイスト） ゴミ収集車や収集業者が存在しないながらも、リサイクル率81%を誇る徳島県上勝町。その経緯や取り組みを学び、自分たちにできることは何か考える。 場所：春殖交流センター	16 (4)
10月	20日 (日)	多様なセクターで協働を成功に導く～持続可能な社会のために～ 講師：■■■■氏（株式会社エンパブリック） 様々な要素が絡み合い複雑性が増していく社会において、立場や見方・捉え方の違う多様なセクターで協働して課題解決を目指してきた実例を学ぶ。 場所：掛合交流センター	10 (2)

11月	2日 (土)	「助けてあげる」から「一緒につくる」へ ～難民の友人とカラフルな未来をつくろう！～ 講師： ████████ 氏 (NPO法人WELgee)、 ████████ 氏 様々な事情により自らの国を追われ、日本にいられた方々を巡る現状を学び、ともに社会を創る友人たちについて知る機会とする。 場所：多文化カフェSoban	13 (1)
3	25日 (水)	認定NPO法人カタリバから学ぶ！子どもの居場所と緊急時の支援 講師： ████████ 氏 (認定NPO法人カタリバ) 子どもの居場所づくりと緊急時の支援について振り返り、今後を検討する。 場所：三日市ラボ (動画配信)	15

<成果>

(1) ローカルチャレンジャーの活動の促進・拡大

参加は、昨年度の145人より49人増え、延べ194名だった。また、参加者の中から次のような実践が生まれた。

- ・ 話題提供をしたローカルチャレンジャーが新たに勉強会を主催
- ・ 話題提供をしたローカルチャレンジャーと参加者が連携し、毎月活動を継続
- ・ 参加者（経営者）が自社で産前産後ケア研修導入
- ・ 今期塾生がアカデミーにて主催イベントの周知をきっかけに3名参加
- ・ アカデミー参加者の呼びかけにより、事業者が来年度環境への取り組み（ゼロウェイスト認証等）を検討

(2) ローカルチャレンジャーの裾野の拡大

今年度、新規のアカデミー参加者は52名だった。参加者の参加きっかけの理由としては「食」や「親しんでいる場所」が要因として挙げられる。社会参画のきっかけが少ない人の生活の導線の中にこのような場を設けることがポイントであると考えられる。

4.3. スペシャルチャレンジ・ホープ事業における支援

昨年度より雲南市が開始した雲南スペシャルチャレンジ（以下スペチャレ）・ホープ事業は、雲南市の課題解決または価値創造に寄与する事業を起こす者を対象に、金融機関の融資と雲南市からの補助金の同額マッチング（上限100万円）および保証料・利子補給を行うものである。

おっちラボは事務局を務めるとともに、応募者に対し応募申請前のプロジェクトのブラッシュアップ支援、および採択者に対し地域課題解決に向けて開催した協働会議にかかわる支援を行った（協働会議支援に関しては後述）。

<採択者とプロジェクト内容>

以下の4者が採択された。

【前期募集】

- ・ ████████ 氏 (株式会社Community Care) : 「痛みで生きがいをあきらめない生活」を目指し、リハビリ職が痛みを小さいうちに抑える生活・就業習慣を共に創る「暮らしのリハ室」

【後期募集】

- ・ ████████ 氏 (うんなんプロモーション) : 人や本との出会いを創出するとともにチャレンジを実践でき、まちの人のキャリア支援の拠点となるブックカフェの設営
- ・ ████████ (合同会社EasyGoJapan) : 全国でも稀な室内キャンプ場で

提供するオリジナルテント作成体験やアウトドア好きのコミュニティ形成を通して日本一魅力的な田舎をつくる

- 氏：市内小規模事業者向けの島根県特産品ECサイトの運営

なお、氏の所属する（株）Community Careは幸雲南塾5・7期生、氏は幸雲南塾3・4期生、氏は幸雲南塾スタート8期生である。

<採択後における支援内容>

採択者は、採択者の感じている地域課題の解決に向け、それに係る関係者を集め話し合う協働会議を開催した。協働会議では、関係者同士がそれぞれの活動内容そのものやその中で感じている問題意識を共有し合い、課題の解決のために共に考え合える場の創出を目指した。

前期採択者である氏は6月、12月の2回の協働会議を開催した。おっちラボは主に協働会議前に採択者と面談をして課題整理と会議企画の支援を行うとともに、開催時に運営支援を行った。他3氏は12月の採択後1～3回の協働会議ないし関係者による意見交換会を行った。

また、プロジェクトの収益面に関し、各氏は雲南市商工振興課主催、おっちラボも企画に参画した新事業創出セミナーにおいて、株式会社日本総合研究所（以下、日本総研）大森充氏からのアドバイスを受けた。

採択者	採択者の実践	おっちラボの支援内容
氏	<p>■9月22日（日）第1回協働会議「みんなで考えよう腰痛・ひざ痛ワークショップ」を下熊谷交流センターにて開催。参加者は自主組織、医療関係者など22名（スタッフ含む）</p> <p>■9月22日（日）日本総研氏と「暮らしのりハ室」×企業における可能性を協議。企業従業員を対象とした”痛み”にまつわるアンケートの調査項目なども相談。</p> <p>■12月12日（木）第2回協働会議「暮らしの中から解決 ひざ痛・腰痛」を阿用交流センターにて開催。参加者は阿用住民・地域自主組織スタッフ、他自主組織福祉推進員など47名（スタッフ含む）</p> <p>■3月26日（木）第3回協働会議「暮らしの中から解決 ひざ痛・腰痛」開催を予定していたが、コロナウイルス感染拡大予防のため、開催中止。</p>	<p>開催に先立ち、開催目的の整理やゴールの設定、当日の内容などについて2度協議の場を持った。開催当日もファシリテーターなどスタッフとして運営に参画。</p> <p>場の設定及び調整。</p> <p>開催前に1度内容について協議。当日も運営スタッフとして参画。</p>
氏	<p>■12月11日（水）・2月18日（火）・3月17日（火） 新事業創出セミナー：日本総研氏と事業、組織内チームビルディング及びブックミーティング企画に関し、壁打ち。</p> <p>■3月18日（水）に第1回ブックミーティングを開催。</p>	<p>場の設定。</p> <p>開催に先立ち、新事業創出セミナーの内容も踏まえ対象層である中高生に刺さるミーティングのあり方を協議、およびそれに向けたネ</p>

		クストアクションの整理。 開催当日はおっちラボ スタッフが同席した。
	<p>■12月11日（水）・1月21日（火）・ 2月18日（火）・3月17日（火） 新事業創出セミナー：日本総研■■■■氏と事 業（オーダーメイドできるテント開発、オ ンラインコミュニティ組成、スペチャレ事 業外ではあるが防災用オールインワンボッ クス）に関し、壁打ち。</p> <p>■2月14日（金）オンラインコミュニティ構 想について、■■■■氏と壁打ち。</p> <p>■2月17日（月）事業内容と体制の変更につ いて金融機関・市関係者へ報告・協議。</p> <p>■4月中 オンラインコミュニティについて の意見交換会開催予定。</p>	<p>場の設定。</p> <p>場の設定及びフォロー。</p> <p>企業内の役割および体制変 更等について、事前に■■■■ ■■■■と面談。</p>
	<p>■12月18日（水）雲南市地域振興課 ■■■■ ■■■■</p> <p>■12月21日（土）加茂交流センターと協議</p> <p>■2月14日（金） 地域づくり担当者会議出席</p> <p>■3月24日（火）自主組織座談会 いずれも地域自主組織へのIT導入及び業務 効率化に向け、地域との対話を通し自身が 果たせる役割を模索した。</p>	<p>12月はいずれもおっちラボ スタッフが同席し、■■■■ ■■■■氏のフォローを行っ た。</p>

<主な成果>

- ■■■■氏：提供するプログラム「暮らしのリハ室」は、6月に開催した協働会議に出席した地域自主組織を中心に、6組織において導入され、地域住民に対して暮らしの中から痛みを改善する取り組みが展開された。プログラムには大学研究者も参画しており、今後、プログラムの客観的な効果測定が期待される。また、市内の企業がプロジェクトに関心を持ち、従業員に対するアンケートを共催。ひざ痛・腰痛が原因で仕事に支障をきたしていることが明らかとなり、来年度以降、当該企業に対する暮らしのリハ室参入が前向きに検討されている。
- ■■■■氏：キャリアデザイン支援の拠点を学校外につくるということで、学校教育の現場との連携のため、教育支援コーディネーター・学校教師との連携体制づくりを進めた。また、コロナウィルスの影響により支援対象である中高生のヒアリング開催が難しくなったため、急遽知人大学生へのヒアリングに変更・実施。課題抽出をしつつ、支援の提供者として可能性も模索した。ブックカフェ事業は諸事情により事業転換が必要になったが、新たな方向性での支援体制構築のために、改めて関係者との協議を進めようとしている。
- ■■■■氏：コロナウィルスによる中国からのテント材料仕入れ遅延が生じたが、状況に応じた事業展開を試み、材料が到着し次第、クラウドファンディングサービスを通じて開発したテントの販売を開始できる体制を整えている。また、アウトドア好きによるコミュニティの立ち上げを準備中。
- ■■■■氏：市内事業者向けに、ICTセミナーを実施する方向で商工会や県の産業振興財団と調整を実施し、関係性を構築した。また、地域自主組織へのICT導入に向け、複数地域と意見交換を行ない、次年度以降の支援体制の素地を整えた。

4.4. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務

(1)ローカルベンチャー推進協議会の概要および目的

ローカルベンチャー推進協議会（以下「協議会」）は、2016年9月、地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指し、西粟倉村とNPO法人ETIC.の呼びかけに賛同した8つの自治体により、内閣府の地方創生推進交付金に「広域連携によるローカルベンチャー推進事業」として申請し、採択されたのをきっかけに発足した。自治体が拠出金を負担し、事務局をNPO法人ETIC.に委託して運営している。自治体同士や民間団体が連携し、全国からローカルベンチャーの担い手を呼び込み、事業成長を支援し、5年間で総額50.4億円のローカルベンチャーによる売上規模増、114件の起業家創出、269人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動を開始した。

2017年、新たに雲南市を含む2自治体が、2018年には新たに1自治体が参画し、2020年度末までに60.1億円のローカルベンチャーによる売上規模増、176件の起業家創出、366人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動している。

代表幹事：岡山県西粟倉村

副代表幹事：岩手県釜石市

参画自治体：北海道同厚真町、宮城県気仙沼市、同石巻市、石川県七尾市、島根県雲南市、徳島県上勝町、宮崎県日南市、熊本県南小国町

事務局：NPO法人ETIC.

(2)雲南市の加入経緯および目的

雲南市と当法人は、本事業（課題解決型人材育成事業）に関して、主に①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南市で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成の3点を課題として認識していた。雲南市と当法人は、NPO法人ETIC.の宮城治男代表理事より協議会への加入の打診を受けて検討し、加入することで上記課題の改善につながると判断し、当法人をローカル事務局とすることとして参加を決めた。

これを受けて、平成29年5月15日のローカルベンチャー推進協議会の総会において、雲南市の加入が承認された。

さらに平成30年度より、④地域内のローカルベンチャー機運の醸成も図って取り組んでいる。

(3) 令和元年度の協議会における協働内容

本年度は上記①～④のうち、①・②・④に関して事業を実施した。

①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み

日付	実施内容	成果
4月～ 3月	【専門人材の活用】 協議会界隈のネットワークで知りえた専門性の高い人材が、雲南市内においてその専門性と知見を活かしたサポートを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ETIC.の担当コーディネーターより社会的インパクト評価のリサーチに長けた■■■■氏の紹介を受け、上記財団設立プロセスの研究及び雲南市の基礎データの分析等を実施。 ◎本協議会パートナー自治体の下川町よりNPO法人森の生活・■■■■氏を幸雲南塾アカデミーの講師として招聘。 ◎元同町ローカルベンチャー事務局を務めた■■■■氏より(株)カヤックの■■■■氏の紹介を受け、幸雲南塾参加者のコミュニティ通貨の仕組みの

		<p>助言を受けた。</p> <p>◎幹事自治体である七尾市の(株)御祓川・■■■■氏より、幸雲南塾参加者である実践型インターンチームへの助言を受けた。</p> <p>◎幹事自治体である上勝町の資源循環の取組みを推進してきたNPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー坂野晶氏を招聘し、雲南における環境系市民活動促進の仕掛けを協議している。</p>
11/7~8	<p>【ローカルベンチャーサミット】</p> <p>①10自治体の首長による記者会見</p> <p>②10自治体と都市部の関心ある企業との意見交換の場としてのイベント。竹中工務店やヤマハ発動機も参加して進める「企業チャレンジ」など、雲南市の取組みを都市部の企業などに発信。また、協議会有志によるローカルベンチャーの資金調達に関する研究会の発表を実施。</p>	<p>◎雲南の取組みを発信することで、関心を持つ都市部企業が増え複数社から問い合わせあり（住友生命等）。また、メディアにも多数掲載。</p> <p>◎資金調達研究会に協力いただいた(一財)社会変革推進財団の■■■■氏が、次年度の本格調査にも協力いただくこととなった。</p>

②雲南市で起業する都市部人材の獲得

日付	実施内容	成果
4月～3月	<p>【企業チャレンジ】</p> <p>①本事業の開始にあたり、H31年4月11日に竹中工務店・ヤマハ発動機・ETIC.雲南市の4者で記者発表を行った。</p> <p>②「企業チャレンジ」プラットフォーム運営のため、ETIC.、竹中工務店、ヤマハ発動機、PwCコンサルティング、NTTドコモとの協議を昨年度より引き続き実施。</p> <p>③上記のなかでの具体的課題解決プロジェクトの設計のため、ヤマハ発動機、竹中工務店、ヒトカラメディア、ITイノベーション、日本総研等と協議。</p> <p>本年度は、上記を企業チャレンジ事務局が伴走し、当法人は、これらの企業との将来の連携のための協議に参加するにとどめた。</p>	<p>◎企業チャレンジ事務局である竹中工務店・■■■■氏との連携により、企業チャレンジや中高生のチャレンジをつなぐ「コミュニティ通貨」を雲南市において導入するプランニングを実施し、実証実験のための資金調達が可能となる見込み。</p> <p>◎ITイノベーションによる住民とのワークショップにおいて、若い女性の活躍する場作りについて活動の方向性が共有され、主体となる方の顔が見えてきた。</p> <p>◎（企業チャレンジの枠組み外）Life is Techを教育委員会に紹介し、同社の提供するプログラミングキャンプが、来年度以降中高生のスペシャルチャレンジの推奨コースとなる見込み。</p>
6/1, 8/24, 12/14-15	<p>【ローカルベンチャーラボ（開講式・中間合同ラボ・デモデイ）】</p> <p>①ローカルベンチャーラボ内に、当法人の理事■■■■をファシリテーター、副代表理事■■■■をメンターとする「ソーシャルビジネス」のラボを設置。</p>	<p>◎ソーシャルビジネス・ラボ参加者の作業療法士・■■■■氏が、石巻より奥出雲町に移住して雲南のコミュニティナースや訪問看護ステーション・コミケアと協働して挑戦することを決めた。また、同参加者で「おてつたび」を運営する■■■■氏を</p>

	②デモデイにスペチャレ採択者の ■■■■氏を招待。	うなん暮らし推進課と接続し、継続協議している。 ◎■■■■氏のローカルベンチャーラボへの参加動機が高まり、現在参加を協議中。
2/29	【地域オモシロ大作戦】 ETIC.のプログラムに参加した約40名の起業家等と協議会の各自治体とのマッチングイベント。自治体が地域資源を持ち寄り、起業家がそれと各自の事業との掛け合わせを提案する機会(オンライン開催)	◎以下の5名の起業家（起業検討中も含む）が雲南省の地域資源（木材利用及びスパイス）に関心を持ち、現在現地訪問の調整が行われている状態。また、一部の方には雲南省を実験フィールドとしつつローカルベンチャーラボに参加することを勧めている。 ・■■■■氏：雲南省出身で京都の会社に勤務。理化学研究所と協力し、雲南省でのシロアリ養殖を検討中。 ・■■■■氏：全国レトルトカレー協会。雲南省の特産を使ったレトルトカレーを

③コーディネーター力の養成

日付	実施内容	成果
6月 ～ 11月	【資金調達研究会】 協議会有志にて月に1回オンラインで、ローカルベンチャーの資金調達に関するケースの共有やベンチャーキャピタルの方の話を聞く会を実施。ローカルベンチャーサミットで成果発表。	◎多様なローカルベンチャーのステージや業態に応じた資金調達手法があることが整理された。 ◎今後詳細の調査をするうえで協力してくれる人材とつながることができた。

④地域内のローカルベンチャー機運の醸成

日付	実施内容	成果
11/8	【ローカルベンチャーサミット】 サミット内公開イベント「新たな事業創出のための、自治体×企業連携のための作戦会議」にて雲南省から吉岡幸浩氏が話題提供者として参画。	◎■■■■氏はうまく自事業の価値を伝えることができなかつたと反省していたが、後期スペチャレ・ホープに応募・採択される前段のタイミングにおいて、ビジネスプラン研鑽の大きな契機となった。

(3) 総括

前述のとおり、①雲南省のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南省で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成のおよび④地域内のローカルベンチャー機運の醸成の4点の課題に対して、本協議会との連携が進んだことにより改善が見られている。

①については、昨年度に引き続き、雲南省内のリソースだけでは解決できない塾生や市内団体の課題に対して、都市部や他地域の人材を繋げることで塾生や市内事業者のアクションが促進されてきている。

②については、雲南で起業する人材を確保できなかった（1名がある事業を小計して起業する目まで行ったが雲南側の事情で頓挫）ことが悔やまれる。

③については、資金調達の分野でリテラシーを上げることができた。

④については、今年度は地域の事業者や起業家を協議会のプログラムに接続することが十

分にできなかった。来年度以降、重点的に強化したい分野である。

4.5. 実践型インターンシップの活用

<事業のねらい>

- (1)（おっちラボに対して）地域内や県外の若者に関わってもらうことにより、おっちラボのプランや活動の進展を助ける。
- (2)（インターン生に対して）幸雲南塾生のプランニングや活動への関わりや地元の方々との交流を通して、地域課題解決や未来創造に向けた活動に取り組む主体性を引き出す。

【実施内容】

- (1) おっちラボの事業サポート
- (2) 地域住民や団体との交流・ヒアリング・イベント企画など
- (3) 各関係機関にヒアリング・会議への同席など

【参加人数】

長期受け入れ：1名参加（男性1名／11か月／県外出身者）

【主な成果】

インターンを通して、以下のような効果があった。

- (1) おっちラボと関係機関や地域自主組織等地域住民との関係性がより良好になった
とくに市民財団の設立にあたり、本人も自ら塾生として設立準備に参画し、立場はあくまでも財団準備委員の一員としてではあったが、積極的に地域に飛び出して関係構築に努めた。その結果、財団設立資金集めに大きく貢献したほか、インターン生を通じておっちラボや幸雲南塾の存在を知ったり、より関係の深まった市民や機関が多く現れた。
- (2) インターン生が様々な活動に取り組むにあたり、本人の主体性を引き出せた
インターン中、塾生や地域住民との関係構築を通して、地域で必要なことは何か、インターン期間中に自分でできることや挑戦したいことは何かを考えて実行していた（添付書類参照）。

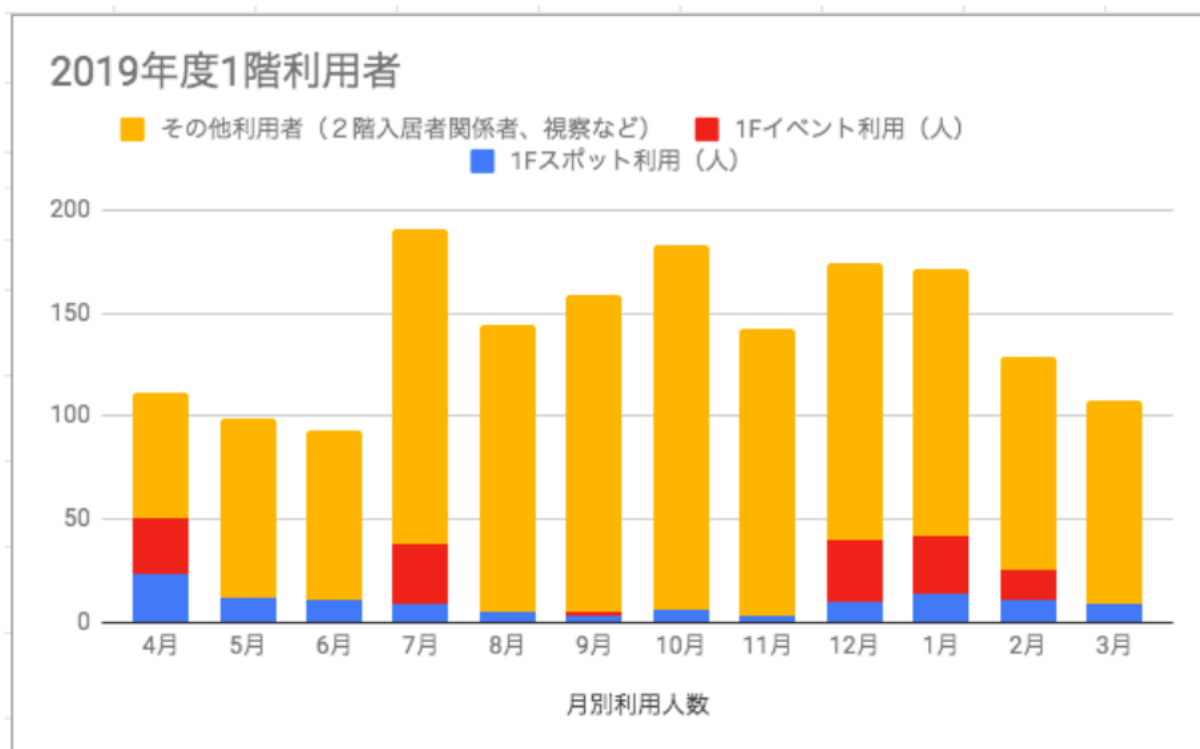
4.6. 三日市ラボの運営

<事業のねらい>

- (1) 働く場所の提供
- (2) 地域住民のアクションの増加

<実施内容>

- (1) コワーキングスペースの管理運営
利用者数（延）（H31年4月からR2年3月まで）
別紙参照



(2)シェアオフィスの管理運営
利用者について (H31年4月からR2年3月まで)

入居者	内容	本社	席数	期間
NPO法人カタリバ	キャリア教育、不登校支援	東京都	6席	12ヶ月
プランニングオフィス コダマ	調査研究	雲南市	1席	6ヶ月
そんさんひょん	起業型地域おこし協力隊	雲南市	1席	6ヶ月

(3)三日市ラボチャレンジショップ

出店者	内容
雲南	アクセサリー展示販売
雲南	革製品展示
雲南	市内産・加工のお茶（番茶・紅茶）販売
出雲	ポストカード、ステッカー展示販売
奥出雲	出雲民藝和紙アクセサリー展示販売
宮城	アクセサリー、ペンケース展示販売

【主な成果】

(1)働く場所の提供

三日市ラボの主な利用者は、雲南市内利用者では2階の入居者や入居関係者、雲南市外利用者では企業チャレンジ関係者であった。また、配偶者の里帰り出産で約一ヶ月間雲南市内に滞在するシステムエンジニアの方の2階テーブルの短期利用もあった。個人の延利用人数の

割合としては、雲南市26.8%、島根県（雲南市以外）20.8%、東京都28.3%と東京都からの利用者割合が高かった。

1階の利用は主に2階入居者関係者又は行政関連の視察等で全体の85%を占めている。一人で立ち寄り仕事をするコワーキング利用者は、前年度の67人から117人と増加しているが、今年度は会議利用も多く117人のうち45人は会議の同席者であるため、実人数は昨年度から11人増加し72名である。年1回のみ利用者は昨年度25人、今年度27名で、近年、年に25名程度は当施設に「ふらっと立ち寄る」状態となっている。

(2) 地域住民のアクションの増加

今年度は幸雲南塾塾生の勉強会やイベント利用が毎月あり、地元のチャレンジャーたちが次のアクションを考えるための拠点となっている。行政関係者では、第一層生活支援コーディネーターや企業チャレンジ等の関係者の会議利用も定期的にあった。また、2階入居者であるNPO法人カタリバの面談や会議で地元高校生が利用することも増えている。

(3) 緊急時の協働「雲南コミュニティラボ」

新型コロナウイルス感染対策による小中学校の休校時に2階入居者であるNPO法人カタリバ主催で、1階コワーキングスペースにて約2週間子どもの預かりを行った。三日市ラボ利用にあたってはうなん暮らし推進課に連絡、相談し当日おっちラボでも見守りを行うなどした。

4.7. コーディネーターの支援力向上

コーディネーターがそれぞれの得意分野を生かしたスキルアップのための研修会への参加を行った。

従前より、アドバイザーから、中間支援組織に必要な8つの機能の提示を受けていたことを受け、本年度も前年度に引き続き、とくに相談対応力とコーディネート・ネットワーキング力の向上を重点課題とした。

(参考) 『中間支援組織が持つべき8つのチカラ』

1. 相談対応力
2. 調査・情報収集力
3. 編集・発信力
4. コーディネート・ネットワーキング力
5. 資源提供力
6. 内部の人材育成力
7. 政策提言力
8. 施設運営力

具体的には、ローカルベンチャー推進協議会で提供される研修のほか、下記の研修に取り組んだ。詳細は添付書類を参照。

(1) 2019年度中間支援組織・支援センター役職員向け合同研修会

開催：平成31年4月26～27日、岡山県総合福祉ボランティアNPO会館

(2) システム思考セミナー

開催：令和元年6月15～16日、TKP御茶ノ水カンファレンスセンター

(3) ローカルベンチャーラボ特別講義

開催：令和元年7月13日、ETIC.セミナールーム

(4) ファンドレイジングジャパン2019

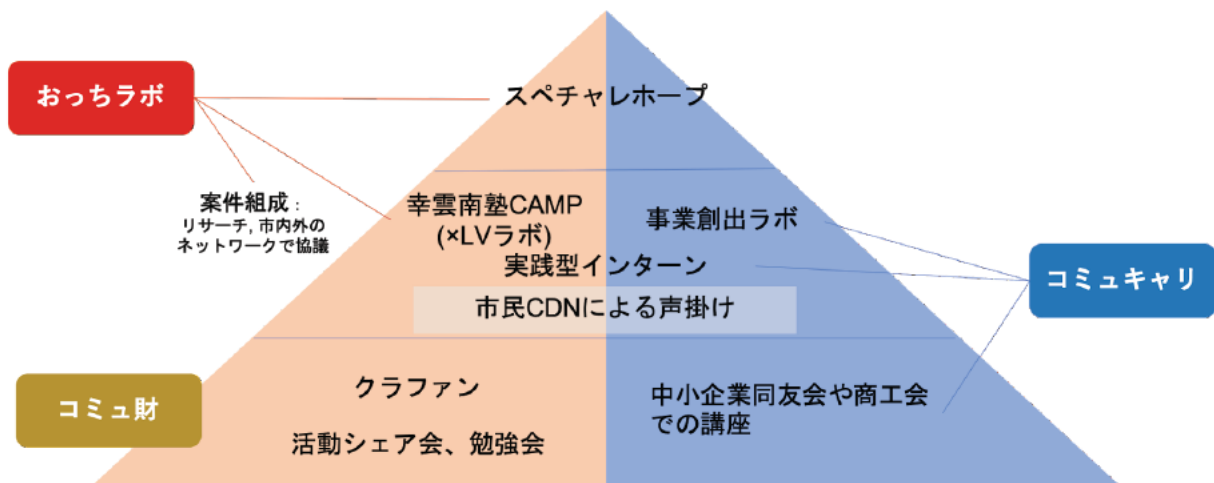
開催：令和元年9月14～15日、駒澤大学

- (5) SDG s時代に複雑な社会問題に挑むためのパートナーシップ戦略講座 及びゼミ「問いかけ力を磨こう」
開催：令和元年11月23～24日・12月15日、エンパブリック根津スタジオ
- (6) 助成プログラム・オフィサーのための基礎研修
開催：令和2年1月10～11日、日本財団ビル
- (7) 大津市SG-Park視察
開催：令和2年2月21日

5. 今後の取り組み及び課題

今年度は、雲南の現状を踏まえ、小さなチャレンジを支え合う市民の繋がりはできてきているため、雲南の持続可能性に大きな影響を与えうる、雲南の可能性を現実にする仕組みづくりに注力する方針とした。その方針に基づき、幸雲南塾2019では、市民の寄付で市の困りごとを解決する市民財団、市民の助け合い（社会関係資本）をつなぐコミュニティ通貨、学生と地元企業双方のチャレンジを促す学生インターンシップの事業化、市民エネルギーを促進する取り組みの4つが本格的に始動した（2件が起業）。スペチャレ・ホープの伴走支援においても、地域にインパクトを及ぼすために、事業の受益者を含む関係者との会議（またはワークショップ）の場をもうけ、より本質的な変化をもたらせる取り組みを模索した。

次のステップとして、上記のような「地域貢献活動の事業化」に加えて、「既存事業者の地域貢献化」という軸も強化して、スペチャレ・ホープに挑戦する市民を増やしていく。そのため、ローカルベンチャーラボや新たに創設する事業創出セミナーと連携して、事業プランニングの質を高めることに注力する（下図参照）。ここにおいて、今まで以上に案件発掘・組成力が求められるため、市民財団、商工会その他の地域内の活動団体との情報共有と相互支援を強化していく。



令和2年度事業報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

特定非営利活動法人おっちラボ

1 事業年度内の理事会・総会開催概要

①理事会

- ・令和3年3月22日
開催場所：三日市ラボおよびオンライン会議システム
出席者数：理事3名（理事人数 3名）
議決事項の概要：第8期事業報告および収支予算について
第9期事業計画及び予算案について
定時社員総会に付議すべき事項

②総会

- ・令和3年5月24日
開催場所：三日市ラボ
出席者数：10名（うち表決委任者4名）／正会員数 10名
議決事項の概要：第8期事業報告及び決算について

2 事業の概要および成果

別紙参照

3 事業の実施に関する事項

①特定非営利活動に係る事業

事業名	実施場所	事業実施の期間 (契約期間)	従事者数	受益 対象者数	事業費 (単位：円)
課題解決型 人材育成・ 確保事業	雲南 市内	H30.4.6~H31.3.31	4名	60名	経常収益 18,565,622 経常費用 ▲18,175,834 収支合計 389,788
木材利用推 進戦略策定 支援事業	雲南 市内	R2.9.25~R2.12.31	2名	40名	経常収益 1,100,000 経常費用 ▲1,101,810 収支合計 △1,810

以上のほか、次の事業を実施した。

	視察事業	研修事業
経常収益	40,000	277,000
経常費用 (人件費除く)	▲0	▲0
収支合計	40,000	277,000

②その他事業

	商品販売事業	業務支援事業
経常収益	6,350	60,000
経常費用 (人件費除く)	0	0
収支合計	6,350	60,000

令和2年度課題解決型人材育成・確保事業 報告書

特定非営利活動法人おっちラボ

【目次】

1. 事業のねらい
2. 前年度までの実績
3. 事業実施体制
4. 事業実施内容とその成果
5. 地域の持続可能性を高める仕組みの検討

主な事業の成果

事業名	成果
幸雲南塾2020 (ローカルベンチャー ラボと共催)	参加者は雲南周辺地域（松江市・奥出雲町を含む）から 6名。うち3名が起業（新事業立ち上げ含む） 。 ほかローカルベンチャーラボに参加する全国からの参加者が9名。うち 2名が雲南と継続的な関わり を検討。
スペシャルチャレンジ・ホープ事業	過去 最多9件の応募 を受け、本採択（補助金支給）された 2件のいずれも事業化 を実現。 ほか7件は「育成枠」として伴走し、うち 3組が来年度の再応募を予定 している。
ローカルベンチャー 協議会	協議会や同プログラムを通じた雲南エリアでのチャレンジ6件（※）、調整中案件6件（※）、研究プロジェクト3件。

1. 事業のねらい

雲南市は、平成27年度から平成36年度（当時）までの10年間のまちづくりの目標と方向性を示す「第2次雲南市総合計画」及びこれを基に策定した「まち・ひと・しごと創生 雲南市総合戦略」において、若者や地域自主組織等による地域課題解決に向けた取り組みを促進し、多様な人材や団体等が課題解決にチャレンジする総働のまちづくりを推進することとしている。子どもから若者、シニア世代まであらゆる世代を通してチャレンジに優しいまちを目指している。

雲南市をはじめ多くの地方で、課題解決や仕事の創生等による持続可能な地域づくりの推進や定住対策などの重要性が高まっている。その中でも、20～30代の若者世代は地方創生の即戦力として活躍が期待されている一方、就学や就職で市外へ流出する割合も高くなっている。若者世代にとって魅力的なまちづくりに取り組み、雲南市で課題解決にチャレンジしたいと思う若者を増やしていくことが重要である。

地域づくりや地域の課題解決を、実践を通して学ぶ幸雲南塾は、県内でも先進的な取り組みとして、2011年に第1期がスタートして以降、昨年度までに延べ166名の卒業生（ラボアカデミー修了者を含む）を輩出してきた。今年度も、幸雲南塾を開講して引き続き地域課題

にチャレンジする若者を発掘・育成した。地域内外の取り組みが混ざり合うことを目指し、全国的な育成の場であるローカルベンチャーラボとの共催とした。

さらに、ローカルベンチャー協議会の雲南市におけるローカル事務局機能を担い、雲南市におけるベンチャー育成の土壌づくりや、都市部の起業家人材と雲南市の地域課題とのマッチングを図った。

なお、幅広く市民がまちづくりに参画する機会として、昨年度の幸雲南塾から他立ち上がった「うんなんコミュニティ財団」にその役割を移譲することとし、その機会提供を担っていた幸雲南塾アカデミーを開催しないこととした。

また雲南市が平成30年度から開始したスペシャルチャレンジ制度のうち、ホープ事業の事務局として、事業化や新規事業開発を目指す同制度採択者を対象として、金融機関やアドバイザーとともに伴走を行った。

2. 前年度までの主な実績

平成23（2011）年度	雲南市が主催する次世代育成事業『幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～』として開講。社会起業や地域貢献を志す若者の企画立案と実践をサポート。第1期（13名卒業）
平成24（2012）年度	第2期（11名卒業）
平成25（2013）年度	第3期（11名卒業） 塾の卒業生による任意団体「おっちラボ」設立
平成26（2014）年度	第4期（25名卒業）、NPO法人おっちラボ設立
平成27（2015）年度	第5期 幸雲南塾（4組6名卒業）、ラボアカデミー（9名修了）
平成28（2016）年度	第6期（2016年5月～2017年2月） 幸雲南塾（3組6名卒業）ラボアカデミー（14名修了）
平成29（2017）年度	第7期（2017年6月～2018年1月） 幸雲南塾（11組：4法人及び11名卒業）
平成30（2018）年度	第8期（2018年6月～2019年1月） 幸雲南塾START（6組7名修了）
平成31・令和元（2019）年度	第9期（2019年7月～2020年1月） 幸雲南塾（4組34名）

平成23年度に市が次世代育成事業として始めた『幸雲南塾～地域プロデューサー養成講座～』は、今年度で10期目を迎える。平成25年に塾の卒業生たちが塾生を相互支援する仲間のネットワーク強化のため立ち上げた任意団体「おっちラボ」は、平成26年にNPO法人化し、同年より幸雲南塾の事務局を担っている。

<卒業生の活躍>

2019年度末時点でのべ147名（ラボアカデミー修了者を含む）及び4法人の卒業生を輩出した。卒業生たちは、幸雲南塾のプレセミナーで事例発表を行ったり、県外からの視察があった際に活動報告を行ったり、現役塾生の相談に乗ったりと、幸雲南塾のサポーターとして幅広く活躍している。

また、卒業生同士のネットワークによって自分たちの活動の課題解決を行うなど、相互に支援し合う関係性も継続している。さらに、主に7期生を中心としたメンバーによる「地域おせっかい会議」が発足して世代も超えた市民のつながりのハブとなっており、2019年に卒業したうんなんコミュニティ財団は雲南市民の活動と資金とを繋ぐ役割を果たし、Community Careersは実践型インターンを仲介する団体としてまちづくりに必要な仕組みとなっている。幸雲南塾の卒業生が自らあらたなチャレンジのプラットフォームとなっている。

<プログラムのリニューアル>

第4期までの幸雲南塾は、一本のプログラムで実施してきたが、参加者のニーズが幅広いことから、2015年からは、伴走型人材育成プログラム『幸雲南塾』と地域づくりのはじめの一步を踏み出す定例勉強会『アカデミー』といった複数のプログラムを実施するスタイルとなった。

昨年度は個々のチャレンジがより促進される「仕組み」をつくることに注力できるようプログラムを再構築し、事務局は仕組みづくりにチャレンジするチームが効果的に活動を進めるためのサポーターという立ち位置から支援をおこなった。

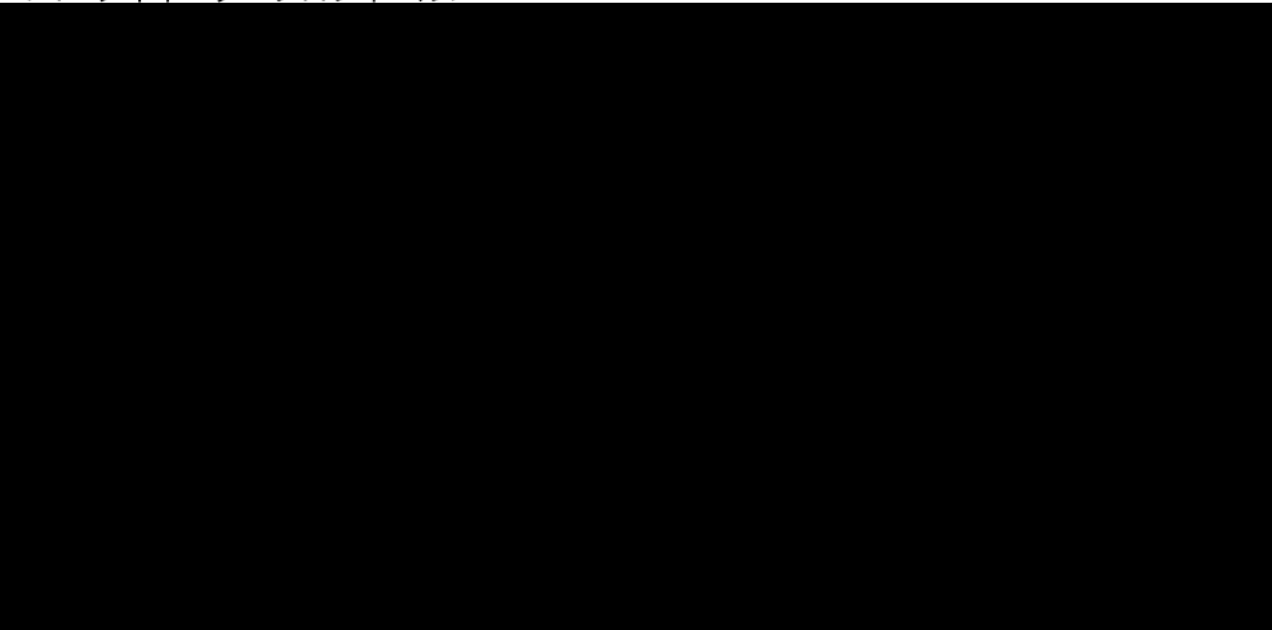
今年度は、NPO法人ETICが事務局をするローカルベンチャー協議会と連携し、都市部人材とともにプランを磨きあげる機会を創出し、チャレンジャーがより広い視野で、幅広い人材と出会い関わる機会を作ることを実施した。

3. 事業実施体制

(1)コーディネーター

一昨年度より、市民への若者のチャレンジに対する理解を促し、それまでの経験で培われた多様なスキルを活かし、活動するコーディネーターを配置した。本年度もこの体制を継続し、ファンドレイジング・マネタイズ・組織基盤構築・組織運営などを手がける人材を誘致し配置することで若者チャレンジを支援する中間支援組織としてのサポート力を強化した。また、若者チャレンジ支援コーディネーターに加え、ファンドレイジング・マネタイズなどのノウハウは外部アドバイザーとの連携により、充実した体制を整備した。

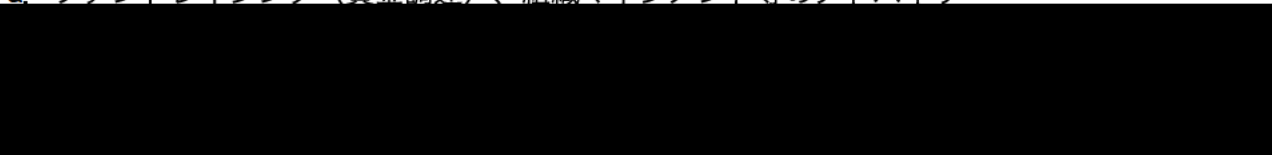
<コーディネータープロフィール>



(2)外部アドバイザー

<外部アドバイザープロフィール>

a. ファンドレイジング（資金調達）、組織マネジメント等のアドバイザー



b. マネタイズ（収益事業化）のアドバイザー

4. 事業実施内容とその成果

令和2年度は、以下の事業を実施した。※各項目について報告書末に書類を添付

- 4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2020）の企画運営
- 4.2. スペシャルチャレンジ・ホープの伴走支援
- 4.3. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務
- 4.4. 情報発信人材育成
- 4.5 その他課題解決人材育成に関する取り組み
- 4.6 コーディネーターの支援力向上

4.1. 人材育成プログラム（幸雲南塾2020）の企画・運営

「幸雲南塾2020」は、伴走型人材育成プログラムとして開催した。今年度の特徴は、ローカルベンチャー協議会の主催するローカルベンチャーラボとの共催（同プログラム内の研究プロジェクト）の形を取り、地域外のチャレンジャーからの学びを目指したことである。

当初、上記研究プロジェクトの内容を、＜半年間のプログラムの中で雲南でのフィールドワークを2回開催し、各地からの参加者にも雲南で地域課題解決のための実践をしてもらう＞ことを想定していた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いローカルベンチャーラボ自体が全面オンライン化され、雲南へのフィールドワークも控えるべき事態となった。そこで、雲南でのフィールドワークは取りやめ、全4回のオンラインワークショップを実施することとした。

「生態系でインパクトを創出する」（＝仲間を作ってまちに変化をもたらす）というテーマで参加者を募り、雲南周辺からの参加者である6名に加え、都市部を含む他の地域より9名の参加者を得た。

＜事業のねらい＞

- (1) 社会起業家や地域貢献を志す若い人材の発掘及び育成（地域外の人材からの学びをもとに）
- (2) 若い人材の育成による地域課題の継続的な解決

＜塾生＞ 雲南周辺在住者（雲南市・松江市・奥出雲町）：6名
地域外参加者（東京、釜石、石巻、塩尻、久万高原等）：9名

【実施内容・幸雲南塾2020×ローカルベンチャーラボ研究プロジェクト】

月	日	取り組み実施内容
6月	14日 (日)	9時～12時半 ※オンライン飲み会：19時～21時（オプション） 概要： ・参加者自己紹介（各5分：事前課題のドリームチームをもとにピッチ） ・生態系で取り組む事例紹介「おせっかい会議」 ■■■■さん（株式会社 Community Care 代表取締役） ■■■■さん（光プロジェクト株式会社 代表取締役） ◎事前課題：ドリームチームを描いてみよう！
8月	22日 (土)	13時～16時 概要： ・仲間づくりの事例紹介 ■■■■さんの講義：Seventh Generation Projectでの“仲間づくり” ・ラボ生代表者と■■■■さんとの壁打ち（2人） ・ラボ生を4人グループに分けて相互壁打ち会（15分×4人） ・懇親会
10月	10日 (土)	13:00-17:00 概要：「仲間を作る感覚をつくる」 (1) 一般社団法人 つむぎや ■■■■さんのお話 日本中を旅して、地域で出会った人たちの想いに“相乗り”してプロジェクトを立ち上げてきた■■■■さんの話から「一緒にプロジェクトを始める」ときに起こっていることを探ります。 ■■■■さんの記事： (2) “相乗り”を体感してみるワーク (3) オンラインイベントを企画してみる ※(4) オプション 懇親会！（18時～20時）

10月	11日 (日)	9:00-12:00 概要：「生態系をつくってみる！」 (1) うんなんコミュニティ財団 ■■■■ さんより 「雲南における社会的孤立の現状」を共有 (2) 社会的孤立を防止・改善する生態系をみんなで考えてみる
11月下旬～		幸雲南塾2020最終報告会に向けた発表練習
2020年 12月	5日 (土)	幸雲南塾2020最終報告会 雲南周辺在住者6名+雲南でプロジェクト実行する2名が5分発表 それ以外の5名が2分の発表

幸雲南塾2020 発表者一覧 (5分発表)

氏名	発表テーマ概要	取り組み状況	居住地
■■■■	クリエイティビティ× 社会課題	市内の社会的活動をデザイン の力で支援。市民が創造性を 発揮できる場作りを構想中	雲南市
■■■■	梅(放置果樹)× (地域の)御縁	高齢者宅の放置果樹を加工 する活動を通じて高齢者と 地域との交わりを創出中	松江市
■■■■	農業× リハビリ(アグリハ)	奥出雲町の地域おこし協力 隊として農業を通じた健康 づくりをするチームを形成	奥出雲町
■■■■	海潮暮らし× 自分らしい生き方	海潮地区の魅力発信と、遊 休地に魅力ある拠点の建設 をしてプランディングをする 準備中	雲南市
■■■■	「地域×企業」のマッチング アプリ	企業と地方自治体の効果的 マッチングの仕組みを構想し、	雲南市 →東京出向中
■■■■	山林×遊び	山林に関わる人を増やすた め草刈りチームを結成しつ つ、山遊びのワークショップ を多数展開	雲南市
■■■■	地域×森林	地域の森林の魅力を都市に 住みながらも享受できるア プリを開発中	東京都
■■■■	「あなた自身×地域の自然 歴史 人」	都市に住む社会人が地域を 旅して癒しを得るワーケー ションツアーを企画	愛知県 刈谷市

幸雲南塾2020 発表者一覧(2分発表)

氏名	取り組み状況	居住地
	動物愛護を身近に実践するための商品の構想	岩手県花巻市
	愛知県内の若手起業家育成プログラム開発中	愛知県名古屋市長
	高齢になっても活躍できる役割づくりを実践中	北海道上士幌町
	働きたいが、年齢、病気、国籍が理由で働けていない人が活躍できる複合拠点を構想中	静岡県
	複業・2拠点居住・地域コミュニティ体験を通じた「仮想塩尻市民」計画を実践中	長野県塩尻市

<受講生に対する個別支援内容>

受講生	支援内容	成果
	<ul style="list-style-type: none"> 気仙沼市で地域のデザイナーをしているローカルベンチャーラボ生と「地域×デザイン」について意見交換の場 地域内交通に関するチラシ制作の要望をもっていた地域自主組織を紹介。 	デザイナー業務が市内/県外ともに順調に顧客を伸ばしている。
	<ul style="list-style-type: none"> アドバイザー友廣氏との壁打ち 	放置果樹バンクから酒造との協働でゆず酒が誕生。 また 氏との協働で放置果樹収穫のチーム組成。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域おせっかい会議との接続 	アグリハはチームに委ね、自身は新規事業開発へ。
	<ul style="list-style-type: none"> 事業創出ラボSHIFTとの接続 	田舎を楽しむための古民家リノベという社内ブランド立ち上げへ。
	<ul style="list-style-type: none"> 企業チャレンジ事務局からのヒアリングを提案 	アプリ開発は断念したものの、企業と自治体とのマッチングの課題を明確化。
	<ul style="list-style-type: none"> 西粟倉村の株式会社百森 氏との協議の場を設定 森林空間でのエンタテインメントスポーツ化の協議 	荒れ地・山林に興味を持つ市民を増やしていくWoodshipを起業

	<ul style="list-style-type: none"> ● ■■■氏が雲南市民谷地区で開催した「TataLabo」に参加しフィードバック ● 雲南市の森林データ活用のアドバイザーとなる機会提供のため、林業畜産課■■■氏、竹中工務店■■■氏との協議の場を設定 	雲南市のGISに関するセミナーの講師を務めるなど、雲南市の林業に関わる可能性が高い。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 雲南でのツアー実施検討のため Community Careers■■■氏や雲南市の名所案内 	ー（まずは他地域でトライアル実施）

4.2. スペシャルチャレンジ・ホープ事業における支援

平成30年度より雲南市が開始した雲南スペシャルチャレンジ（以下スペチャレ）・ホープ事業は、雲南市の課題解決または価値創造に寄与する事業を起こす者を対象に、金融機関の融資や寄付、出資と雲南市からの補助金の同額マッチング（上限200万円）および保証料・利子補給を行うものである。

おっちラボは事務局を務めるとともに、応募者に対し応募申請前のプロジェクトのブラッシュアップ支援、および採択者に対しアドバイザー等による伴走支援を行った。

<採択者とプロジェクト内容>

採択者および、構想内容と今期の到達点は以下のとおり。

なお、応募はしたものの、補助金を有効活用する計画の詰めが足りない応募者については、来期のスペチャレに挑戦してもらうことを視野に、「育成枠」という位置づけとした。

スペチャレ採択者一覧（R2）

	採択者（敬称略）	構想内容	到達点（R3.3）
本採択	■■■イノシシ加工販売	イノシシの加工場を建設し、他地域にソーセージなどを販売	12月より加工場が稼働開始し、市内や都市部へのEC販売も好調。
	Community Nurse Company/ モンテッソーリ児童教育拠点	モンテッソーリ教育を基礎に、雲南地域の児童に地域ぐるみの保育を提供	室山農園にて拠点の整備が済み、寄付で300万円調達。3/27開所式。
育成枠	■■■産前産後ケア	産前産後ケアのサービス提供	Webコンテンツの発信をしつつ、ママコミュニティづくりを軸に休眠預金申請へ
	■■■中古車サブスク・軽トラシェア	軽トラを活用したサービスと遊休自動車のサブスクリプション	サブスクの試行が済み、軽トラのシェアに向けたサービス開発中。来期申請予定
	■■■市民エネルギー	マイクロ水力発電など市民発電事業	先進地の起業家、アマタ、リコーなどとも意見交換。同じ関心の仲間と協議開始
	■■■パティプラス地域商社	市内のよい商品を域外へ売る商社商社	来期ふるさと納税の運営を受託するとともに地域商社の事業化へ。来期申請予定
	■■■だんだん号移動式商店街	タブレットで市内商店の商品をカタログ化して顧客に見せる移動式商店街構想	買い物代行の構想に向きたいが人員が限られるため、人材活用スキームを検討
	■■■福祉タクシーかごや	障がいや高齢で体が不自由な方々の移動支援	固定利用含めユーザーが順調に増加。一時退院支援+見守りで来期申請予定
	■■■福祉タクシー・温泉運営	鍋山住民を対象とした福祉タクシー	他の補助金を使い、地域内交通と温泉利用を含む高齢者の生活支援事業の準備中。

<採択後における支援内容>

採択者には、全員に対して3回程度、アドバイザー■■■氏、■■■氏や共創会議副委員長のETIC.代表■■■氏との事業構想の機会を設けたほか、以下の支援を行った。

採択者	おっちラボの支援内容	採択者の実践
<p>■■■■氏 (本採択)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 融資獲得のため金融機関、商工会の経営指導員等と面談 ● RaM■■■■氏に年度を通じて伴走と販路開拓支援していただくよう依頼し、成果目標を設定。■■■■プロフィール： ● ローカルベンチャーサミットにおいて石巻のジビエ起業家とともに登壇し、参加者からアイデアをもらう機会を設定 ● イノシシ捕獲の多い阿用地区振興協議会の職員に鹿糠氏の取り組みを紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 約1000万円の融資獲得 ➢ 加工場建設・12月竣工 ➢ ECサイト開設 ➢ パッケージデザイン実施 ➢ 直販及びEC販売開始（約200万円の売上） ➢ 東京での販路開拓 ➢ パートタイム1名雇用
<p>Community Nurse Company (本採択)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 寄付による資金調達につきうなんコミュニティ財団と調整 ● アドバイザー■■■■氏の旅費等支給 ■■■■プロフィール ● 同■■■■氏の旅費等支給 ■■■■氏プロフィール 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 幼児預かりの試行 ➢ 室山農園の経営陣や周辺住民との共通理解のための対話 ➢ 室山農園の古民家を改修 ➢ 300万円以上の寄付獲得（うなんコミュニティ財団を活用） ➢ インターン生だった学生2名がモンテッソーリ教育の研修機関に合格（R3.4月入学） ➢ 3月27日オープン
<p>■■■■氏 (育成枠)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報発信の専門家である■■■■氏に短期伴走を依頼。 ● Work Design Lab■■■■氏と接続し5名のプロボノチームによる支援につなげる。 ● うなんコミュニティ財団からの休眠預金獲得を提案 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ブログ記事の内容を改善し閲覧者増加 ➢ マーケティング戦略を一新し ➢ ママコミュニティづくりという新しい基軸に
<p>■■■■氏 (育成枠)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ローカルベンチャーサミットにおいてプレゼンし全国の参加者からアイデアをもらう機会を設定。 ● 事業創出ラボSHIFTのモビリティ分科会、アウトドア分科会への接続。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 商工会の支援で「幡屋便利軒」を独立開業 ➢ 数名のモニターに対して遊休車両のサブスクリプションの試行。レンタカー業の免許との棲み分けを検討中。 ➢ 軽トラにキャンプキットを載せてシェアするサービスを準備中
<p>■■■■氏 (育成枠)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民発電の先進地・石徹白の■■■■氏と接続し小水力発電のヒアリング実施 ● うなんコミュニティ財団主催のプラン発表イベントに接続し、市民から意見をいただく機会とした ● アミタホールディングス熊野社長との意見交換を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 小水力発電候補地を探索 ➢ 風力発電やバイオマス発電についても情報収集 ➢ 市民エネルギーに関心のある人たちとSNS上のグループ内で意見交換 ➢ 新電力会社について検討開始

	<ul style="list-style-type: none"> ● リコーの環境部門との意見交換を設定 ● 陸前高田市で新電力会社を手掛けた ■■■ 氏と意見交換 	
パティフプラス (育成枠)	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)ワールドワン ■■■ 氏との意見交換の場で、パティフ経営陣に助言 ● 西粟倉村でふるさと納税の運営をしているエーゼロ(株)の担当者を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 雲南市にふるさと納税業務のプロポーザル
■■■ 氏 (育成枠)	<ul style="list-style-type: none"> ● 岡山NPOセンター ■■■ 氏からの助言の場を設定 ● 事業創出ラボSHIFTのモビリティ分科会に招待 ● 休眠預金の助成金活用を提案し、事業組み立ての協議 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 吉田町で住民（顧客）からヒアリングを実施 ➢ 大東町のスーパーと共同した移動販売を検討
■■■ 氏 (育成枠)	<ul style="list-style-type: none"> ● 鍋山の地域自主組織と接続し協働の可能性検討の場を設定 ● (株)HAREの ■■■ 氏からの助言の場を設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 障害児の通学支援など安定収入とともに個別の依頼も多数 ➢ 鍋山のサロンで福祉車両のお披露目 ➢ 来期スペチャレ申請に向けて計画準備中
躍動鍋山 (育成枠)	<ul style="list-style-type: none"> ● かごや ■■■ 氏と接続し協働の可能性検討の場を設定 ● 地域内交通の広報戦略のため幸雲南塾生の ■■■ 氏を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ かごや ■■■ 氏を地域のサロンに招き福祉タクシーの存在を周知 ➢ 温泉施設を含めた地域内の安心・健康増進策を他の補助金などを活用してR3に実行 ➢ ■■■ の協力で広告物制作

<主な成果>

- 本採択の2事業者において新規事業がスタート
- 育成枠より3事業者が来期のスペチャレ補助金に応募意向

<関連資料一覧>

4.3. ローカルベンチャー推進協議会の雲南ローカル事務局業務

(1)ローカルベンチャー推進協議会の概要および目的

ローカルベンチャー推進協議会（以下「協議会」）は、2016年9月、地域の新たな経済を生み出すローカルベンチャーの輩出・育成を目指し、西粟倉村とNPO法人ETIC.の呼びかけに賛同した8つの自治体により、内閣府の地方創生推進交付金に「広域連携によるローカルベンチャー推進事業」として申請し、採択されたのをきっかけに発足した。自治体が拠出金を負担し、事務局をNPO法人ETIC.に委託して運営している。自治体同士や民間団体が連携し、全国からローカルベンチャーの担い手を呼び込み、事業成長を支援し、5年間で総額50.4億円のローカルベンチャーによる売上規模増、114件の起業家創出、269人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動を開始した。

2017年、新たに雲南市を含む2自治体が、2018年には新たに1自治体が参画し、2020年度末までに60.1億円のローカルベンチャーによる売上規模増、176件の起業家創出、366人の起業型・経営型人材の地域へのマッチングを目指して活動している。

代表幹事：岡山県西粟倉村

副代表幹事：岩手県釜石市

参画自治体：北海道同厚真町、宮城県気仙沼市、同石巻市、石川県七尾市、島根県雲南市、徳島県上勝町、宮崎県日南市、熊本県南小国町

事務局：NPO法人ETIC.

(2)雲南市の加入経緯および目的

雲南市と当法人は、本事業（課題解決型人材育成事業）に関して、主に①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南市で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成の3点を課題として認識していた。雲南市と当法人は、NPO法人ETIC.の代表理事より協議会への加入の打診を受けて検討し、加入することで上記課題の改善につながると判断し、当法人をローカル事務局とすることとして参加を決めた。

これを受けて、平成29年5月15日のローカルベンチャー推進協議会の総会において、雲南市の加入が承認された。

さらに平成30年度より、④地域内のローカルベンチャー機運の醸成も図って取り組んでいる。

(3) 令和2年度の協議会における協働内容

本年度は上記①～④のうち、①・②・③に関して事業を実施した。

①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み

日付	実施内容	成果
5月～12月	<p>【ローカルベンチャーラボの活用】(1) 雲南起業家の推薦 協議会が起業家育成プログラム「ローカルベンチャーラボ」（以下「LVラボ」）を6月～12月（デモデイは3月）で開催し、そこに地域推薦枠として5名の起業家を推薦した（推薦枠は受講料15万円OFF）。</p> <p>(2) 研究プロジェクトの企画運営 LVラボ内に「ソーシャルビジネス研究プロジェクト」を立ち上げ、雲南周辺地域で活動する6名のメンバーに加え、他地域から9名の参加者を得た。研究プロジェクトの内容および参加者の詳細は4.1に記載したとおり。</p>	<p>◎各分野の第一人者の事業家から本気のアドバイスを受ける機会。例えば、工務店の新規事業を検討していた参加者がエリアブランディングの研究プロジェクトに参加し、第一人者である氏や氏などから助言を受けた。</p> <p>◎雲南地域から参加した6名が、全国から参加した起業家（研究プロジェクト外の者も含む）と助言・応援し合える関係性を築いた。例えば、林業に関わる雲南の起業家は、開催期間中に林業や山に関係する起業家数人とともに独自のディスカッショングループをつくり意見交換を継続している。また、放置果樹からプロダクトを生み出す起業家は、都心に拠点を構える起業家と連携して都市部でのプロダクト販売を企画している。</p> <p>◎上記6名のうち2名が3月のデモデイにて代表者としてプレゼンを実施。</p>
4月～2月	<p>【ローカルベンチャーラボアドバンスの活用】</p>	<p>◎雲南から(株)Community Care / Community Nurse Company(株)の</p>

	ローカルベンチャーの資本経営戦略について、投資家等の専門家から学び各自の戦略をブラッシュアップするゼミ	■■■■氏が参加して、専門家によるブラッシュアップを得た。
10/27 ~31	【ローカルベンチャーサミット】 ①10自治体の首長による記者会見 ②ローカルベンチャーがショートプレゼンをして参加者からアイデアをもらいイベントのプレゼンターとして雲南の事業家2名を推薦。 ③上記のほか、雲南から提供するセッション内容の企画。	◎左記②の事業家2名（イノシシ肉加工販売、軽トラックのシェアサービス）が、 全国の参加者からお題に対してアイデアをもらった。 イノシシ肉加工販売の起業家は、石巻市のジビエ起業家との共同プレゼンをし、同種事業家どうしの意見交換の機会となった。

②雲南市で起業する都市部人材の獲得

日付	実施内容	成果
5月～ 12月	【ローカルベンチャーラボ（特別講義・研究プロジェクト・メンタリンググループ）】 ①LVラボの特別講義にて、当法人顧問の■■■■を講師、小俣がナビゲーターとして講義を提供。 ②研究プロジェクトにて雲南の取り組みを全国の起業家に講義 ③メンタリンググループにて全国の起業家との関係構築	◎LVラボ参加者の東京在住の起業家（GISソフトウェアの企業に勤務）が、雲南の林業系起業家に共感し、 雲南でも活動開始（ワークショップ実施） 。また、今後市の林業関係の事業への関与も予定している。 ◎その他、LVラボをきっかけに 雲南訪問をした者は4名 。雲南独自のプログラムに参加した者は2名。
7/31, 8/17, 10/7等	【自治体と企業のMeetup】 地方自治体と組んでサービスを展開したいと考える企業との対話の場。3回に参加して、以下の6社と意見交換の機会を持った。 <ul style="list-style-type: none"> ・(株)chaintope ・(株)eumo ・(株)フェリシモ ・(株)Sansan ・(一社)Code for Japan ・(株)ANA HD 	◎フェリシモ■■■■氏が雲南訪問。 ◎Code for Japan関氏と「DIY都市」について雲南市関係者と意見交換を実施。

③コーディネーター力の育成

日付	実施内容	成果
9/24 ～ 12/7	【プロジェクト創発会議】 全国から新規立ち上げ準備中のプロジェクトを選抜し、メンターからの助言（仮想経営会議）または参加者どうしでのディスカッションをする機会。雲南からは林業系の人材育成枠組み検討テーマで参加。	◎雲南の林業や山林活用分野における支援のあり方について多角的な助言を受けた。主な助言者は、竹中工務店・■■■■氏、久万造林・■■■■氏、ヒトカラメディア■■■■氏、(株)森未来・■■■■氏、およびETIC.■■■■氏。
2/25	【まちの人事部構想】 雲南のチャレンジを加速するうえで人材	◎来年度、Community Careers■■■■氏とともに まちの人事部の試行 をする計画

<p>がボトルネックになっていることが見えてきたため、雲南市アドバイザー 氏、一般社団法人Community Careers 氏、一般社団法人Work Design Lab 氏、NPO法人ETIC 氏などとともに「まちの人事部構想」について協議。</p>	<p>中。Work Design LabやETIC.と共同して雲南の関係人口リストを整え、人材ニーズのある企業との出会いの場を企画することから開始することを想定。</p>
---	---

④地域内ローカルベンチャー機運の醸成

日付	実施内容	成果
12月～3月	<p>【地元事業者を含むコミュニティ】 雲南において地域課題を解決していくビジネスモデル創出の可能性を高めるため、これまでの幸雲南塾卒業生や新規事業創出を目指す地元の事業者が切磋琢磨しながら事業構想を磨き合うコミュニティづくりに取り組み、関係者間協議を重ねた。</p>	<p>◎経済同友会雲南市部長の 氏や商工会青年部長の 氏も、共同でのコミュニティづくりについて前向きに検討していただき、両名を含む運営委員会が結成されつつある。</p>

(3) 総括

前述のとおり、①雲南市のチャレンジャーを支援する人材ネットワークの仕組み（属人的でない繋がり）、②雲南市で起業する都市部人材の獲得、③コーディネーター力の養成のおよび④地域内のローカルベンチャー機運の醸成の4点の課題に対して、本協議会との連携により一層の深化が見られている。

今期はこれまで以上にローカルベンチャーラボを効果的に活用し、雲南のチャレンジャーたちと協議会のリソースを接続することができた（①②）。また、中間支援組織たる当法人の今後の新機軸として林業および山林活用の分野や人材分野における支援のあり方についても協議会の関係者から助言をもらうことができた（③）。

さらに、「ローカルベンチャー」という世界観を従来の幸雲南塾コミュニティから商工業者のコミュニティに広げる試行を開始した（④）。

4.4. 情報発信人材の育成

今年度、公益財団法人うんなんコミュニティ財団と協働し、情報発信人材の育成を行った。その背景および実績は以下のとおりである（その他、詳細は添付資料に記す）。

■情報発信に関する背景・課題

雲南市では市民の活動を応援する活動が盛んに実施されているものの、その事実を活動する人やその周囲の人以外に周知することが困難な現状がある。背景には、地域の取り組みそのものに関して無関心、個人や家庭内・学校や職場の範囲での活動が精一杯でゆとりがない、年代ごとや分野ごとで意識や考え方が異なり壁があること等がある。

■計画及び実施結果(うんなんコミュニティ財団設定)

	初期値	2020年度計画	2020年度実施
周知・リーチ数 (SNS、チラシ等)	0人	1,000人	1,099人
情報発信講座の開催	0回	5回	5回
情報発信講座参加者	0人	50人	37人
情報発信支援等	0人	10人	12人
情報発信人材数	0人	10人	15人
記事数	0点	20点	19点

4.5. その他課題解決人材の育成に関する取り組み

(1) チャレンジ創生PT会議等ソーシャルチャレンジを加速する取り組み

PT会議（ランチ会含む）出席、ソーシャルチャレンジ発表番組出演など。
また、チャレンジ生態系を支える資金調達の仕組みである一般財団法人雲南コミュニティ財団（9月に公益法人として認定）の伴走支援を実施。

(2) その他地域課題解決にかかる案件組成のための協議など

主なものは以下のとおり。

	協議の相手	今後の展開（可能性）
1	(公財)東近江三方よし基金 ■■■■■ 氏、(公財)南砺幸せ未来基金	幸雲南塾から設立された(公財)雲南コミュニティ財団と協業し、休眠預金を活用した助成事業を実施
2	(株)VUILD ■■■■■ 氏 (有)三ツ和 ■■■■■ 社長	(有)三ツ和が建材を3Dデータから切り出すShopbotを導入しVUILD社と協業
3	(一財)トヨタモビリティ基金	雲南におけるモビリティ課題解決について案件組成から協業できる
4	(株)トビムシ ■■■■■ 氏	同社が飯南町で林業の6次産業化を手掛けるため、商品企画や人材育成で協業する
5	光プロジェクト(株) ■■■■■ 氏など	遠方地域からのショッピングリハビリ活用のためのモビリティ連携について休眠預金を活用
6	(一社)みかたネット ■■■■■ 氏	学習障害の子のための放課後等デイサービスの設立についてスペチャレを活用。その保護者のつながりづくりについて休眠預金を活用。
7	(一社) うんなんダイバーシティ	地域内の連携による外国出身市民の孤立化防止

	toiro	のモデル地域づくりのため休眠預金を活用
8	(一社)みつめる旅	五島列島でのワーケーション企画の実績をもとに雲南でのワーケーションに助言をいただく
9	おもしろ法人カヤック/ソーシャルアクションカンパニー/ (一社)社会変革推進財団	コミュニティ通貨の実証実験について協議 (検討の結果、導入を断念)

4.6. コーディネーターの支援力向上

コーディネーターがそれぞれの得意分野を生かしたスキルアップのための研修会への参加を行った。

従前より、アドバイザーから、中間支援組織に必要な8つの機能の提示を受けていたことを受け、本年度も前年度に引き続き、とくに相談対応力とコーディネート・ネットワーキング力の向上を重点課題とした。

(参考) 『中間支援組織が持つべき8つのチカラ』

1. 相談対応力
2. 調査・情報収集力
3. 編集・発信力
4. コーディネート・ネットワーキング力
5. 資源提供力
6. 内部の人材育成力
7. 政策提言力
8. 施設運営力

具体的には、下記の研修に取り組んだ。詳細は添付書類を参照。

(1) ジェレミー・ハンター特別講座

「Special Session for Social Leaders in Japan～セルフマネジメント1～」

開催：令和2年7月15日、22日、29日、8月5日（オンライン開催）

(2) ジェレミー・ハンター特別講座

「セルフマネジメント2・マインドフルネスで結果を変える

～反応的な感情を自覚し、選択肢を広げる～」

開催：令和2年11月4日、11日、18日、25日（オンライン開催）

(3) 北海道下川町・東川町視察

開催：令和3年3月14日～16日

訪問先：(株)北の住まい設計所、NPO法人しもかわ観光協会、NPO法人森の生活等

5. 地域の持続可能性を高める仕組みの検討

(1) これまでの幸雲南塾等による地域の持続可能性への影響の評価

a. (振り返り) 2011年～2015年までの影響

2016年に調査を実施したリサーチによると、

- 幸雲南塾第1期（2011年開催）から第5期（2015年開催）までに参加した事業数は**52事業（のべ56事業）**。
- そのうち、自ら事業を継続して売上創出（自己雇用未満）、自己雇用、雇用創出をした事業は**28事業（53%）**であった。
- 自己雇用も含め**51名の新たな雇用**が生み出された。
- 総予算（売上高）は**1.7億円**であり、産業連関表を用いて算出した**経済波及効果は2.8億円**であった。

b. 2016年～2020年における影響

今回、新たにまとめたところによると、

- 幸雲南塾第6期（2016年開催）から第10期（2020年開催）までに参加した事業数は**30事業**（うち2事業は2015年以前にも参加）。
- そのうち、自ら事業を継続して売上創出（自己雇用未満）、自己雇用、雇用創出をした事業は**18事業（60%）**であった。
- 2021年3月現在、自己雇用も含め**40名が雇用**されている。
- **総予算（売上高）は約3.6億円**であり、産業連関表を用いて算出した**経済波及効果は約6.2億円**であった（なお、スペチャレ・ホープによって支援した事業も含める（幸雲南塾との重複を除く）と、それぞれ約3.7億円、約6.3億円）であった。
（※上記は速報値であり、精緻なヒアリングによって変動する可能性がある。）

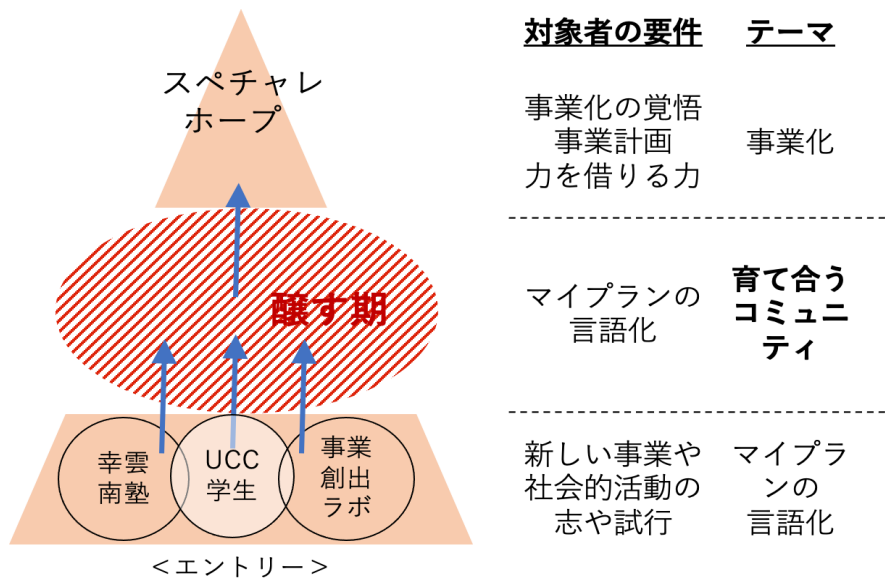
(2) 考察および今後の雲南市の持続可能性を高める仕組み

2016年～2020年における売上高および経済波及効果が、2011年～2015年までにおけるものよりも増加し要因は、幸雲南塾の対象が、事業構想のステージがより進んでいる事業や事業規模がより大きい事業を対象とするようになったことである。

短期的に言えば対象をこのように定めることによって地域により大きなインパクトをもたらすことができることが明らかである。そこで、まずはスペチャレ・ホープをはじめとする**事業化をサポートする仕組みの拡充が必要不可欠**である。

他方、事業化のステージに入るチャレンジャーを増やすために、初期の幸雲南塾が果たしていた「アイデアを膨らます」機能や「地域の方とつながる」機能も必要であり、これらは車の両輪であると言える。チャレンジの数を増やすことがチャレンジの質を高める。

このような観点から、来期以降の若者チャレンジ生態系のあり方を構想し、以下の具体的な施策案に至った。



<エントリー>

(おっちラボ第9期事業計画より抜粋)

①エントリープログラム群：地域おせっかい会議、うんなんコミュニティ財団と連携した「アイデアを膨らます」「地域とつながる」機会づくり

課題解決を軸としたプロジェクトを発掘する「幸雲南塾」、事業者の新規事業の種を発掘する「事業創出ラボ」、大学生のチャレンジを発掘する「U.C.C」の3つのプログラムを、入口として用意する。いずれも、実現したいことの方向性を言語化することを目的とする。

これらのプログラム参加者が、市民とつながってアイデアをもらいたい場合には「地域おせっかい会議」にて市民からアイデアを募集することができる。また、寄付を集めて活動をしたい場合には「うんなんコミュニティ財団」による地域密着型のクラウドファンディングを活用できる。

これらの各プログラム間での案件情報の共有をできる体制を構築する。

②言語化されたアイデアを事業計画にしていくための「醸す」コミュニティ

a. 全体概要

①のプログラムを経たチャレンジャーが、相互に各案件に対する意見を出し合い、ブラッシュアップをしていく場（関係性）をつくる。

言語化されたアイデアを「事業計画にし、事業化の覚悟を決め、あらゆるリソースを駆使して実現できる」というステージに至るまでには、チャレンジャーによってかかる期間もたどる試行錯誤のプロセスも様々である。そのため、この領域は伴走支援には不向きである。そこで、雲南でチャレンジする者どうしが互いを高め合うコミュニティに自由に参入・退出しながら、機会を掴み取っていくという場が効果的ではないかと考える。

具体的なコンテンツに関しては、商工会青年部層の事業者などと構成する運営委員会にて、参加者の状況を観察しながら適宜企画していくことを想定している。将来的には、中間支援組織が介在しなくても自主運営されるコミュニティとなることを目指す。

起業家精神（やってみよう・なんとかなる・ありがとう・わたしらしく + “借り物競走力”）が育つコミュニティ作り。結果を急がず、“待つ”。
 以下のような**行動のヒントとつながり**をもらえる機会。

チャレンジ等

醸す期

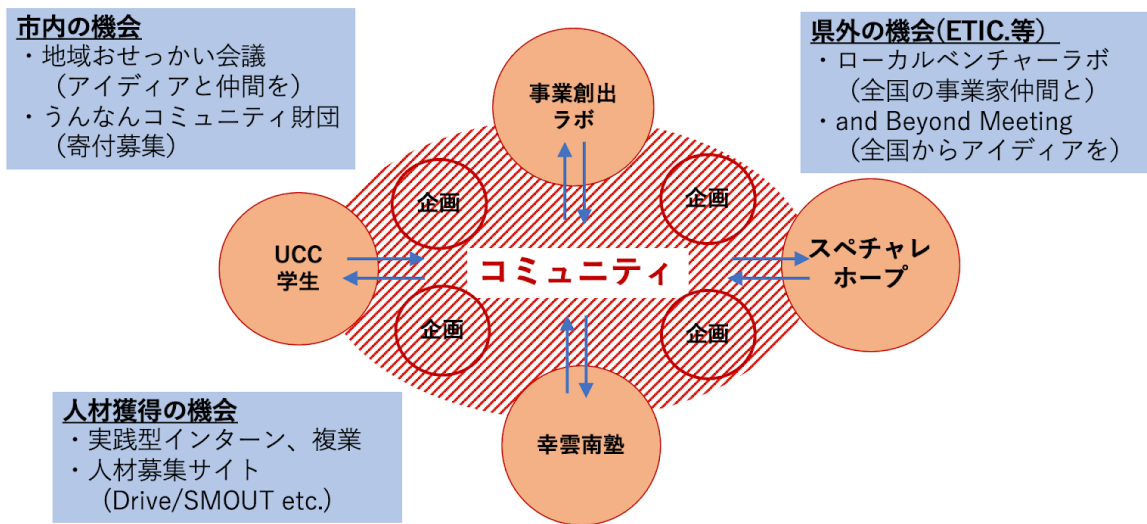
■内容例

事業ブラッシュアップ 本格的な事業化に向けて計画をブラッシュアップ → 経営者等による壁打ち	少人数プロジェクト! 商品企画・イベント出店等の“お試し”
遊び! スポーツやBBQなど	妄想プレゼン会 おせっかい会議とコラボ
外部勉強会! 各種機会と接続	人材! 紹介の機会

コミュニケーション 外部機会の情報や提言、広報を気軽に書き込める掲示板

■体制 【運営委員】 地元経営者や起業家等5名程度
 【事務局】 友廣氏、おっちラボ(平井)

(おっちラボ第9期事業計画より抜粋)



(おっちラボ第9期事業計画より抜粋)

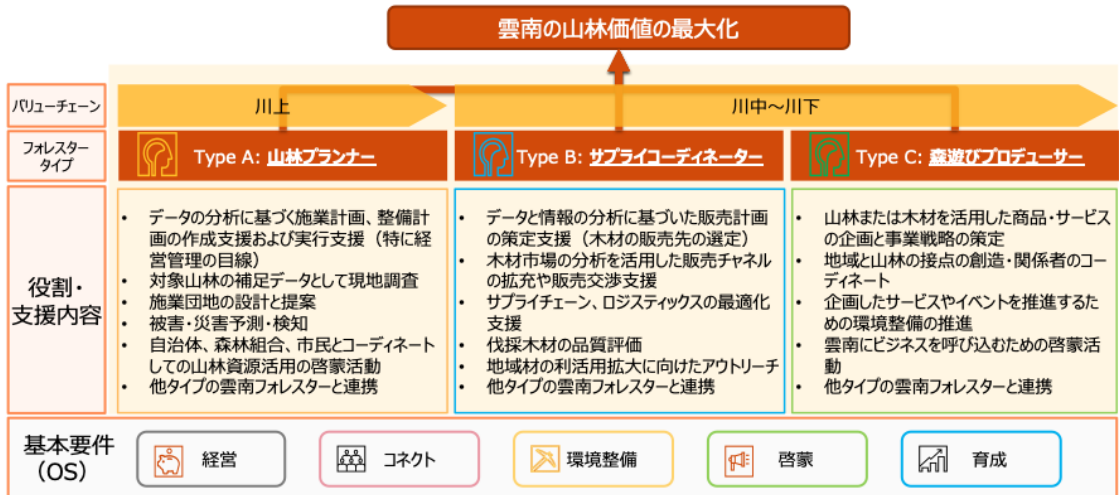
b. 個別テーマでのコミュニティ

今期、雲南住民の重大な関心事のひとつである山林課題に関する人材育成のあり方検討を行った。PwCコンサルティングとの協業により、必要な人材を定義した。その結果、林業や山林管理・活用においては、「山林プランナー」「サプライコーディネーター」「森あそびプロデューサー」といったタイプの人材が必要であるという整理に至った。そして、それらを「雲南版フォレスター」と総称して人材育成を仕掛けていくことを構想した。

来期、「雲南版フォレスター」の候補人材群をまとめて支援することで、この分野の人材育成の端緒としたい。雲南に関わる建築家集団であるTeam TENT.とも協議をし、山を活かした暮らしづくりから木材の活用まで広範囲の取り組みを生む土壌づくりを計画している。

※フォレスターの人材像 - ①役割、スキル、モデルの定義

- 各OSの定義を踏まえ、雲南のビジョンと林業のバリューチェーンにおいて求められる役割（フォレスタータイプ）を設定
- 各フォレスタータイプは基本要件を備えつつ、各役割に特化することで「雲南の山林価値の最大化」を目指す



PwC

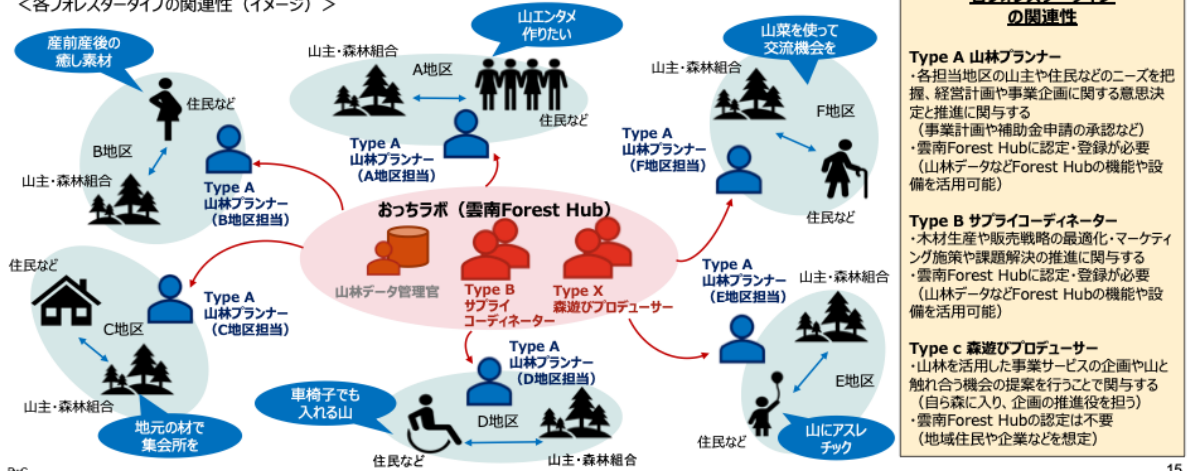
1

※フォレスターの人材像 - ①役割、スキル、モデルの定義

- 各フォレスタータイプの役割と関連性について、イメージ案として以下の通り整理
- 山林プランナー（Type A）とサプライコーディネーター（Type B）は雲南Forest Hubに認定された機能としての役割を果たし、森遊びプロデューサーは住民や企業などが自由に山林活用に関与することで、相互に補完して“山林活用の自治”を果たすモデルを思料

- 今後固めるべき事項
- ・役割の過不足
- ・各フォレスターの収益モデル
- ・Forest Hubの関わり方の整理

<各フォレスタータイプの関連性（イメージ）>



PwC

15

③事業化に向かうチャレンジを応援する仕組み

a. スペチャレ・ホープの拡充

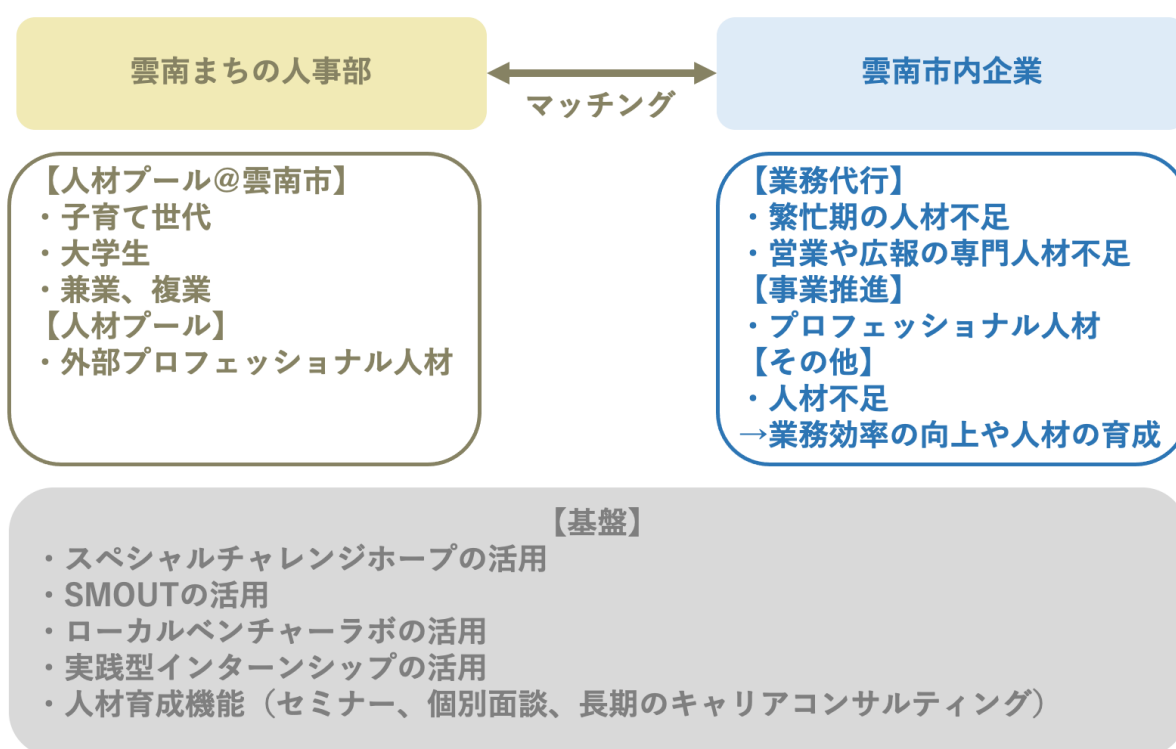
今後、スペチャレ・ホープが事業者にとっても魅力的な支援プログラムとなるように、現在200万円としている補助金の上限を引き上げる、採択者の活動状況の発信を工夫する、後述する人材の課題に対応するなどしていく必要がある。

b. 人材課題に対応する「まちの人事部」

事業化に向かうチャレンジャーのにおいて「新しいことを始めたいが企画と遂行を任せられる人材がない」という課題が顕在化してきた。

そこで、地元企業への実践型インターンのコーディネートをしてきた一般社団法人Community Careersなどを中心として、学生や複業人材、専門家人材などを人材ニーズのある事業者につなげていく「雲南まちの人事部」という新たな機能が必要である。今期、Community Careersのほか一般社団法人Work Design LabやNPO法人ETIC.との協議の中で、不特定多数とのマッチングではなく「特定多数とのマッチング」を進めるべきとの方針を決め、雲南に関わりの深い「関係人口」のリストをもとに、今後マッチングに向けた試行をしていく予定である。

雲南まちの人事部 中長期ビジョン



令和2年度
木材利用推進戦略策定等業務
報告書

令和3年3月

合同会社グリーンパワーうんなん

目次

I. 木材利用推進戦略

II. 委託業務実施報告及び木材利用推進戦略の背景等

III. 資料

令和3年度 雲南市木材利用推進戦略 (案)

令和3年3月25日

戦略案サマリー

戦略案事業区分	背景・課題	戦略の方向性（中長期）	具体的な施策（短期）	関係者の役割
① 林業振興（方針）策定・協議会運営	森林・木材産業全体を包括する将来ビジョンを、関係者が共有する必要がある。	50年後を目標とした森林整備・活用による林業振興と木材加工・販売事業の将来像を明示する。将来像の実現に向けたロードマップを作成し、戦略を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略を推進する体制を整備する。 ・戦略を推進を担う人材を育成する。 ・協議会を通じて戦略の進捗管理を行う。 ・戦略の適宜見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者が将来ビジョンを共有し、木材利用推移新戦略を推進する。 ・協議会に参加し、戦略に沿った補助事業等の実施を進める。
② 森林資源データベース構築、森林経営計画策定	森林資源データベース（GIS）の構築、活用に向けた技術を利用できる環境が整いつつある。データを管理・活用できる体制整備が必要。データを活用した計画策定が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源データを効率的、効果的に取得し、データを活用して優先順位が明確な森林経営計画を策定する。 ・計画の実行体制（ハード、ソフト、人材）を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・航測、ドローン、地上レーザ計測から森林資源GISを構築する。 ・新たな森林経営計画を策定する。（地域の合意形成を図る。） ・GIS関連技術、経営計画策定を担う人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市：調整、予算執行 ・林業事業者：体制整備、計画策定、人材育成 ・専門事業者：GIS、計測技術提供 ・学術機関：技術監修
③ 山林集約化、施業実施、集落による里山整備	森林資源データを活用し、住民合意を得て集約化施業計画を策定し、施業を推進する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源データを活用し効率的に集約化した施業計画を策定する。 ・集落、住民の合意を得る。 ・円滑に施業する体制を整備する。 ・施業計画外の山林の整備について、集落での対応を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・林業事業者による集約化施業計画を策定する。 ・林業事業者と住民座談会方式により合意形成を図る。 ・施業計画を実施する体制を構築 ・集落で行う里山整備計画を策定。 ・実施するための人材育成を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・市：地元調整、予算執行 ・林業事業者：施業計画、住民合意形成、施業実施 ・GPU：集落の里山整備支援
④ 木材流通拠点施設を核とした木材販売、製材・木工製品の販売	R3年度から2流通拠点施設体制となる。流通拠点施設に原木を集め、優位に販売する体制が必要。木材、製材、木工商品の販売促進を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・流通拠点施設を活用して効果的かつ優位な木材流通システムを構築する。 ・原木販路拡大と、サプライチェーンマネジメントの強化を図る。 ・木材利用の新たな商品化進め、販路を拡大し、産業の体質強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流通拠点施設に原木を集めるため搬出・運搬補助を実施。 ・原木の選木精度を高め、情報を発信するシステムを導入する。 ・木材を利用した商品づくりと販路開拓を推進する。 ・事業運営を担う人材育成を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市：全体調整、予算確保・執行 ・林業事業者：原木集積、選木、用材販売 ・GPU：流通拠点施設管理、情報発信、販路開拓 ・製材、木工事業者：商品開発、販路開拓
⑤ 木材利用の多様化及び山林空間活用推進事業	既定観念に捉われない木材利用の方法を模索するとともに、山林自体を魅力的な空間として、人を山に呼び込む取組みが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・木材、木工関係者が木材利用の多様化を検討し、推進する。 ・森林を所有する事業者が、森林に誘客する空間整備、演出を行い、収益事業として確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発コンサルタントと連携して木材を利用した商品、事業、イベントづくりを推進し、事業化を図る。 ・森林への誘客エリアを整備する。誘客エリアへの案内機能を整備する。誘客イベントを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市：コンサルタント契約 ・林業事業者：空間・案内整備 ・製材・木工事業者：木材利用商品、事業、イベントの事業化 ・GPU：事業推進への協力

適正な整備による豊かな森林づくりに必要な要素

産業発展
(木材産業
力の強化)

戦略③

戦略④

戦略⑤

戦略②

技術革新
(専門テー
マの強化)

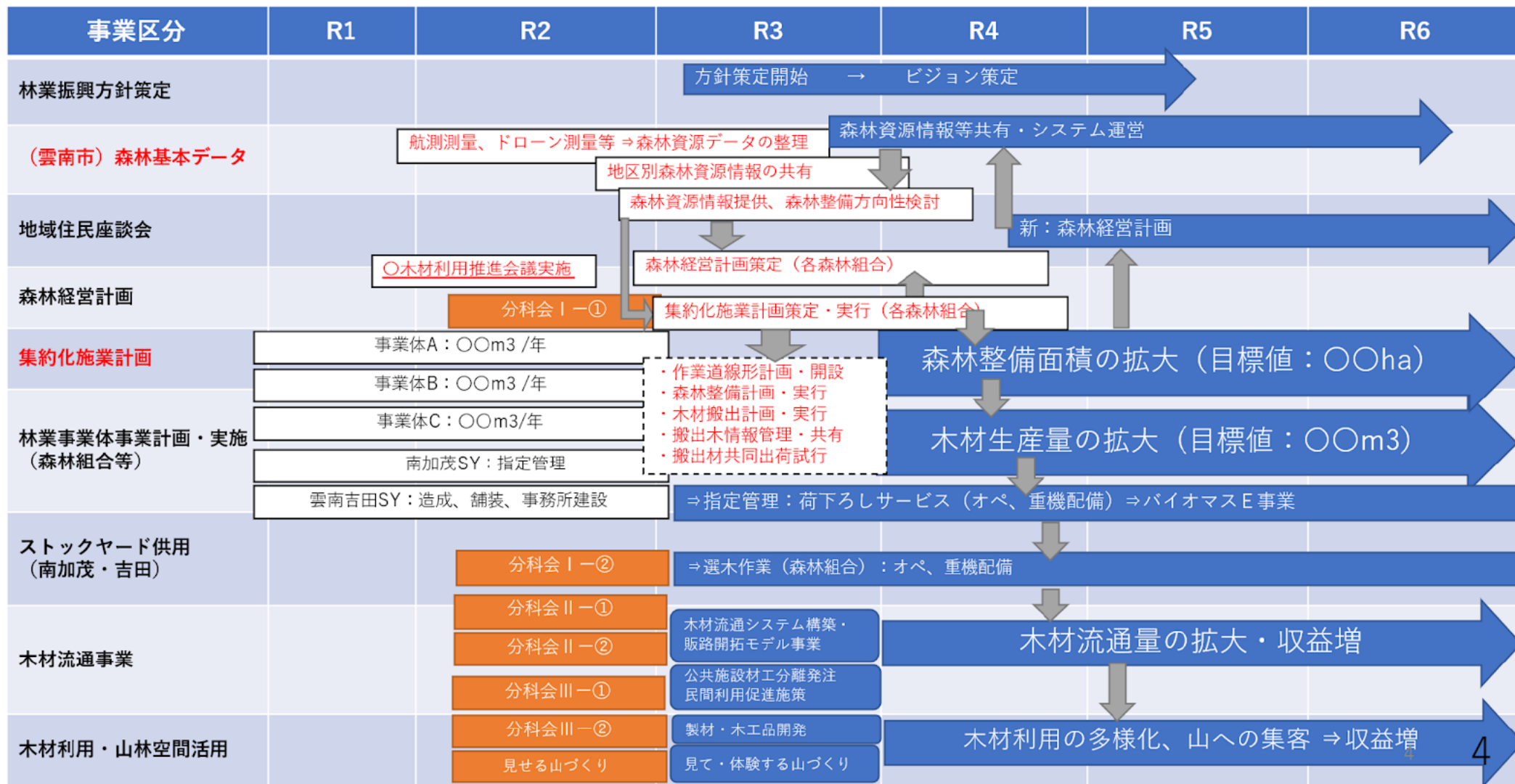
人材支援
(林業技術
者の充実)

戦略⑥

戦略①

長期ビジョンの策定
(既存の指針に基づいた森林の将来像を設計)

戦略スケジュール



事業区分	検討の方向性	実施内容	期待する効果	想定予算
<p>① 林業振興方針（森づくり構想）策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森づくりから木材利用まで森林資源と木材関連産業全体を包括する長期的な計画を雲南市のみんなでつくる ・各事業の連携を促し、林業振興を長期的視点から実行していくための土台となる事業が必要 ・関係者の協働で林業振興方針素案を作成し、専門家も交えて実現性の高い実行計画を作成する（2ヵ年計画） <p>本事業で想定される必要な検討内容</p> <p>将来展望の視点から考えて、質の高い森林資源データの効果的な取扱い・分析手法と管理体制、将来構想を踏まえた森林情報の活用方法（事業②）、ゾーニング的視点で森づくりや管理体制を検討、集約化施業計画の促進と住民との対話の方法（事業③）、産業力向上の方向性、サプライチェーンマネジメント強化の方針（事業④）、木工商品の開発、地域資源としての多様な森林の活用方法（事業⑤）、それら事業推進で必要となる人材の発掘、獲得、育成の方法、構想を実現させるための具体的な手法や取り組み等、構想素案に対して各分野の専門家からの知見を得る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■令和3年度 「（仮称）雲南市森づくり長期戦略策定協議会」を組織、雲南市域の森林・木材産業関係者（各事業代表者）を構成員とし、年5回程度協議会を開催、作業部会が実務を担当、市民との交流を図る企画（森づくりシンポジウム等）を開催 ■令和4年度 「（仮称）雲南市森づくり長期戦略策定委員会」を組織、上記構成員代表に加えて専門家等を委員とし、年4回程度委員会を開催、作業部会が全体運営及び実務担当、市民との交流を図る企画（森づくりシンポジウム等）を開催 ・必要に応じて、作業部会が中心となり勉強会、現場視察、各種調査を実施する ・森林計画や構想策定手法等に詳しい講師を招聘することも想定、必要に応じて専門家に作成された素案の監修を依頼する ・計画、実行、評価、改善が繰り返し検証できるように事業全体を設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者の協働により林業振興方針（森づくり構想）素案が作成される（R3）、さらに、専門家の知見も踏まえ林業振興方針が策定される（R4） ・林業振興に関する将来展望が明確になり、本事業のプロセスを通して関係者の連携体制構築が促進される ・本事業の展開で発展の可能性が繰り返し検証されることで、雲南独自の方法論が関係者のなかで構築される ・関係者の自主性や積極性が醸成され、必要な情報集約と効率的で効果的な活動が促進される ・雲南市の目指す森づくりの将来像や開発された木材製品など、木材産業の取り組みが市内外へ広くPRされる ・森づくり構想を実現させる実行計画について、方法論が議論されることで森づくりの手法が身につく。例えば、森林認証制度の枠組みが活用できる等 	<p>※令和3年度のみ※</p> <p>【実施事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業振興方針策定・協議会運営業務委託 3,075千円 <p>【関連施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな森林管理システム推進業務委託 3,434千円 ・森林管理推進員の配置 2,173千円 ・林政アドバイザー配置 0千円

事業区分	検討の方向性	実施内容	期待する効果	想定予算
②森林資源データ計測及び活用推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・GISデータの取得・分析技術を適用し、森林資源情報を整備し、その情報を有効活用して、森林経営計画の策定を進める。 ・森林整備にかかる事業実施にGIS、レーダー計測技術を適用し、行政、事業者、現場における省力化、コスト削減を進める。それらの技術を活用して新たな業務の開拓を図る。 ・森林資源データの取得、加工、管理運営体制を整備する。データを利活用する人材の育成を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> a. GISデータの取得（観測・計測）と分析を実施する。 b. 市、森林組合、森林所有者等が森林資源データを活用し、経営分析ができるようにするとともに、データと現場を結ぶソフトの開発と実用化を行う。 c. 森林資源データを活用した森林経営計画を作成する。地域にわかりやすく計画を説明する。 d. 森林情報を活用し、森林経営計画の作成や施業現場に生かしていく人材確保と組織づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 森林資源量と質が可視化され、活用に向けた基盤が作れる。 b. 森林整備事業の検査作業等の省力化とコスト削減が図れる。 c. 森林経営計画作成の迅速化、説明資料の高度化が図れる。 d. 人材を集積した組織ができれば森林整備が格段に進む。測量や調査業務など林業事業者の新たな仕事の獲得につながる。 	<p>【実施事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな森林管理システム推進業務 3,434千円 ・森林現況調査 8,280千円 ・航空レーザ計測 19,706千円 <p>【関連施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林GIS・林地台帳システム保守・更新業務 852千円
③山林集約化促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源データに基づいて、山林集約化施業計画の策定と実行を推進する。 ・住民座談会を開催し、集約化施業計画について住民（山林所有者）との合意を図る。 ・森林経営計画に含まれない山林の集落での整備方法を検討し、実施する。 ・集約化施業計画及び集落での森林整備計画の実行をサポートする。 ・集約化施業を実施する体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 森林資源データと地域状況を勘案し、山林集約化施業計画を実行する。（作業道計画、搬出材積計画、修正計画）地区に優先順位をつけて実施する。 b. 住民座談会を開催し、集約化施業計画の実施に向けて森林所有者である地域住民の意思決定を進める。 c. 造林地だけでなく集落での多様な森林整備計画及び事業実施を推進する。事業実施を支援する補助制度を整備する。森林バイオマス事業の市民搬出材の増加を図る。 d. 地域合意を進めるコーディネート人材を確保する。森林組合の他に集約化施業を請け負う事業者を増やし、施業実施体制を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 市内の林業事業者にとって、施業の見通しがたち、経営の積極性につながる。 b. 山林の収支を明らかにすることで集約化施業計画に対する理解が深まり、他地域での計画推進が円滑に進むことになる。 c. 集落住民の里山への関心が高まる。鳥獣対策、災害対策に寄与する。市民登録者の活躍の場が増える。 d. 地域合意が円滑に進むことを期待する。林業に従事する人が増える。産業としての重層化が図れる。 	<p>【実施事業】</p> <p>【関連施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林整備推進員配置 2,256千円 ・森林バイオマスエネルギー事業 9,680千円 ・森林整備推進事業費補助金 14,903千円

事業区分	検討の方向性	実施内容	期待する効果	想定予算
------	--------	------	--------	------

④木材流通拠点施設を核とした木材販売、製材・木工製品の販売

- ・2つの木材流通拠点施設を整備したことを活かし、原木の集積を図ることで森林バイオマス事業や木材流通事業の振興を図る。原木集積に向けて、搬出補助事業、荷下ろしサービスなどを進める。
- ・2施設に集積した原木の情報を整理し、選木精度を高めること、原木情報を発信しマーケットが入札・購入できる体制を構築することで、原木の優位販売を推進する。
- ・雲南圏域での連携体制を構築し、用材・合板材の共同出荷を推進する。
- ・製材、木工商品（従来製品）の販促強化を図る。
- ・木材流通システムを運営する体制づくりと人材育成を推進する。

- ※2つの木材流通拠点施設の指定管理をグリーンパワーうんなんが実施する。雲南吉田SYは、飯石森林組合から事務員、選木担当職員を置く。
- 2つの木材流通拠点施設を活用して、森林バイオマス事業及び木材流通事業を推進する。2施設に原木を集約するために、搬出補助事業や荷下ろしサービスを実行する。
 - 3D計測技術を導入し、選木内容を高度化し、原木の優位販売ができる体制を整備する。
 - 原木販売プラットフォーム（PF）を整備し、選木現場とPFを結んだ仮想市場をつくり、マーケットが原木を入札・購入できるようにする。
 - 2施設とPFを活かし、雲南圏域の原木の共同出荷を実施する。
 - 市民搬出の原木を製材、木工に利用する事業を検討するとともに、製材、木工製品の販路拡大、販促強化を進める。
 - 2施設を活用したサプライチェーンマネジメントを実施できる体制を整備し、人員を確保する。

- 市内の原木を集積することで、市場機能、優位販売、共同出荷など新たな体制を作ることができる。
- c. 原木が現状より価格優位に販売できることで収益の増加が期待できる。
- 雲南圏域で連携した共同出荷により運搬コストの低減ができ、収益改善ができる。
- 市民搬出の広葉樹などがマテリアル利用されることで、山林への資金還流が改善できる。
- 林業事業体等の効率的な人員配置ができる。新たな雇用が広がる可能性がある。

- 【実施事業】**
 ・木材流通体制構築事業 795千円
【関連施策】
 ・森林整備推進事業うち⑤木質バイオマス搬出支援 6,000千円及び⑦搬出木材流通支援 150千円
 ・市産木材利用促進事業 2,850千円

⑤木材利用の多用途化及び山林空間活用推進事業

- ・市内の商品加工技術と木を用いるマーケットのニーズを踏まえて、既定観念に捉われない木材利用を推進し、市としての木のブランドづくりを進める。
- ・木を用いた商品の販路開拓を目指し、プロモーション活動を推進する。販路拡大を目的とするイベント等を推進する。
- ・森林を活動しやすいフィールドに整備し、様々な森林体験が可能な空間とする。この空間を活用したイベントや景観を演出し誘客を図り、収益事業として確立させる。

- 商品開発コンサルタントが報告する調査結果を踏まえて、市内事業者等が商品コンサルタントの支援を活かして新たな商品開発を実施する。
- 商品開発コンサルタントと連携して、開発した商品を中心に既存の木製品を含めた販売プロモーションを実施する。全国的な商品出店イベントへの参加や地域内での販促イベントを実施する。
- 新商品をはじめ木工製品を販売するサイトを立ち上げ、商品の販売促進実施する。
- 事業者所有森林をフィールドとして、森林体験が可能な空間整備を実施する。空間を利用したイベントを行い誘客を図る。来客者の案内機能を整備する。

- 市内事業者による新商品開発ができることで、新たな事業の進展が期待できる。
- 新商品と既存商品の販売促進が図られることで、事業者の収益が拡大する。産業としての成長が得られる。
- 商品販売サイトにより、新たなマーケットが開かれる。
- 森林資源と林業を活かした空間整備ができることにより、雲南市へのファンの拡大が期待できる。

- 【実施事業】**
 ・現時点で計上予算なし
【関連施策】
 ・公共建築物の木製備品購入等 1,000千円
 ・山村活性化支援交付金 3,000千円程度

事業区分	検討の方向性	実施内容	期待する効果	想定予算
⑥人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・前記②～⑤において配置が必要となる人材を活用・発掘・獲得・育成する。既存人材の適材適所での活用・育成を進めるとともに、従来の人材採用方法にとらわれない多角的なアプローチを実行する。 ・【活用】林業事業体に所属し、山林施業等に従事する人材を、戦略の各分野に適切に配置し、能力を発揮できるようにサポートする。 ・【発掘】山林と関わることに興味のある人材に幅広く網をかけ、そのうち実行力のある人材により重点的なサポートをする。 ・【獲得】市外からの専門人材や山仕事に関心のある人材の誘引となる情報発信と財源措置を強化する。 ・【育成】次世代にとって魅力的な職業とすべく「雲南版フォレスター」構想（次頁参照）を固め、その育成プログラムの試行をする。とくに経済価値・環境価値の創出と情報技術の活用を重点要素とする。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 各林業事業体で、山林プランナーとなる人材をピックアップし、実践コミュニティを形成する。指導人材が、OJTでの実践的な研修を行う。 b. 林業の担い手補助金を改定し、研修を促進する内容とする。 c. 林政アドバイザー制度を活用して専門家を配置し、森林情報を活用して森林経営計画の作成や施業現場に活かしていく人材のOJTを行う。 d. フォレスター人材の発掘・育成の端緒として、山林空間を活用した活動を事業化した起業家人材の実践を支援する“森あそびラボ”を実施（全国的な事業化支援組織や大手企業と協働）。 e. 市内で里山整備への市民参画を広げる人材に、市民財団を通じて助成金を給付する。 f. 自伐的林業家のような機動的に施業できる人材の育成機会確保のため山林所有者のニーズを受け付ける窓口を開設する。 g. 林業や山林活用の人材募集のためのブランディング・情報発信。また、人材獲得の予算として地域おこし協力隊制度等との連携を構築。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 林業事業体への若手人材の定着率を向上 b. 森林情報を活かせる人材を既存事業体の中に育成し、事務と施業を効率化 c. 山林活用の発想力と実行力のある全国の人材が雲南の山林の経済価値向上に寄与 d. より多くの市民が里山と関わり整備にも参加することで、民間による山林整備を進める e. 山林にかかわる人材の仕事の確保により収益の安定化と仕事としての魅力化 f. 山林に関心ある地域内外の人材が雲南に定着 	<ul style="list-style-type: none"> b. 林政アドバイザー予算 c. 政策企画部の課題解決型人材育成事業 d. うんなんコミュニティ財団による基金（おっちラボからの拠出とふるさと納税等による資金集め） e. おっちラボ独自予算？ f. 林業課予算、特別交付金など

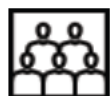
参考)フォレスターの人材像 - 役割、スキル、モデルの定義

- 林業における普遍的な課題やニーズへの対策として求められる基本要件のフレーム(OS)を以下の5項目に集約
- 前述の調査結果を踏まえ、各OSの定義は以下の通り



経営

- 戦略やプロジェクトの計画立案
- 数字やデータに基づく管理・分析
- ファイナンスや法務等のバックオフィス系知識



コネクト

- 組織やバリューチェーンを超えた価値創造のコーディネート
- 地域や業界を超えた価値創造のコーディネート



環境整備

- 林業経営に関わる実務レベルの知識習得とタスクの推進
- 山林の状況把握、分析、対策検討



啓蒙

- 企画や成果のアピールや価値訴求
- ビジョンや戦略・計画の伝播、定着化を推進



育成

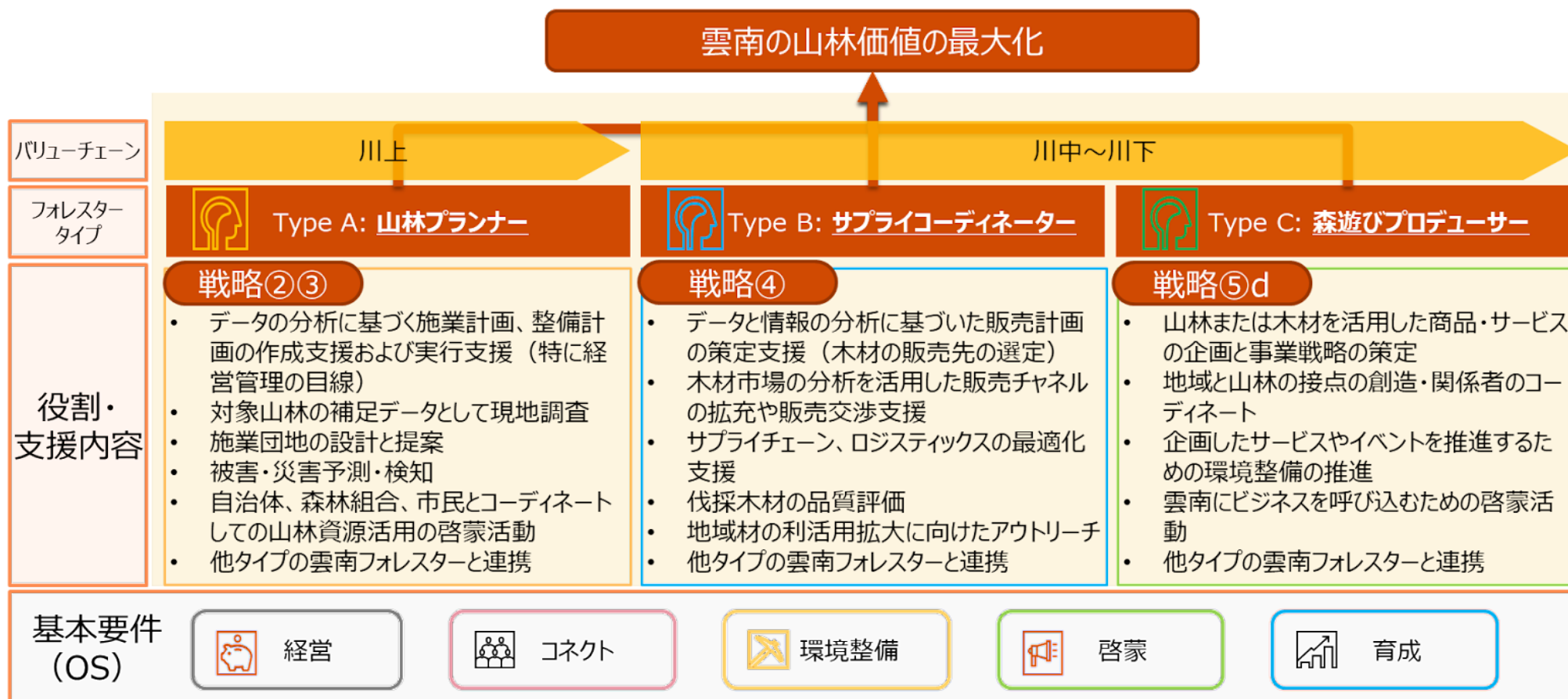
- 次世代の候補者へスキルの伝授
- 地域・組織に対して幅広く知識の伝搬・定着化を推進



雲南フォレスター

参考) フォレスターの人材像 - 役割、スキル、モデルの定義

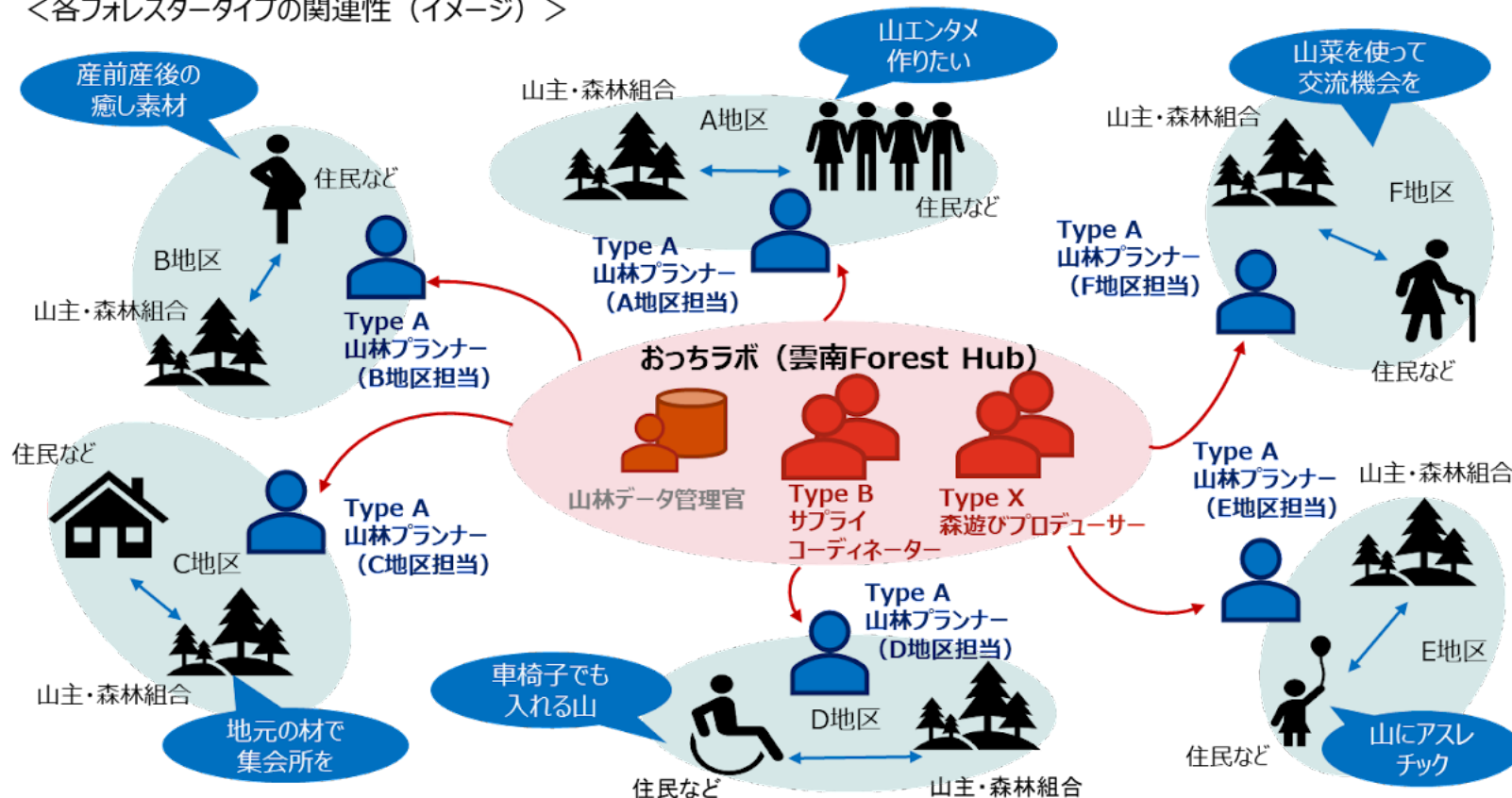
- 各OSの定義を踏まえ、雲南のビジョンと林業のバリューチェーンにおいて求められる役割（フォレスタータイプ）を設定
- 各フォレスタータイプは基本要件を備えつつ、各役割に特化することで「雲南の山林価値の最大化」を目指す



参考) フォレスターの人材像 - 役割、スキル、モデルの定義

- 各フォレスタータイプの役割と関連性について、イメージ案として以下の通り整理
- 山林プランナー (Type A) とサプライコーディネーター (Type B) は雲南Forest Hubに認定された機能としての役割を果たし、森遊びプロデューサーは住民や企業などが自由に山林活用に関与することで、相互に補完して“山林活用の自治”を果たすモデルを思料

<各フォレスタータイプの関連性 (イメージ) >



各フォレスタータイプの関連性

Type A 山林プランナー
 ・市、森林組合等の若手職員が対象。
 ・各担当地区の山主や住民などのニーズを把握、経営計画や事業企画に関する意思決定と推進に関与する
 (事業計画や補助金申請の承認など)
 ・雲南Forest Hubに認定・登録が必要
 (山林データなどForest Hubの機能や設備を活用可能)

Type B サプライコーディネーター
 ・木材生産や販売戦略の最適化・マーケティング施策や課題解決の推進に関与する
 ・雲南Forest Hubに認定・登録が必要
 (山林データなどForest Hubの機能や設備を活用可能)

Type C 森遊びプロデューサー
 ・山林を活用した事業サービスの企画や山と触れ合う機会の提案を行うことで関与する
 (自ら森に入り、企画の推進役を担う)
 ・雲南Forest Hubの認定は不要
 (地域住民や企業などを想定)
 → Type Aと兼ねるのが現実的か

第 6 期

決算報告書

平成 30 年 7 月 1 日から
平成 31 年 3 月 31 日まで

所在地 島根県雲南市木次町木次 29 番地

商号 特定非営利活動法人おっちラボ

代表者名 小俣 健三郎

貸借対照表

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位: 円)
平成31年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		買掛金	6,605
現 金	152,341	未払金	3,043,376
普通預金(663)	5,742,997	預り金	441,731
普通預金(ゆうちょ)	51,030	未払法人税等	60,700
現金・預金計	5,946,368	未払消費税等	180,000
(売上債権)		流動負債計	3,732,412
未収金	3,682,985	負債合計	3,732,412
売上債権計	3,682,985	正味財産の部	
(棚卸資産)		【正味財産】	
棚卸資産	63,450	前期繰越正味財産額	7,245,100
棚卸資産計	63,450	当期正味財産増減額	△ 394,309
流動資産合計	9,692,803	正味財産計	6,850,791
【固定資産】		正味財産合計	6,850,791
(無形固定資産)			
ソフトウェア	590,400		
無形固定資産計	590,400		
(投資その他の資産)			
投資有価証券	300,000		
投資その他の資産計	300,000		
固定資産合計	890,400		
資産合計	10,583,203	負債及び正味財産合計	10,583,203

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位:円)

自 平成30年 7月 1日 至 平成31年 3月31日

【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	72,000		
【受取寄付金】			
受取寄付金	11,176,710		
【事業収益】			
事業 収益	2,459,800		
受託事業収益	19,943,785		
【その他収益】			
受取 利息	52		
雑 収 益	861,958		
経常収益 計	861,958		34,514,305
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
給料 手当(事業)	13,889,339		
通 勤 費(事業)	272,362		
法定福利費(事業)	2,174,126		
人件費計	16,335,827		
(その他経費)			
売上 原価	65,208		
事業 支出	979,113		
業務委託費	2,400,000		
諸 謝 金	754,387		
印刷製本費(事業)	130,920		
会 議 費(事業)	5,000		
旅費交通費(事業)	5,101,707		
通信運搬費(事業)	96,218		
消耗品 費(事業)	176,663		
接待交際費(事業)	20,040		
新聞図書費(事業)	1,728		
販売促進費(事業)	50,855		
諸 会 費(事業)	2,500		
租税 公課(事業)	400		
研 修 費	676,296		
支払手数料(事業)	26,352		
支払寄付金	6,000		
その他経費計	10,493,387		
事業費 計	26,829,214		26,829,214
【管理費】			
(人件費)			
給料 手当	1,623,720		
役員 報酬	3,630,000		
通 勤 費	5,294		
法定福利費	188,665		
福利厚生費	60,913		
人件費計	5,508,592		
(その他経費)			
印刷製本費	306,759		
会 議 費	55,776		
旅費交通費	3,960		
通信運搬費	159,452		
消耗品 費	113,376		
水道光熱費	29,428		
地代 家賃	90,000		
広告宣伝費	314,595		
接待交際費	15,712		

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 おっちらボ
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 平成30年 7月 1日 至 平成31年 3月31日

	28,362	
新聞図書費	129,600	
減価償却費	1,092	
保険料	58,400	
諸会費	82,944	
リース料	862,850	
租税公課	67,956	
支払手数料	189,846	
雑費	2,510,108	
その他経費計		8,018,700
管理費計		34,847,914
経常費用計		△ 333,609
当期経常増減額		
【経常外収益】		
経常外収益計		0
【経常外費用】		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		△ 333,609
法人税、住民税及び事業税		60,700
当期正味財産増減額		△ 394,309
前期繰越正味財産額		7,245,100
次期繰越正味財産額		6,850,791

2018年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人おっちラボ

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
無形固定資産						
ソフトウェア	864,000			864,000	273,600	590,400
投資その他の資産						
投資有価証券	300,000			300,000	0	300,000
合計	1,164,000			1,164,000	273,600	890,400

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

4. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・ 事業費と管理費の案分方法

按分ではなく、科目毎に個別判断をしている。

第 7 期

決算報告書

平成 31 年 4 月 1 日から
令和 2 年 3 月 31 日まで

所在地 島根県雲南市木次町木次29番地

商号 特定非営利活動法人おっちラボ

代表者名 小俣 健三郎

貸借対照表

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位:円)
2020年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	1,404,867
現 金	50,591	前 受 金	30,000
普通 預金 (663)	6,554,674	預 り 金	231,317
普通 預金 (ゆうちょ)	1,320,020	未払法人税等	194,400
現金・預金 計	7,925,285	未払消費税等	531,400
(売上債権)		流動負債 計	2,391,984
未 収 金	895,331	負債合計	2,391,984
売上債権 計	895,331	正 味 財 産 の 部	
(棚卸資産)		【正味財産】	
棚卸 資産	26,608	前期繰越正味財産額	6,850,791
棚卸資産 計	26,608	当期正味財産増減額	332,049
(その他流動資産)		正味財産 計	7,182,840
仮 払 金	10,000	正味財産合計	7,182,840
その他流動資産 計	10,000		
流動資産合計	8,857,224		
【固定資産】			
(無形固定資産)			
ソフトウェア	417,600		
無形固定資産 計	417,600		
(投資その他の資産)			
投資有価証券	300,000		
投資その他の資産 計	300,000		
固定資産合計	717,600		
資産合計	9,574,824	負債及び正味財産合計	9,574,824

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位:円)

自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費 48,000

【受取寄付金】

受取寄付金 1,315,164

【事業収益】

事業収益 4,325,492

受託事業収益 22,740,611

【その他収益】

受取利息 69

雑収益 54,700

経常収益計

28,484,036

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料手当(事業) 8,782,214

通勤費(事業) 230,676

法定福利費(事業) 2,067,516

人件費計 11,080,406

(その他経費)

売上原価 93,929

業務委託費 2,477,400

諸謝金 1,717,262

印刷製本費(事業) 319,492

旅費交通費(事業) 2,130,360

通信運搬費(事業) 161,373

消耗品費(事業) 305,241

接待交際費(事業) 14,624

研修費 301,440

支払寄付金 8,000

その他経費計 7,529,121

事業費計

18,609,527

【管理費】

(人件費)

給料手当 1,528,540

役員報酬 4,560,000

通勤費 67,596

法定福利費 279,247

福利厚生費 49,485

人件費計 6,484,868

(その他経費)

会議費 39,090

通信運搬費 297,751

消耗品費 57,848

地代家賃 120,000

広告宣伝費 433,602

特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位:円)

自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日

接待交際費	23,450	
新聞図書費	10,245	
減価償却費	172,800	
諸会費	99,600	
リース料	196,992	
租税公課	1,128,100	
支払手数料	120,514	
雑費	163,200	
その他経費計	2,863,192	
管理費計		9,348,060
経常費用計		27,957,587
当期経常増減額		526,449
【経常外収益】		
経常外収益計		0
【経常外費用】		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		526,449
法人税、住民税及び事業税		194,400
当期正味財産増減額		332,049
前期繰越正味財産額		6,850,791
次期繰越正味財産額		7,182,840

2019年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人おっちらボ

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
無形固定資産						
ソフトウェア	864,000			864,000	446,400	417,600
投資その他の資産						
投資有価証券	300,000			300,000	0	300,000
合計	1,164,000			1,164,000	446,400	717,600

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

4. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・ 事業費と管理費の案分方法

按分ではなく、科目毎に個別判断をしている。

第 8 期

決算報告書

令和 2 年 4 月 1 日から

令和 3 年 3 月 31 日まで

所在地 島根県雲南市木次町木次 29 番地

商号 特定非営利活動法人おっちラボ

代表者名 小俣 健三郎

貸借対照表

特定非営利活動法人 おっちラボ
全事業所

[税込] (単位:円)
2021年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	588,288
現 金	6,749	前受金	6,000
普通預金(663)	1,172,172	預り金	173,999
普通預金(957)	1	未払法人税等	81,000
普通預金(ゆうちょ)	1,331,032	未払消費税等	357,700
現金・預金計	2,509,954	流動負債計	1,206,987
(売上債権)		負債合計	1,206,987
未収金	2,229,622	正味財産の部	
売上債権計	2,229,622	【正味財産】	
(棚卸資産)		前期繰越正味財産額	7,182,840
棚卸資産	11,340	当期正味財産増減額	△3,394,111
棚卸資産計	11,340	正味財産計	3,788,729
流動資産合計	4,750,916	正味財産合計	3,788,729
【固定資産】			
(無形固定資産)			
ソフトウェア	244,800		
無形固定資産計	244,800		
固定資産合計	244,800		
資産合計	4,995,716	負債及び正味財産合計	4,995,716

活 動 計 算 書

[税込] (単位:円)

特定非営利活動法人 おっちラボ

自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費 66,000

【受取寄付金】

受取寄付金 15,000

【事業収益】

事業 収益 383,350

受託事業収益 19,665,622 20,048,972

【その他収益】

受取 利息 52

雑 収 益 32,970 33,022

経常収益 計 20,162,994

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料 手当(事業) 675,000

通 勤 費(事業) 46,243

法定福利費(事業) 758,855

人件費計 1,480,098

(その他経費)

売上 原価 15,268

業務委託費(事業) 7,866,750

諸 謝 金(事業) 1,571,600

印刷製本費(事業) 141,294

旅費交通費(事業) 833,759

通信運搬費(事業) 234,375

消耗品 費(事業) 20,256

研 修 費(事業) 215,500

支払寄付金(事業) 1,005,000

その他経費計 11,903,802

事業費 計 13,383,900

【管理費】

(人件費)

給料 手当 1,082,000

役員 報酬 4,560,000

退 職 金 1,713,000

通 勤 費 7,092

法定福利費 222,534

福利厚生費 12,969

人件費計 7,597,595

(その他経費)

会 議 費 6,600

旅費交通費 1,500

通信運搬費 235,832

消耗品 費 41,536

地代 家賃 360,000

活 動 計 算 書

〔税込〕（単位：円）

特定非営利活動法人 おっちラボ

自 2020年 4月 1日 至 2021年 3月31日

広告宣伝費	572,000	
新聞図書費	1,850	
減価償却費	172,800	
諸 会 費	45,600	
リース 料	140,832	
租税 公課	996,310	
支払手数料	54,750	
雑 費	165,000	
その他経費計	2,794,610	
管理費 計		10,392,205
経常費用 計		23,776,105
当期経常増減額		△3,613,111
【経常外収益】		
有価証券売却益		300,000
経常外収益 計		300,000
【経常外費用】		
経常外費用 計		0
税引前当期正味財産増減額		△3,313,111
法人税、住民税及び事業税		81,000
当期正味財産増減額		△3,394,111
前期繰越正味財産額		7,182,840
次期繰越正味財産額		3,788,729

2020年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人おっちらボ

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
無形固定資産						
ソフトウェア	864,000			864,000	△ 619,200	244,800
投資その他の資産						
投資有価証券	300,000		300,000	0	0	0
合計	1,164,000		300,000	864,000	619,200	244,800

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

4. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・ 事業費と管理費の案分方法

按分ではなく、科目毎に個別判断をしている。

監査報告書

2021年 5 月 24日

特定非営利活動法人おっちラボ
代表理事 小俣 健三郎 殿

監 事 木村 守 登

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人おっちラボの2020年（令和2年）度の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2020年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人おっちラボの2021年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上

監査報告書

2020年5月12日

特定非営利活動法人おっちラボ
代表理事 小俣 健三郎 殿

監事 木村守登

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人おっちラボの2019年度の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2019年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人おっちラボの2020年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上

監査報告書

2019年5月22日

特定非営利活動法人おっちらボ
代表理事 小俣健三郎 殿

監 事 木村 宇彦

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人おっちらボの2018年度（2018年7月1日から2019年3月31日まで）の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、定款及び2017年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人おっちらボの2019年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上